

札幌市アイスリンク基本構想

令和6年（2024年）1月

札幌市

－ 目 次 －

序 章	1
はじめに（策定の目的・必要性）	1
1 本構想の位置付け	2
2 本構想の対象施設	2
3 上位計画等	3
第1章 目標・方針	9
1 目標	9
2 方針	9
第2章 アイスリンクの現状	10
1 スケートリンク	10
1－1 基本情報	10
1－2 施設利用状況	14
1－3 アイスホッケー競技の状況	16
1－4 フィギュアスケート競技の状況	19
1－5 ショートトラック競技の状況	23
1－6 スケートリンクの現状整理	26
2 スピードスケートトラック	28
2－1 基本情報	28
2－2 施設利用状況	29
2－3 スピードスケート競技の状況	29
2－4 スピードスケートトラックの現状整理	32
3 カーリングリンク	33
3－1 基本情報	33
3－2 施設利用状況	35
3－3 カーリング競技の状況	36
3－4 カーリングリンクの現状整理	39
第3章 アイスリンクの将来像	41
1 対応の方向性	41
2 具体的な対応	42
第4章 今後の進め方	53
1 各施設における具体的な対応	53
2 氷上競技の裾野拡大に向けた民間施設整備の推進	53
3 その他、留意事項	53
4 構想の見直し	54

参考資料	55
------	----

I 市民意見把握の取組	55
(1) 施設の利用に関するアンケート調査	55
(2) パブリックコメント	80
II 用語解説	94

はじめに（策定の目的・必要性）

札幌市では、「札幌市スポーツ推進計画（改定版）」（令和元年（2019 年）策定）において、“～スポーツの力でさっぽろの「未来」をつくる～スポーツ元気都市さっぽろ”を基本理念に掲げ、この実現を目指し様々な取組を進めています。

基本理念の実現にあたっては、積雪寒冷地である札幌市において、厳しい冬を楽しみ、まちににぎわいを与えるウインタースポーツの振興を重要な施策として位置付け、市民がウインタースポーツに親しめる多様な機会を創出し、また、こうした取組を通じてウインタースポーツの拠点都市への発展を目指すこととしています。

一方で、札幌市のインフラ施設は、人口増加・都市化が急速に進んだ 1970 年頃から 1980 年代までに一斉に整備されたものが多く、今後、人口減少社会や超高齢社会が進展していく中で、これら老朽化が進んだ施設の更新等にあたっては、将来にわたり必要な機能を見極め、対応していくことが必要となります。

こうした状況はスポーツ施設も同様であり、市民がウインタースポーツに取り組むうえで重要な施設であるアイスリンクについては、その多くが 1972 年の札幌オリンピック開催に併せ整備され、2030 年頃に更新時期を迎えます。

「札幌市アイスリンク基本構想（以下「本構想」という。）」は、市内におけるアイスリンクについて、施設利用や競技環境などの状況を踏まえ、将来に向け必要な機能や役割などを整理するとともに、その将来像の実現に向けた必要な対応を明らかにすることを目的に策定するものです。

更新時期を迎える 既存施設の対応を明確化

- 更新時期（2030 年頃）が近づいている、1972 年札幌オリンピックに併せ整備した施設について、今後の対応を明らかにすることが必要

将来に向け必要な 施設機能を明確化

- 時代の変化や将来的な見通しを踏まえ、今後、確保すべき施設機能を明らかにすることが必要

【本構想の目的】

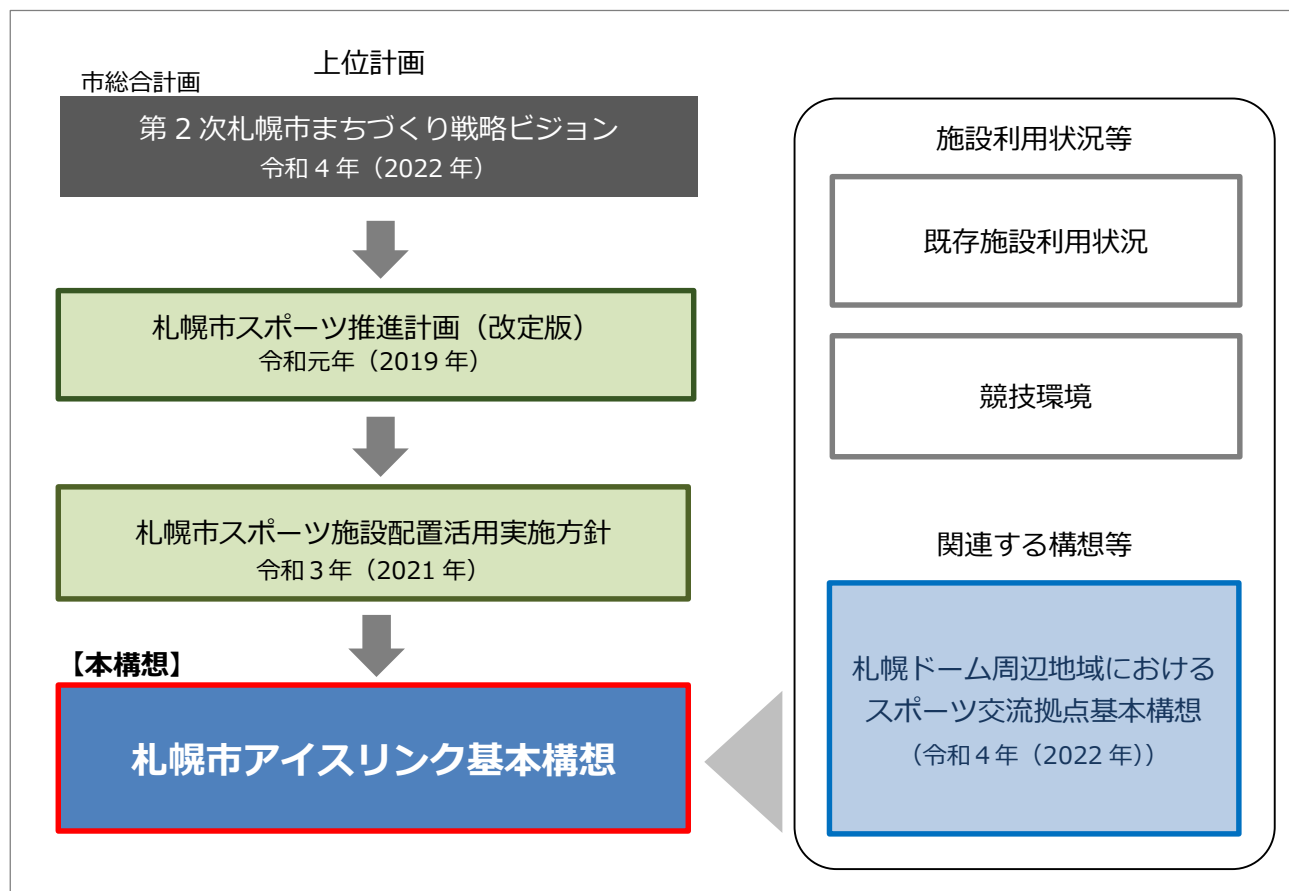
アイスリンクの将来像及びその実現に向け必要な対応を明確化

1 本構想の位置付け

本構想は、札幌市におけるまちづくりの最上位計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」やスポーツ振興の方向性を示す「札幌市スポーツ推進計画（改定版）」、スポーツ施設を中長期的に展望し必要な取組の方向性を示した「札幌市スポーツ施設配置活用実施方針」を上位計画とし、市内におけるアイスリンク施設の将来像及び必要な対応を明らかにするものです。

策定にあたっては、現在の施設利用内容や各競技が置かれている状況などから課題を把握し、これに基づき将来に向け必要な機能を整理したうえで、関連する他の構想等との整合性を図りながら、具体化に向けた対応の方向性を設定するものとします。

<本構想の位置付け>



2 本構想の対象施設

本構想の対象施設は、札幌市が所管するアイスリンク（スケートリンク、カーリングリンク）とします。ただし、必要な機能等の整理にあたっては、市内に立地する北海道所管の施設（スケートリンク、スピードスケートトラック）の状況も踏まえることとします。

3 上位計画等

(1) 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン：令和4年（2022年）策定

第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、『「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ』を目指すべき都市像に掲げ、この実現に向けた“まちづくりの重要概念”として、「ユニバーサル（共生）」・「ウェルネス（健康）」・「スマート（快適・先端）」を定めています。

この重要概念のほか、札幌市の強みや弱み、機会と脅威を整理するとともに、SDGsの理念やゴールを踏まえて考察し、8つの「まちづくりの分野」と20の「まちづくりの基本目標」を定め、基本目標ごとに取り組む施策を掲げています。

その中で、本構想に特に関連するものは以下のとおりです。

まちづくりの分野	まちづくりの基本目標	関連施策
6 スポーツ・文化	13 世界屈指のウィンタースポーツシティ	(1)-① ウィンタースポーツに参加しやすい環境づくり (1)-② 将来のウィンタースポーツアスリートの発掘・支援 (2)-② ウィンタースポーツ大会の開催・誘致
	14 四季を通じて誰もがスポーツを楽しむことができるまち	(1)-① 誰もがスポーツを楽しむことができる環境づくり (1)-② スポーツを通じた健康づくり (2)-① スポーツを通じた地域経済の活性化
8 都市空間	20 都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち	(1)-① 公共のインフラなどの効率的な維持・保全や施設規模の適正化 (2)-① 公共施設などにおける多様な柔軟なサービスの提供

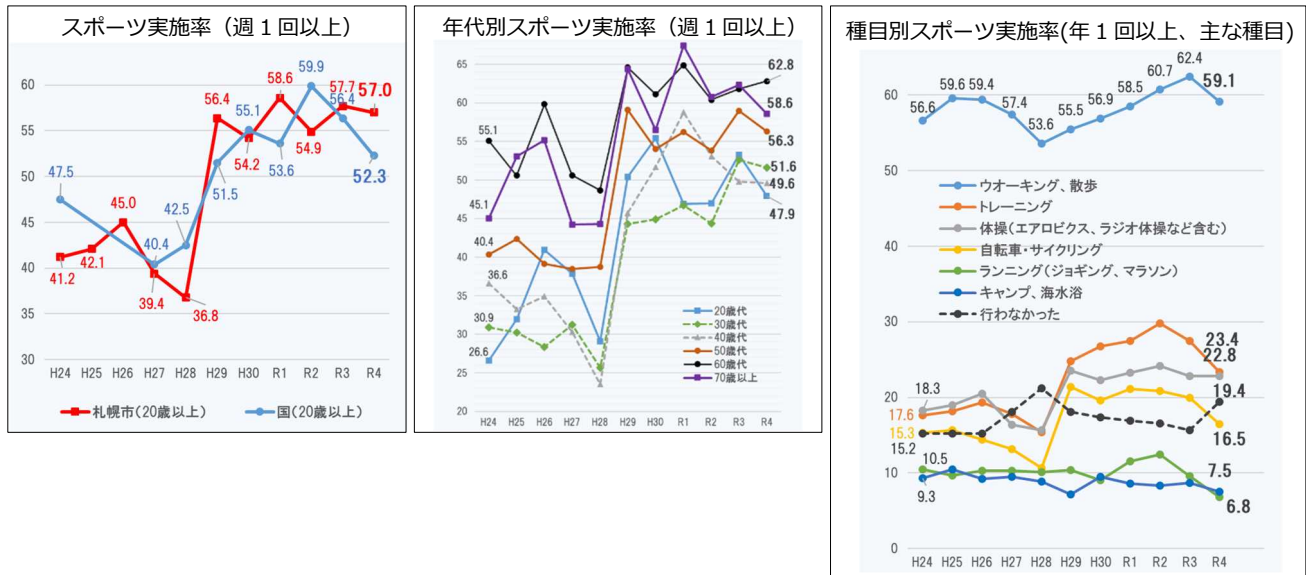
(2) 札幌市スポーツ推進計画（改定版）：令和元年（2019年）策定

■札幌市スポーツ推進計画における達成状況と課題

「札幌市スポーツ推進計画（改定版）」では、基本理念である“スポーツ元気都市さっぽろ”を実現するため、“スポーツの力で「市民」がかがやく”、“スポーツの力で「さっぽろ」をかえる”、“スポーツの力で「世界」へつながる”の3つの目標及び具体的な成果指標・目標値を定めています。ここでは令和4年度（2022年度）における状況を基に、現状と課題を整理します。

①スポーツ実施率

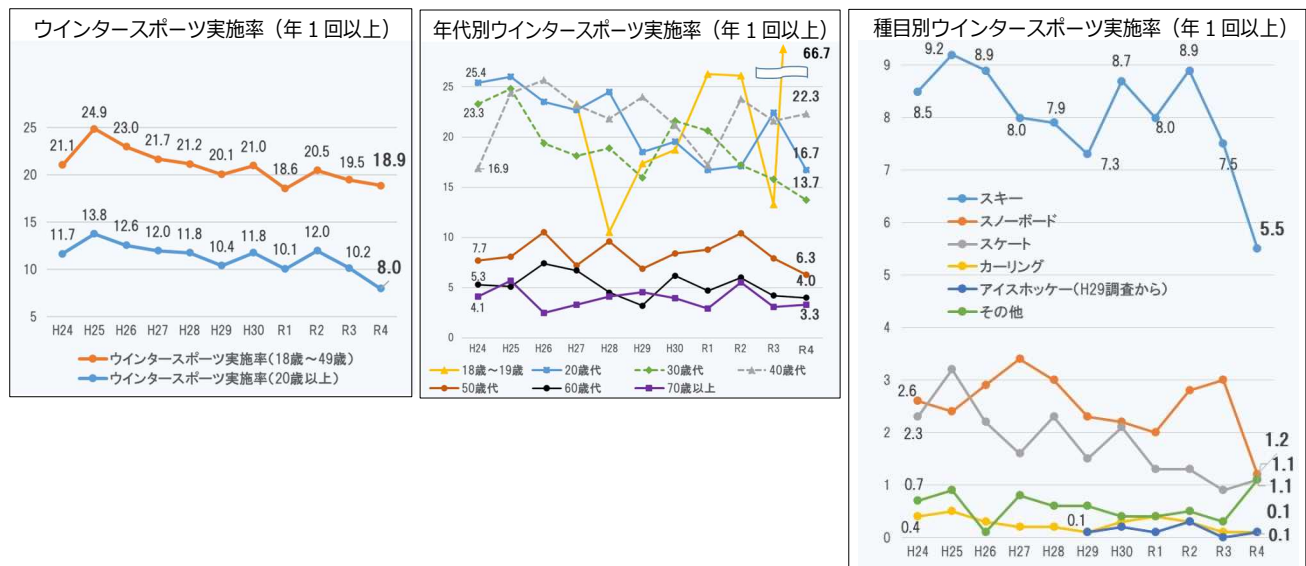
札幌市におけるスポーツ実施率は、平成 29 年度から上昇に転じ、令和 4 年度は 57.0%となっています。しかし、目標の 65%には達しておらず、特に 40 歳代以下の比較的若い世代のスポーツ実施率は 50 歳代以上よりも低い状況です。スポーツの実施を妨げる理由は、30～40 歳代の 50%を超える方が「仕事や家事が忙しい」ことを挙げており、ビジネスパーソンや子育て世代のスポーツ実施へのハードルを下げるのが課題となっています。



出典：いずれも指標達成度調査（R4）

②ウィンタースポーツ実施率

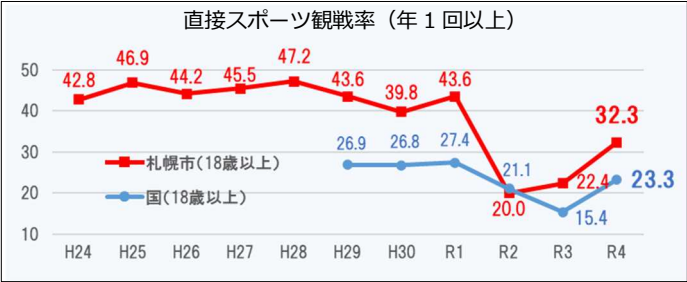
札幌の文化であるウィンタースポーツの実施率は近年減少傾向にあり、令和 4 年度は 18.9%に留まっています。ウィンタースポーツ実施率を年代別でみると、上述“①スポーツ実施率”と異なり、若年層が高く、高齢者層ほど低い傾向にあります。このため、ウィンタースポーツの振興にあたっては、幅広い年齢層が地域など身近な場所で気軽に楽しめる環境づくりなどが重要と考えられます。こうした環境づくりは、元々スポーツ実施率が高い高齢者層のウィンタースポーツに触れる機会の増加につながるなど、札幌市全体のスポーツ実施率の向上にも寄与することが期待されます。



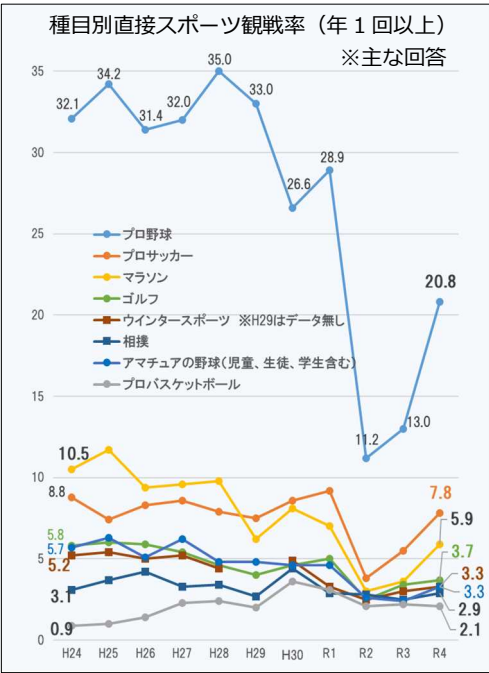
出典：いずれも指標達成度調査（R4）

③直接スポーツ観戦率

札幌市では、プロスポーツチーム等と連携・協力し、観戦機会の充実による「みる」文化の醸成や、競技人口の拡大を図っていますが、市民の直接スポーツ観戦率は概ね横ばいで推移し、令和元年度は43.6%となっています。スポーツ観戦する人の増加にあたっては、市民がトップスポーツチーム等に気軽に触れることができるきっかけづくりなどが重要と考えられます。



※令和2年度以降の観戦率減は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響



出典：いずれも指標達成度調査（R4）

※成果指標の達成状況（指標達成度調査、障がい者の運動などの活動に関するアンケート調査より作成）

成果指標		設定時 平成24年度(2012年度)	現状値 令和4年度（2022年度）	目標値 令和4年度（2022年度）
スポーツ 実施率	20歳以上、週1回以上	41.2%	57.0%	65.0%
	障がいのある方／20歳以上、週1回以上	-	53.6%	50.0%
ウィンタースポーツ実施率 (18～49歳、年1回以上)		21.1%	18.9%	25.0%
直接スポーツ観戦率 (18歳以上、年1回以上)		42.8%	32.3%	50.0%

（３）札幌市スポーツ施設配置活用実施方針：令和３年（２０２１年）策定

札幌市スポーツ施設配置活用実施方針では、『スポーツを通じて「共生のまち」を支え、未来へつなぐ札幌型施設環境の実現』を基本理念とし、この基本理念の実現に向けた目標と取組、施設機能ごとの「配置活用方針」及び「概ね 10 年間の取組事項」を示しています。

この中で、スケート場・カーリング場については、札幌市のウィンタースポーツを支えるうえで必要不可欠な施設であることから、今後も引き続き機能維持を図るとともに、ウィンタースポーツの振興、ウィンタースポーツの拠点都市への発展に向け、必要な施設環境の整備を進めていくこととしています。

【基本理念】スポーツを通じて「共生のまち」を支え、未来へつなぐ札幌型施設環境の実現

【目標・取組】

■目標 1：持続可能な施設配置の実現

- ・取組 1：スポーツ施設の効率的・効果的な配置・運用
- ・取組 2：スポーツをする場の多様な担い手確保・連携

■目標 2：多様性のあるスポーツ環境の実現

- ・取組 3：スポーツ施設の機能向上
- ・取組 4：共生社会を実現するスポーツ環境の充実
- ・取組 5：経済・まちの活性化に貢献するスポーツ環境の充実
- ・取組 6：ウィンタースポーツの拠点都市として相応しい環境の充実

【スケート場・カーリング場における取組】

■配置活用方針

スケート場、カーリング場は、ウィンタースポーツの振興に向け
機能維持・強化を図るとともに、他施設との集約など、効率的・効果的な配置を推進

- ①スケート場等はウィンタースポーツを支える機能を担う
- ②施設の集約、機能向上（周辺にある施設との集約、新たなニーズ等への対応など）
- ③利便性確保・拠点性向上（地域交流拠点や高次機能交流拠点への集積など）
- ④計画的な維持修繕、長寿命化等による施設の有効活用

■概ね 10 年間の取組事項

2030 年頃に築 60 年を迎える月寒体育館、美香保体育館の更新検討

①月寒体育館、美香保体育館の更新検討

- ・更新施設の機能は、ウィンタースポーツの振興や、ウィンタースポーツの拠点都市としての地位確立に向けて必要となる施設環境を踏まえ検討
- ・更新施設の立地等は、地域のまちづくりとの連携による利便性確保及び拠点性向上や、他の施設との集約（複合化・多目的化）による、効率的・効果的な施設配置を検討

（４）札幌ドーム周辺地域におけるスポーツ交流拠点基本構想：令和４年（２０２２年）策定

高次機能交流拠点の一つである「札幌ドーム周辺」について、スポーツや集客交流産業の振興などに関わる拠点性及び札幌の魅力と活力の向上を先導することを目指した「スポーツ交流拠点」の形成を図るため、その目的や在り方、拠点整備の基本方針を定めています。

【スポーツ交流拠点の目的】

- 多世代・多様な市民におけるスポーツの振興
- スポーツを通じた健康寿命の延伸
- 拠点性の向上による経済・まちの活性化

【スポーツ交流拠点の在り方】

●基本理念

- １．自分にあったスポーツの楽しみ方に出会える機会の提供
- ２．アスリートの発掘・強化とスポーツをささえる人材の育成
- ３．施設集約と拠点性向上による経済・まちの活性化
- ４．守り受け継がれてきた地域資源の活用

●拠点整備の基本方針

１）札幌ドーム

- ・多目的市民利用施設としての能力、可能性を最大限発揮させるため、アマチュアスポーツ等の開催支援や多様なイベントの開催等に対応するための機能拡充による活用推進を検討

２）アリーナ

- ・主にプロスポーツの試合やイベントの開催等に活用するための「みる」スポーツ施設として、アリーナの整備を検討

３）屋内・屋外スポーツ施設

- ・年齢や障がいの有無に関わらず利用可能な屋内・屋外スポーツ施設の整備について、周辺スポーツ施設等の集約化・機能の複合化、アリーナとの併設等による、効率的な整備・運用を検討

４）にぎわい施設

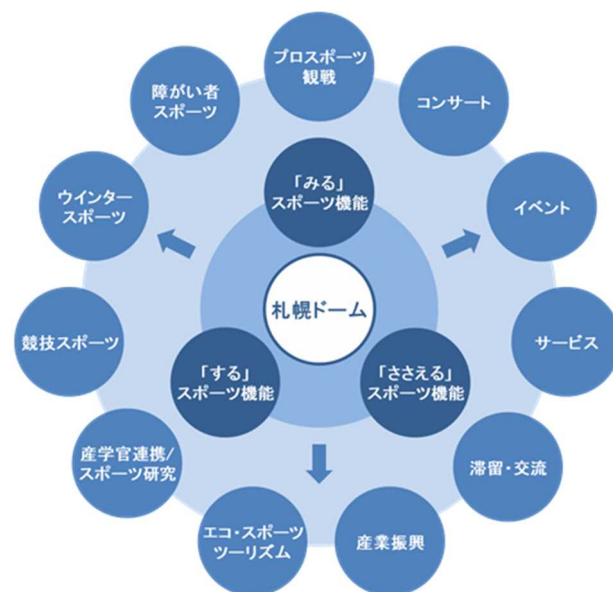
- ・札幌ドームやアリーナとの相乗効果による交流拠点としてのにぎわい創出等に寄与する多様な施設の整備を検討

５）その他の機能・施設

- ・「する」「みる」「ささえる」様々な機能を補完する施設や、拠点性を向上・補完する機能について検討

●期待される効果

- ①誰もがスポーツにふれられる機会の創出
- ②スポーツを通じた健康づくり
- ③障がい者スポーツ活動の場の拡充
- ④アスリートや指導者の輩出
- ⑤施設の総量適正化と機能向上
- ⑥地元への愛着の醸成と魅力発信
- ⑦スポーツ施設のプロフィットセンター化
- ⑧札幌ドームの活性化
- ⑨地域資源の発見や新たな活用創出
- ⑩多機能・集約化による経済・まちの活性化



スポーツ交流拠点整備イメージ

(5) 持続可能な開発目標 (SDGs)

「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、「国連持続可能な開発サミット」(平成 27 年 (2015 年) 9 月開催) で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」において、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と戦い、気候変動に対処しながら、誰一人取り残されないようにするための、2030 年に向けた国際目標として定められました。

この開発目標は、持続可能な世界を実現するための 17 のゴール (目標) と 169 のターゲット (取組・手段) から構成されています。

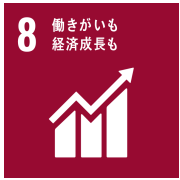
札幌市は「SDGs 未来都市」に選定されており、「札幌市 SDGs

未来都市計画」(平成 30 年 (2018 年) 策定) において、総合的な実施計画の策定や各種取り組みに際して、SDGs の視点や趣旨を反映させることとしています。

スポーツは、SDGs の 17 項目それぞれの目標達成に向けた課題に取り組む潜在的能力を備えた重要かつ強力なツールとして、その役割を果たすことが期待されています。

国際連合広報センター (UNIC) では、SDGs におけるスポーツの取組・考え方を目標ごとに示しており、その中で、本構想に関連するものは以下のとおりです。



目 標		目標に対する取組・考え方
	3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	運動とスポーツを行うことは、アクティブなライフスタイルと精神的な安定をもたらす、また健康問題の教育ツールにもなります。
	4. すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	スポーツを中心とするプログラムは、学校や職場・社会生活でも応用できるスキルの取得に向けた基盤になりえます。
	8. すべての人のための包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する	スポーツ産業・事業の生産は、雇用可能性の向上と雇用増大の機会を提供します。この枠組みにおいて、スポーツはより幅広いコミュニティを動員し、スポーツ関連の経済活動を成長させる動機にもなります。
	11. 都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする	気軽に利用できるスポーツ施設やサービスは、この目標の達成に資するだけでなく、他の方面での施策で包摂的かつレジリエントな手法を採用する際の模範例にもなりえます。

※出典：国際連合広報センター (UNIC) 「スポーツと持続可能な開発 (SDGs)」, 2016

第1章 目標・方針

市内におけるアイスリンクの施設環境について、目指す目標及び目標実現に向けた方針を、以下のとおり設定します。

1 目標

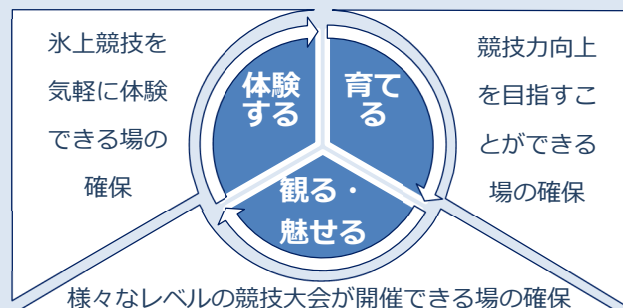
ウィンタースポーツシティの実現に向けた アイスリンク施設環境の形成

札幌市のウィンタースポーツを支えるうえで不可欠なアイスリンク（スケートリンク・スピードスケートトラック・カーリングリンク）について、ウィンタースポーツの振興、ウィンタースポーツシティの実現に向け、市民や国内外からの観光客など、誰もが気軽に氷上競技に触れ、取り組むことが出来るとともに、人口減少社会や超高齢社会が進展していく中にあっても持続可能な施設環境の形成を目指します。

2 方針

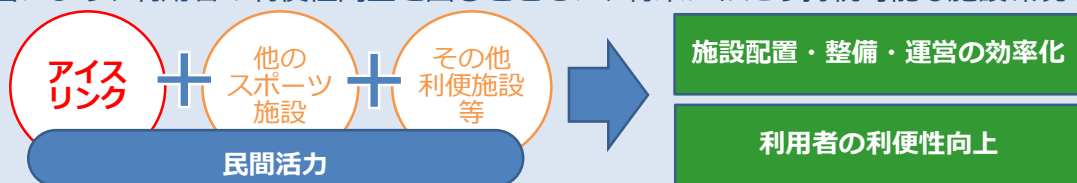
方針1 氷上競技の振興・裾野拡大

・現在の施設利用状況や、競技環境の変化等を踏まえ、将来にわたり氷上競技を「体験する」「育てる」「観る・魅せる」ために必要な施設機能を確保することにより、競技振興・裾野拡大に寄与



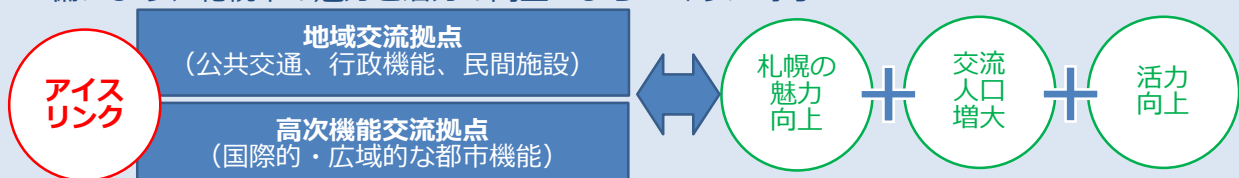
方針2 持続可能な施設環境の整備

・他施設との集約・複合化、民間活力の導入等による効率的・効果的な施設配置・整備・運営により、利用者の利便性向上を図るとともに、将来にわたり持続可能な施設環境を実現



方針3 都市の魅力向上・まちづくりへの寄与

・多様な都市機能が集積する地域交流拠点や、高次機能交流拠点の形成等と連携した施設整備により、札幌市の魅力と活力の向上・まちづくりに寄与



第2章 アイスリンクの現状

市内におけるアイスリンクについて、将来に向けた必要な対応を具体化するため、始めに現在の施設利用や、各競技（スケートリンク、スピードスケートトラック、カーリングリンク）における「体験する」「育てる」「観る・魅せる」の3つの場に応じた状況を整理します。

「体験する場」	施設の一般利用や、各競技の1日体験・期間限定の教室（例：札幌市スポーツ協会主催の教室、市主催の体験会（ウインタースポーツ塾）等）など、氷上競技に触れ親しむ場
「育てる場」	各競技の協会や連盟に所属する競技者が、練習など競技力向上に取り組む場
「観る・魅せる場」	市民大会から地方大会・国際大会まで、プロ・アマチュア問わず、個人や集団同士が互いに練習などの成果を発表し競い合う場

1 スケートリンク

現在、市内に屋内のスケートリンクは、市所管の3施設、北海道所管の1施設があります。

市民が日常的にスケートに触れ親しむ「体験する場」として、また、アイスホッケーやフィギュアスケート、ショートトラックの各競技を「体験する」「育てる」「観る・魅せる」場として、重要な役割を担っています。

市内のスケートリンクは、公設の4施設のみであるため、この4施設が日常的な練習から公式試合・大会まで、ほぼ全ての活動の場となっています。

市内にある4施設のうち、一年を通じスケートリンクとして利用可能なのは2施設のみであることから、夏季の競技環境が不十分な状況もみられます。

1-1 基本情報

(1) スケートリンク施設一覧

施設名 (整備年度)	所 在	構造・階数	延床面積	リンク 利用期間	利用時間 (うち一般開放)	備 考
月寒体育館 (1971)	豊平区 月寒東 1条8丁目	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上1階 地下1階	9,780 m ²	通年	6:00~22:45 (10:00~17:30)	・客席 2,321 席 ・アイスホッケー、フィギュアスケート、ショートトラックに利用 ・各競技の国際・全国大会等を開催
美香保体育館 (1971)	東区 北 22 条 東 5 丁目	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上2階	6,655 m ²	11/1 ~ 4/30	10:00~21:00 (10:00~17:30)	・客席 1,271 席 ・フィギュアスケート、ショートトラックに利用（アイスホッケー未対応（ガードフェンス未設置）） ・上記競技の地方大会等を開催 ・月2回程度、夜間にカーリングリンク（4シート）として利用 ・夏季は体育館として利用
星置スケート場 (1985)	手稲区 星置2条 1丁目	鉄骨造 平屋	3,175 m ²	通年	10:00~22:00 (土日 13:30~17:30)	・客席なし ・アイスホッケー、フィギュアスケートに利用（ショートトラック未対応（セーフティマット未設置）） ・上記競技の地方大会等を開催 ・篤志家の寄附を受け供用開始
〔参考〕 北海道立 真駒内公園 屋内競技場／ 真駒内セキスイ ハイムアイスア リーナ (1970)	南区 真駒内公園	鉄骨鉄筋 コンクリート造 地上3階 地下1階	18,890 m ²	12月末 ~ 2月	9:00~21:00	※北海道所管 ・客席 6,024 席のほか、移動席約 4,000 席 ・アイスホッケー、フィギュアスケートに利用 ・各競技の国際大会等を開催 ・夏季は体育館として利用 ・コンサート等の興行イベントにも利用

- 月寒体育館、美香保体育館、北海道立真駒内公園屋内競技場／真駒内セキスイハイムアイスアリーナ（以下「真駒内セキスイハイムアイスアリーナ」という。）は、1972 年の札幌オリンピック開催に併せ整備され、市内におけるスケート場として長く親しまれています。
- 北海道所管の真駒内セキスイハイムアイスアリーナは、最大 10,000 人程度の観客を収容可能であり、トップレベルのスポーツのほか、コンサートの開催など、多目的に利用されています。

(2) 市所管施設の状況

【月寒体育館】

- 1年を通じて、市民の日常的な利用のほか、スケートリンクで行う各競技に利用され、観客席を約 2,000 席有することから、国際大会や全国大会なども行われています。
- 1972 年の札幌オリンピックに併せ整備され、現在、建設から 50 年程度が経過し、老朽化が進んでおり、2030 年頃に鉄筋コンクリート造建築物の更新時期の目安となる築 60 年を迎えます。
- コンクリートの中性化の進行による躯体の劣化のほか、大会開催の際における更衣室等の諸室不足、パラスポーツであるパラアイスホッケーを行う際、リンクに出入りする部分の段差が支障となるなど、施設機能面で課題があります。



外観



スケートリンク（通年）

【美香保体育館】

- スケートリンクとして供用可能な冬季間は、市民の日常的な利用のほか、フィギュアスケート及びショートトラック競技に利用されています（アイスホッケーに未対応（パックのリンク外への逸脱防止のためのガードフェンス等未設置））。
- 1972 年の札幌オリンピックに併せ整備され、現在、建設から 50 年程度が経過し、老朽化が進んでおり、2030 年頃に鉄筋コンクリート造建築物の更新時期の目安となる築 60 年を迎えます。
- 建物の断熱性能等から、夏季はアイスリンクの維持に必要な温度を保つことが難しいため、冬季のみスケートリンクとし、夏季は体育館として利用しています。
- 断熱性能のほか、大会開催の際における更衣室等の諸室不足など、施設機能面で課題があります。



外観



スケートリンク（冬季）



体育館（夏季）

【星置スケート場】

- 1年を通じて、市民の日常的な利用のほか、アイスホッケー及びフィギュアスケート競技に利用されています（ショートトラックに未対応（選手が転倒した際にフェンスに衝突する衝撃を緩和するセーフティマットが未設置））。
- 昭和 60 年度（1985 年度）に篤志家の寄附を受け、通年スケートリンクとして供用しており、鉄骨造の更新時期の目安となる築 60 年（2045 年頃）を迎えるまで、20 年以上あります。
- アイスリンクの状態は、通年で安定しています。
- リンクに出入りする部分に段差があるため、パラスポーツであるパラアイスホッケーを行ううえで支障があります。



外観

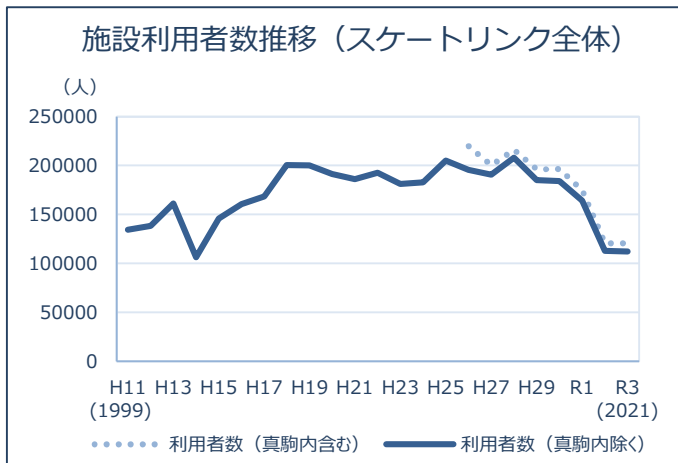


スケートリンク（通年）

1-2 施設利用状況

(1) 施設利用者数

- 近年における市内のスケートリンク年間延べ利用者数は、施設の改修・修繕等に伴う閉鎖や新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による影響を除くと、市所管3施設の合計が約19万人、北海道所管1施設が約1万人で推移しています。
- 平成29年度(2017年度)における市内4施設の利用者のうち、予約が不要な一般利用は約9.5万人(49%)、本格的な競技や教室のための専用利用は約9.8万人(51%)となっています。



※真駒内セキスイハイムアイスアリーナの利用者数は、記録がある平成26年度より計上
 ※平成14年度頃の利用者数減は、月寒体育館が平成14年2月～平成15年10月まで改修工事により閉鎖していた影響
 ※令和元年度以降の利用者数減は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響

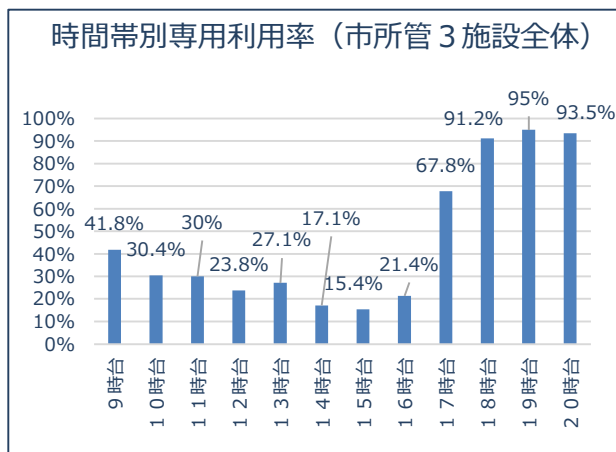
(2) 施設利用内容

【一般利用】

- 市所管3施設について、予約をせずに利用できる一般利用時間は、昼間を中心に全体の利用時間の6割程度とし、レクリエーション目的のほか、各競技の補足的な個人練習にも利用されています。
- 令和4年度(2022年度)における一般利用者数は、1施設あたり平均約115人・日であり、冬休み時期には800人・日を超える施設もあるなど、多くの市民に利用されています。

【専用利用】

- 市所管3施設の専用利用は、全体の利用時間の4割程度とし、各競技の練習や大会開催のほか、体験教室などにも利用されています。
- 各競技は、リンク全面が必要であることや安全を確保する観点から専用利用により行われており、その時間帯は競技者が時間を確保しやすい早朝・夜間に集中していることが特徴的です。
- 夜間の専用利用率は90%以上と非常に高く、状況に応じて施設の開放時間を延長し対応しています。



※月寒体育館、美香保体育館、星置スケート場の平成29年度利用実績より集計

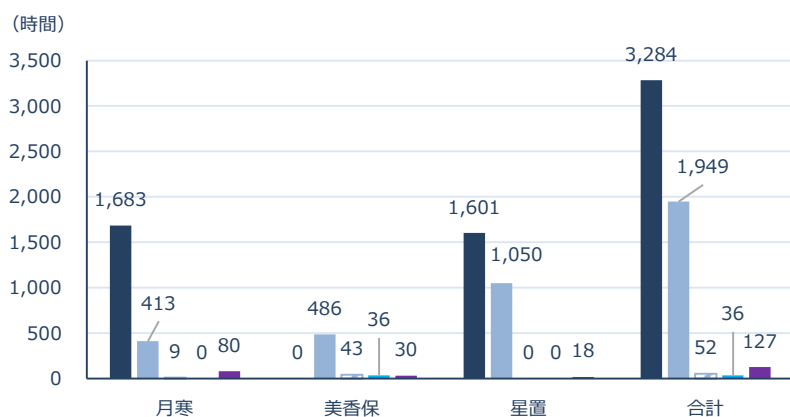
【競技別専用利用時間】

- 市所管3施設の専用利用は、アイスホッケーが利用時間全体の約60%を占め、次いでフィギュアスケートが約36%となっています。
- 冬季は4施設が利用可能であるのに対し、夏季は月寒体育館と星置スケート場の2施設に半減することから、特に美香保体育館を利用しているフィギュアスケートとショートトラックについて、季節による練習時間の差が大きくなっています。

<競技別利用時間（市所管3施設全体）：平成29年度（2017年度）実績>

	専用利用占有率	季節別利用時間		
		冬季利用時間	夏季利用時間	冬季→夏季減少率
アイスホッケー	約60.3%	1,642時間	1,641時間	±0%
フィギュアスケート	約35.8%	1,148時間	801時間	▲30.2%
ショートトラック	約1.0%	43時間	9時間	▲79.1%

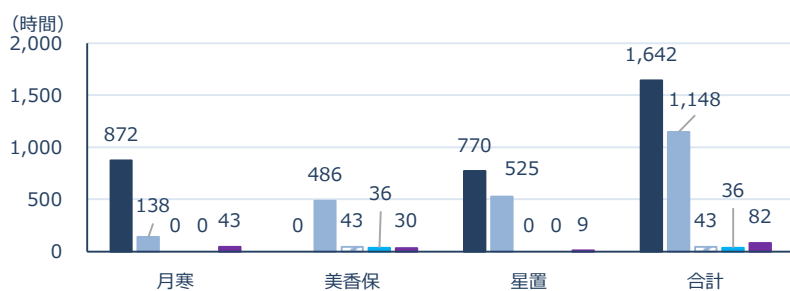
競技別スケートリンク利用状況（通年）



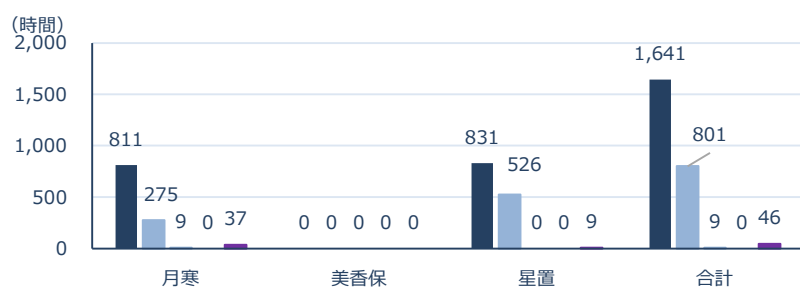
（凡例）

- アイスホッケー
- フィギュアスケート
- ショートトラック
- カーリング
- スケート（学校授業等）

競技別スケートリンク利用状況(冬季：11月～4月)



競技別スケートリンク利用状況(夏季：5月～10月)



※端数調整により各施設それぞれの合計値と記載の合計値が一致しない場合がある。

1-3 アイスホッケー競技の状況

(1) 体験する場

【体験会等の開催状況】

- アイスホッケーを「体験する場」として、市や(一財)札幌市スポーツ協会（以下「施設管理者」という。）が体験会を開催しているほか、各チームも随時、体験希望者を受け入れています。
- 市主催の小学生を対象とした「ウインタースポーツ塾 in Summer」は、定員を大幅に上回る応募があり、施設管理者が主催する 16 歳以上または幼児～小学生が対象の体験会の参加者は定員の約 68%となっています（令和 4 年度実績）。
- 体験会等は、費用や指導者の確保が可能な範囲で行われており、現在、施設機能として「体験する場」が不足している状況にはありません。

＜令和 4 年度の体験会等の実績＞

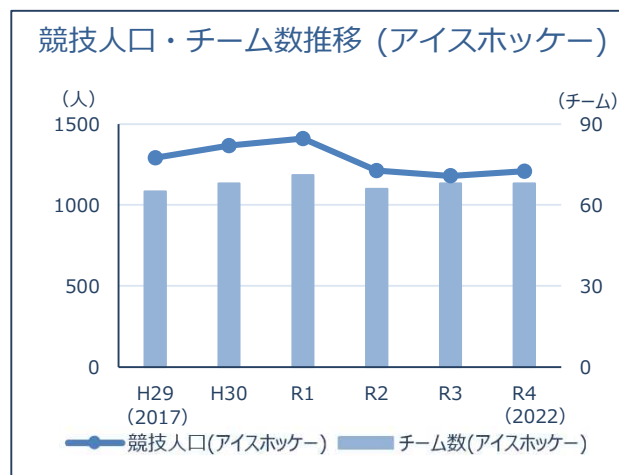
※札幌市、施設管理者が主催する体験会等の実績（その他、各チームが体験希望の受け入れを実施）

名 称	開催期間ほか	会 場	対 象	定 員(名)	参加者数(名)	応募者数(名)
ウインター スポーツ塾 in Summer	8 月 5 日午後 (1 回)	月寒 体育館	小学生	60	60	154
成人 アイスホッケー	春・夏 (各 6 回)	月寒 体育館	16 歳以上	90 (各 45)	78	—
ジュニア アイスホッケー	春・夏・秋・冬 (各 10 回程度)		年少～小学生	120 (各 30)	65	—

(2) 育てる場

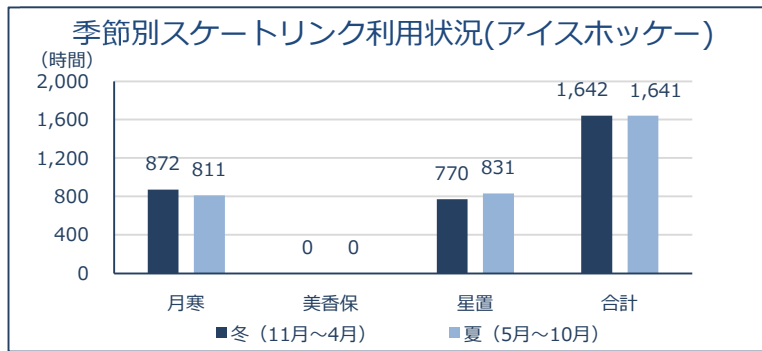
【競技人口・チーム数の推移】

- 市内の競技人口は、近年 1,200 人前後で推移しています。
- 市内には、小学生、中学生、高校、大学、社会人のほか、パラスポーツ競技であるパラアイスホッケー 1 チームがあります。



【練習等の実施状況】

- 市所管 3 施設全体のアイスホッケー利用は、専用利用時間の約 60%を占め、夏季及び冬季ともに 1,600 時間程度を確保しており、1 年を通して一定の競技環境が維持されています。
- 専用利用全体として時間数に余裕がないため、チームによっては希望する時間帯に練習が出来ない状況もあります。
- 一部のチームは、練習時間を確保するため、市外の施設を利用しています。



※月寒体育館、美香保体育館、星置スケート場の H29 の利用実績より集計

※端数調整により各施設それぞれの合計値と記載の合計値が一致しない場合がある。

(3) 観る・魅せる場

【競技大会等の開催状況】

- 競技大会等については、約 2,000 席の観客席を有する月寒体育館を中心に、大会規模などに応じ施設を使い分けて開催しています。
- いずれの施設も大会規模によって、選手控室等が不足するなどの課題があります。
- 市内には、パラアイスホッケーの試合に適した施設がありません。

<近年開催された大会等>

	名 称	開催期間	会 場	1 日当り 最多観客数(人)	概 要
国際大会	男子オリンピック 2 次予選	H28(2016)年 2月 11～14 日	月寒体育館	約 2,500	・平昌オリンピック 2 次予選グループ J ・4 チーム (日本、ウクライナ、クロアチア、ルーマニア) 総当り全 6 試合
	冬季アジア 札幌大会	H29(2017)年 2月 18～26 日	月寒体育館 /美香保体育 館/星置スケー ート場	【月寒】 約 1,500 【美香保】 約 900 【星置】 約 800	・月寒体育館：男子トップディビジョン (4 チーム総当り、全 6 試合)、女子 (6 チーム総当り、全 15 試合) ・美香保体育館：男子ディビジョン I (6 チーム総当り、全 15 試合) ・星置スケート場：男子ディビジョン II グ ループ A (4 チーム総当り全 6 試合)、 グループ B (4 チーム総当り全 6 試合)
全国大会	第 83 回全日本 アイスホッケー 選手権大会	H27(2015)年 12 月 4～6 日	月寒体育館/ 美香保体育 館	【月寒】 約 2,400 【美香保】 約 1,000	・8 チーム (アジアリーグ 4 チーム、関東 大学リーグ 2 チーム、関西学生リーグ 1 チーム、日本連盟会長杯優勝 1 チーム) によるトーナメント戦、全 8 試合 ・当大会は 1930 年から 2022 年までに 90 回開催され、うち札幌開催は 11 回
道内大会	第 53 回北海道 中学校アイス ホッケー大会	R4(2022)年 12月 10～12 日	月寒体育館 /星置スケー ート場	【月寒】 約 300 【星置】 約 200	・10 チーム (釧路・十勝各 3 チーム、胆 振 2 チーム、札幌 1 チーム) によるトー ナメント戦、全 10 試合 ・札幌では 3～4 年に 1 回開催
	第 36 回道新杯 争奪全道女子 アイスホッケー 大会	R4(2022)年 12月 2～4 日	月寒体育館	約 300	・9 チームによるトーナメント戦、全 12 試合 ・札幌では 3～4 年に 1 回開催
その他	第 1 回パラア イスホッケー 日韓交流戦	R4(2022)年 12月 15～17 日	真駒内セキスイ ハイムアイ スアリーナ	約 100	・日本代表 対 韓国代表 ・市内で初めて開催したパラアイスホッ ケーの試合

＜例年開催されている大会等＞

	名 称	開催時期	会 場	1日当り 最多観客数(人)	概 要
国際大会	アジアリーグ	9～2月	月寒体育館	約 2,550 【参考】 ・最少：約 560 ・平均：約 1,400	・8 チーム（日本 5 チーム、韓国 2 チーム、ロシア 1 チーム）総当りで行うレギュラーシーズン及び、上位チームによるプレーオフを実施 ・R4 年度の月寒体育館での開催は 6 日間
道内大会	Japan Ice Hockey League North Division	9～2月	月寒体育館/ 釧路/帯広/ 苫小牧/室蘭	約 100	・アジアリーグ下部リーグに相当 ・6 チーム（釧路 2 チーム、札幌・帯広・室蘭・苫小牧各 1 チーム）による総当り 2 回戦 ・R4 年度の月寒体育館での開催は 5 日間
市内大会	札幌市民スポーツ大会	7～8月	月寒体育館/ 星置スケート場	約 300	・社会人、女子、中学生、小学生チームによる（原則）トーナメント戦
	札幌アイスホッケー連盟会長杯	11～12月	月寒体育館/ 星置スケート場		・小学生、中学生チームによる総当り

※ 1 日当り最多観客数は、過去 10 年間の実績



2017 冬季アジア札幌大会（月寒体育館）



アジアリーグアイスホッケー（月寒体育館）



第 1 回パラアイスホッケー日韓交流戦

1-4 フィギュアスケート競技の状況

(1) 体験する場

【体験会等の開催状況】

- フィギュアスケートを「体験する場」として、市や施設管理者が体験会を開催しているほか、各チームも随時、体験希望者を受け入れています。
- 市主催の小学生を対象とした「ウインタースポーツ塾」は、定員を大幅に上回る応募があり、施設管理者が主催する 16 歳以上の女性または幼児～小学生が対象の体験会の参加者は定員の約 84%となっています（令和 4 年度実績）。
- 体験会等は、費用や指導者の確保が可能な範囲で行われており、現在、施設機能として「体験する場」が不足している状況にはありません。

<令和 4 年度の体験会等の実績>

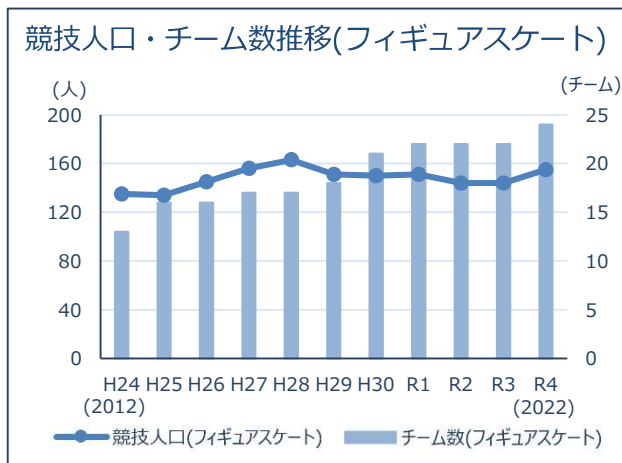
※札幌市、施設管理者が主催する体験会等の実績（その他、各チームが体験希望者を受け入れ）

名 称	開催期間ほか	会 場	対 象	定員(名)	参加者数(名)	応募者数(名)
ウインター スポーツ塾 in Summer	8 月 4 日 午前・午後(各 1 回)	月寒 体育館	小学生	120 (各 60)	120	355
ウインター スポーツ塾	1 月 12・13 日 午前・午後(各 1 回)			240 (各 60)	240	426
キッズ、小学生 フィギュアスケート	春・夏・秋・冬 (各 12 回程度)	月寒 体育館	4 歳以上の 幼児、小学 生	168 (各 21)	113	—
女性 フィギュアスケート	春・夏・秋 (各 2 クラス、10 回程度)		16 歳以上 の女性	120 (各 20)	119	—
ジュニア フィギュアスケート	秋 (2 クラス、各 6 回)	美香保 体育館	年長～ 中学生	120 (各 60)	103	—
女性 フィギュアスケート	秋 (2 クラス、各 6 回)		16 歳以上 の女性	20 (各 10)	12	—
春休みキッズ、 ジュニア フィギュアスケート	3 月・4 月 (各 3 回)		年中～年 長、小学 1 ～3 年生	56 (各 14)	53	—
キッズ、小学生 フィギュアスケート	春・夏 (各 10 回)	星置ス ケート 場	年中～年 長、小学生	56 (各 14)	57	※超過分 も受入
女性 フィギュアスケート	春・夏 (各 11 回)		16 歳以上 の女性	32 (各 16)	22	—
夏休みキッズ、 ジュニア フィギュアスケート	7 月 (各 3 回)		年中～年 長、小学生	35 (14、21)	25	—
1day キッズ、 ジュニア フィギュアスケート	3 月・12 月 (各 1 回)		年中～年 長、小学生	56 (各 14)	52	—

(2) 育てる場

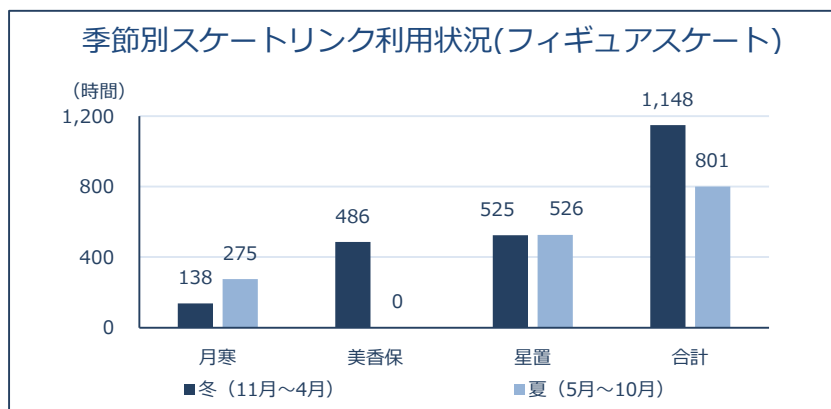
【競技人口・チーム数の推移】

- 市内の競技人口は、近年 160 人程度で推移し、横ばいの傾向にあります。
- 市内には、小学生、中学生、高校、大学、社会人のチームがあり、その数は近年、微増しています。



【練習等の実施状況】

- 市所管3施設全体におけるフィギュアスケート利用は、専用利用時間の約36%を占め、冬季は1,100時間程度、利用可能なスケートリンクが2施設に減少する夏季は800時間程度となっています。
- 冬季の専用利用時間に対し、夏季はおおよそ30%減少しており、多くの競技者が市外の施設を利用している状況にあります。
- 競技者により、一般利用時間に補足的な個人練習を行っています。
- 通年で安定的な競技環境にないため、指導者が不足しており、また、市外の施設利用に係る負担が大きいことなどから選手が競技環境の充実を図るため道外に流出する等、競技力の維持・向上、裾野拡大などの阻害要因となっている可能性があります。



※月寒体育館、美香保体育館、星置スケート場のH29の利用実績より集計
 ※端数調整により各施設それぞれの合計値と記載の合計値が一致しない場合がある。

(3) 観る・魅せる場

【競技大会等の開催状況】

- 競技大会等については、大会規模などに応じ、施設を使い分けて開催しています。
- 美香保体育館は、大会規模によって、選手控室等が不足するなどの課題があります。
- 美香保体育館が利用できない夏季は、月寒体育館や星置スケート場で大会を開催していますが、両施設に設置しているアイスホッケー用のガードフェンスが、審査や出場選手へのコーチングを行ううえで支障となっています。

<近年開催された大会等>

	名 称	開催期間	会 場	1日当り 最多観客数(人)	概 要
国際大会	冬季アジア 札幌大会	H29(2017)年 2月22～26日	真駒内セキスイハイムアイスアリーナ	約 4,800	・男女シングル (45 人)、ペア (7 組)、 アイスダンス (7 組)
	NHK 杯国際フ ィギュアスケ ート競技大会	R4(2022)年 11月18～20日	真駒内セキスイハイムアイスアリーナ	約 5,200	・男女シングル (24 人)、ペア (6 組)、 アイスダンス (10 組) ・当大会は 1979 年から 2022 年までに 44 回開催され、うち札幌開催は 5 回
全国大会	第 84 回全日本 選手権大会	H27(2015)年 12月24～27日	真駒内セキスイハイムアイスアリーナ	集計なし	・男女シングル (59 人)、ペア (3 組)、 ジュニアペア (2 組)、アイスダンス(4 組) ・当大会は 1929 年から 2022 年までに 91 回開催され、うち札幌開催は 3 回
	第 85 回全日本 フィギュアス ケートジュニ ア選手権大会	H28(2016)年 11月18～20日	月寒体育館	約 1,000	・男女シングル (59 人)、アイスダンス (6 組) ・当大会は 1929 年から 2022 年までに 91 回開催され、うち札幌開催は 1 回
地方大会	東北・北海道フ ィギュアスケ ート選手権大 会	R3(2021)年 10月1～3日	月寒体育館	約 50	・北海道、東北 7 県のスケート連盟所属 選手による男女シングル (ジュニア以 下含む) (95 人) ・札幌では 3～4 年に 1 回開催
道内大会	第 89 回北海道 フィギュアス ケート選手権 大会	H30(2018)年 3月23～25日	美香保体育館	約 100	・男女シングル (ジュニア以下含む) (98 人) ・札幌では 3～4 年に 1 回開催
	第 53 回北海道 中学校スケ ート大会	R5(2023)年 1月8・9日	美香保体育館	関係者 のみ	・男女シングル (29 人) ・札幌では 3～4 年に 1 回開催
その他	浅田真央サン クスツアー	H30(2018)年 7月21・22日	月寒体育館	約 2,500	・両日 2 公演開催

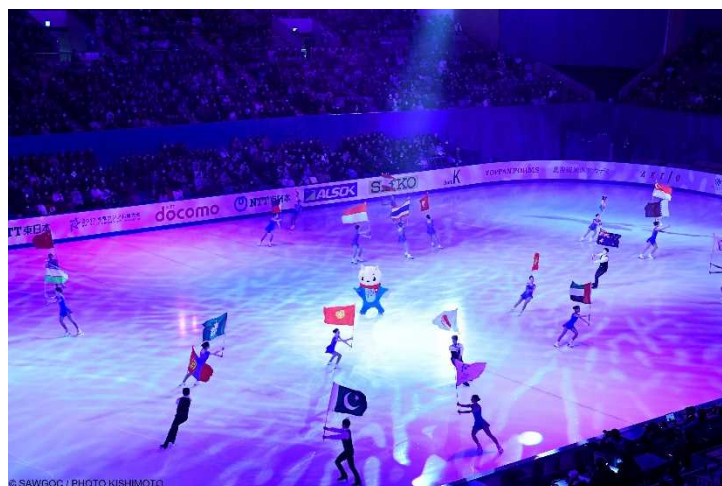
＜例年開催されている大会等＞

	名 称	開催期間	会 場	1日当り 最多観客数(人)	概 要
道内大会	フィギュアスケートフリースケーティング大会	2月	月寒体育館 /美香保体育館/ 真駒内セキスイハイムアイスアリーナ	約 150	・男女シングル（中学生以下含む） ・R4 年度は 104 人出場
市内大会	札幌フィギュアスケート選手権大会 兼 SAPPORO CUP	8～9月	月寒体育館 /星置スケート場	約 300	・男女シングル（中学生以下含む）、アイスダンス ・R4 年度は 76 人出場
	札幌市民スポーツ大会	2月	美香保体育館	約 150	・男女シングル（中学生以下含む）、アイスダンス ・R4 年度は 118 人出場

※ 1日当り最多観客数は、過去 10 年間の実績



2017 冬季アジア札幌大会
(真駒内セキスイハイムアイスアリーナ)



1-5 ショートトラック競技の状況

(1) 体験する場

【体験会等の開催状況】

- ショートトラックを「体験する場」として、市が体験会を開催しているほか、各チームも随時、体験希望者を受け入れています。
- 市主催の小学生を対象とした「ウインタースポーツ塾」は、定員を大幅に上回る応募があります（令和4年度実績、スピードスケートと兼ねて開催）。
- 体験会等は、費用や指導者の確保が可能な範囲で行われており、現在、施設機能として「体験する場」が不足している状況にはありません。

<令和4年度の体験会等の実績>

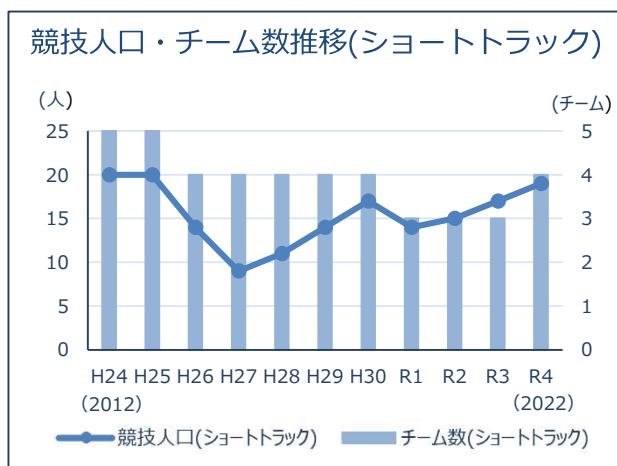
※札幌市が主催する体験会等の実績（その他、各チームが体験希望者を受け入れ）

名 称	開催期間ほか	会 場	対 象	定員(名)	参加者数(名)	応募者数(名)
ウインタースポーツ塾 in Summer	8月5日午前 (1回)	月寒体育館	小学生	60	60	122

(2) 育てる場

【競技人口・チーム数の推移】

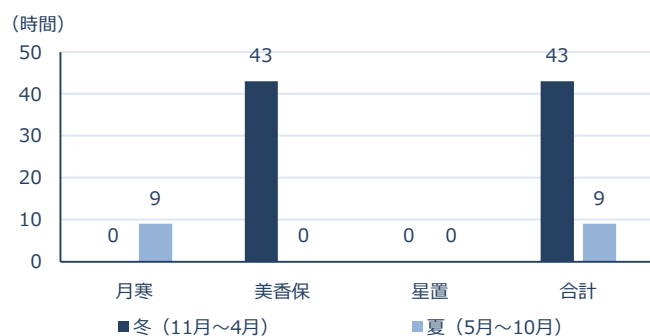
- 市内の競技人口は20人以下で推移し、チーム数も含め少数に留まっています。その原因のひとつとして、競技の場が限られていることによる影響が想定されます。
- 各チームには、小学生から社会人まで在籍しており、ショートトラックと併せてスピードスケートに取り組んでいる競技者も多くいます。



【練習等の実施状況】

- 市所管3施設全体におけるショートトラック利用は、専用利用時間全体の1%未満であり、冬季は43時間、夏季は9時間です。
- 冬季の専用利用時間に対し、夏季はおおよそ80%減少しており、多くの競技者が市外の施設を利用している状況にあります。
- 美香保体育館が冬季のみのスケートリンクであることに加え、選手が転倒した際にフェンスに衝突する衝撃を緩和するセーフティマットの設置が美香保体育館と月寒体育館（コーナー部分のみ）のみであることが、夏季に利用時間が減少する要因となっています。
- 競技者により、一般利用時間に補足的な個人練習を行っています。
- 通年で安定的な競技環境にないため、市外の施設利用に係る負担が大きく、競技力の維持・向上、裾野拡大などの阻害要因となっている可能性があります。

季節別スケートリンク利用状況(ショートトラック)



※月寒体育館、美香保体育館、星置スケート場のH29の利用実績より集計

専用利用の様子（美香保体育館）



(3) 観る・魅せる場

【競技大会等の開催状況】

- 競技大会等については、大会の規模などに応じ施設を使い分けて開催しており、現時点で施設機能面では特に問題はありません。

<近年開催された大会等>

	名 称	開催期間	会 場	1日当り 最多観客数(人)	概 要
国際大会	冬季アジア札幌大会	H29(2017)年 2月20~22日	真駒内セキスイハイムアイスアリーナ	約 1,900	・男女別 3 種目、リレー2 種目
全国大会	第 39 回全日本選手権大会	H29(2017)年 1月8・9日	真駒内セキスイハイムアイスアリーナ	—	・男女別 3 種目 (51 人)、3,000m スーパーファイナル (3 種目総合で得点上位 8 位のみが出場)
地方大会	第 34 回東日本選手権大会	H26(2014)年 11月1・2日	美香保体育館	約 30	・男女別 3 種目 (75 人) ・札幌では 7~8 年に 1 回開催
その他	ナショナルチーム合宿	R1(2019)年 8月4~11日	月寒体育館	—	・全日本強化選手(シニア選手のみ 30 名程度)の合宿

＜例年開催されている大会等＞

	名 称	開催期間	会 場	1日当り 最多観客数(人)	概 要
道内	北海道ショートトラック選手権大会	3 月	美香保体育館	約 60	・ 男女別 3 種目 ・ R4 年度は 6 人出場
	北海道ノービスショートトラック競技会	3 月	美香保体育館	約 60	・ 男女別（小学生以下）2 種目 ・ R4 年度は 3 人出場
市内	札幌市民スポーツ大会	2 月	美香保体育館	約 40	・ 男女別 2 種目（小学生未満の出場可） ・ R4 年度は 10 人出場

※ 1 日当り最多観客数は、過去 10 年間の実績

2017 冬季アジア札幌大会練習風景
（真駒内セキスイハイムアイスアリーナ）



1-6 スケートリンクの現状整理

【施設の状況】

- 月寒体育館（1971 年築）：通年リンク。築 50 年が経過し、2030 年頃が更新時期。躯体の劣化（コンクリートの中性化の進行）や施設機能面（諸室不足、パラ未対応）で課題あり。
 - 美香保体育館（1971 年築）：冬季限定リンク。築 50 年が経過し、2030 年頃が更新時期。施設機能面（断熱性能・諸室不足）で課題あり。
 - 星置スケート場（1985 年築）：通年リンク。更新時期を迎えるまで、今後 20 年程度は利用可能。施設機能面（パラ未対応）で課題あり。
- ※【北海道所管】真駒内セキスイハイムアイスアリーナ（1970 年築）：冬季限定リンク。

【施設利用状況】

- 市内のスケートリンクは、市民が日常的にスケートを「体験する場」として、また、アイスホッケー・フィギュアスケート・ショートトラックの各競技を「体験する」「育てる」「観る・魅せる」場として重要な役割を担っており、他に代替機能はない。
- 一般利用は、利用時間全体の約 6 割とし、1 施設平均約 115 人・日、最大 800 人・日が利用（令和 4 年度（2022 年度）実績）。
- 競技を行う専用利用は、利用時間全体の約 4 割とし、競技者が時間を確保しやすい夜間の利用率は 90%以上と飽和状態。

【スケートリンクを利用する競技の状況】

アイスホッケー・パラアイスホッケー

体験する場 【体験会等の開催状況】

- 施設管理者が主催する体験会の参加者は定員の約 68%（令和 4 年度実績）であり、現在、施設機能として不足している状況にはない。

育てる場 【市所管施設における練習等の状況】

<札幌連盟登録> 競技者約 1,200 名、68 チーム

<パラスポーツ> パラアイスホッケー 1 チーム

- スケートリンク専用利用時間全体のうち約 60%を占める。
- 夏季と冬季の専用利用時間の差が少なく、競技環境は年間を通して安定している。

観る・魅せる場 【競技大会等の開催状況】

- 約 2,000 席の観客席を有する月寒体育館を中心に、大会規模等に応じて施設を使い分けているが、大会規模によって、選手控室等が不足することなどの課題がある。
- 市内にパラアイスホッケーの試合に対応した施設はない。

フィギュアスケート

体験する場 【体験会等の開催状況】

- 施設管理者が主催する体験会の参加者は定員の約 84%（令和 4 年度実績）であり、現在、施設機能として不足している状況にはない。

育てる場 【市所管施設における練習等の状況】

<札幌連盟登録> 競技者約 160 名、24 チーム

- スケートリンク専用利用時間全体の約 36%を占め、夏季は冬季より約 30%減少している。
- 通年で安定的な競技環境にないため、指導者不足や選手の道外流出等、競技力の維持・向上、裾野拡大などの阻害要因となっている可能性がある。

【スケートリンクを利用する競技の状況】

フィギュアスケート

観る・魅せる場 【競技大会等の開催状況】

- 1万人規模を集客する国際大会等は真駒内セキスイハイムアイスアリーナを利用するなど、大会規模等に応じて施設を使い分けているが、大会規模によって、選手控室等が不足するなどの課題がある。
- 夏季のフィギュアスケートの大会は、月寒体育館・星置スケート場で開催しているが、アイスホッケーのガードフェンスが審査やコーチングを行ううえで支障となっている。

ショートトラック

体験する場 【体験会等の開催状況】

- 市主催の体験会は定員を上回る応募（令和4年度実績）があるが、体験の機会を設けるにあたり施設機能として不足している状況にはない。

育てる場 【市所管施設における練習等の状況】

＜札幌連盟登録＞ 競技者約 20 名、4 チーム

- スケートリンク専用利用時間全体の 1%未満で、夏季の利用時間は冬季より約 80%減少している。
- 通年での競技環境が不安定であり、市外施設利用に係る負担が大きく、競技力の維持・向上、裾野拡大などの阻害要因となっている可能性がある。

観る・魅せる場 【競技大会等の開催状況】

- 大会規模等に応じて施設を使い分けており、施設面で大きな問題はない。

スケートリンクの現状まとめ

体験する場

- 既存 4 施設は、数多くの一般利用者がスケートに親しむ場として、また、各競技を体験する場として、欠かすことが出来ない機能

育てる場

- アイスホッケーの競技環境は年間を通して安定しているが、最も競技人口が多く専用利用時間数に余裕はない
- フィギュアスケートやショートトラックは夏季に利用可能なリンクが半減するため、競技環境が不足

観る・魅せる場

- 大会等は、市内 4 施設を使い分けて開催しており、今後も大会規模に応じた観客席の確保が必要
- フィギュアスケートの大会について、夏季は月寒体育館で開催しているが、アイスホッケー用ガードフェンスが支障となり、審査などがやり難い状況

2 スピードスケートトラック

現在、市内にスピードスケートトラックは、北海道が所管する北海道立真駒内公園屋外競技場／真駒内セキスイハイムスタジアム（以下「真駒内セキスイハイムスタジアム」という。）があります。

真駒内セキスイハイムスタジアムは、冬季のみに利用可能な屋外リンクですが、市内唯一のスピードスケート競技が可能な施設です。

2-1 基本情報

(1) スピードスケートトラック施設一覧

施設名 (整備年度)	所 在	構造・階数	延床面積	リンク 利用期間	利用時間 (うち一般開放)	備 考
[参考] 北海道立 真駒内公園 屋外競技場／ 真駒内セキスイハ イムスタジアム (1970)	南区 真駒内公園	鉄筋コンクリート造 地上2階	7,536 m ²	12月末 ～ 2月中旬	9:00～21:00	※北海道所管 ・屋外リンク ・客席 17,324 席 ・市内唯一のスピードスケート トラック ※令和2年度(2020年度)以降、 施設故障により利用出来ない 状況(令和5年度(2023年度) 改修予定)
[参考] 円山スケート場 (1982)	中央区 宮ヶ丘	鉄筋コンクリート造 地上2階 一部3階	2,236 m ²	1月 ～ 2月中旬	10:00～19:00	・陸上トラックを利用した冬季 限定リンク(屋外) ・冷凍機がない自然凍結による リンクであり、競技利用に適 さない

●北海道が所管する真駒内セキスイハイムスタジアムは、1972年の札幌オリンピック開催に併せ整備された、市内唯一のスピードスケートトラックです。

※円山スケート場については、冬季に円山競技場の陸上トラックを利用し、自然凍結により製氷しているため、リンク面が平滑ではなく、競技者の練習等に適さないことから、本構想の対象外とします。

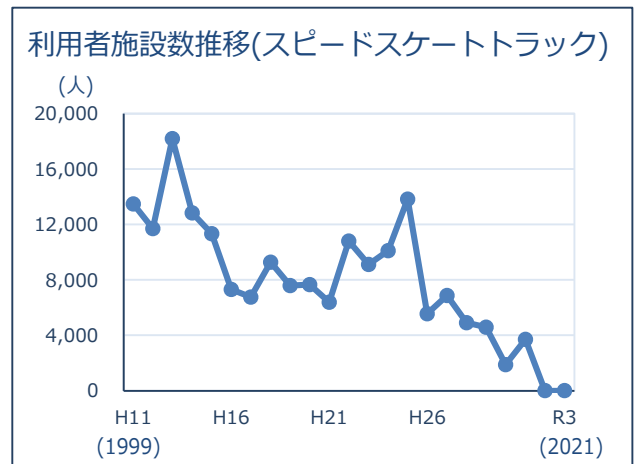


競技の様子（真駒内セキスイハイムスタジアム）

2-2 施設利用状況

(1) 施設利用者数

- 年間延べ利用者数は、1万人を超える年もありましたが、近年は利用期間の変更等により数千人程度となっており、減少傾向にあります。なお、令和2年度（2020年度）以降は、施設故障により利用出来ない状況にあります（令和5年度（2023年度）に改修予定）。



※真駒内セキスイハイムスタジアムの実績

※令和2年度（2020年度）以降は、真駒内セキスイハイムスタジアムの設備故障により利用出来ないため実績なし。

(2) 施設利用内容

- 真駒内セキスイハイムスタジアムは、大会等を除いて一般開放のみで運用しており、コースを中央で仕切り、利用者のスピードの違いに応じて、イン側とアウト側を使い分けています。

2-3 スピードスケート競技の状況

(1) 体験する場

【体験会等の開催状況】

- スピードスケートを「体験する場」として、市が体験会を開催しているほか、各チームも随時、体験希望者を受け入れています。
- 市主催の小学生を対象とした「ウィンタースポーツ塾」は、定員を大幅に上回る応募があります（令和4年度実績、ショートトラックと兼ねて開催）。
- 体験会等は、費用や指導者の確保が可能な範囲で行われており、現在、施設機能として「体験する場」が不足している状況にはありません。

<令和4年度の体験会等の実績>

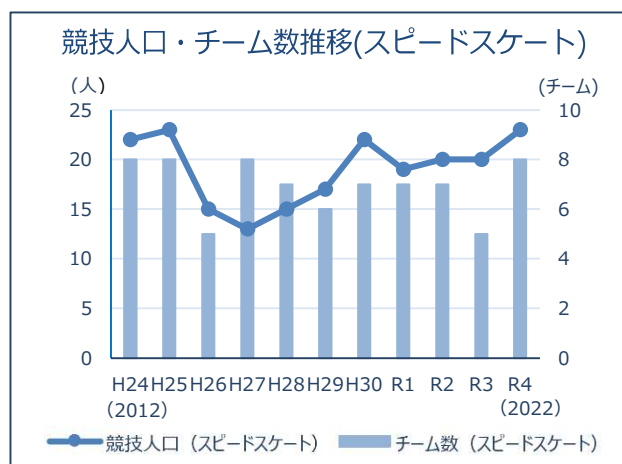
※札幌市が主催する体験会等の実績（その他、各チームが体験希望者を受け入れ）

名 称	開催期間ほか	会 場	対 象	定員(名)	参加者数(名)	応募者数(名)
ウィンタースポーツ塾 in Summer	8月5日午前 (1回)	月寒体育館	小学生	60	60	122

(2) 育てる場

【競技人口・チーム数の推移】

- 市内の競技人口は 20 人程度であり、チーム数も含め少数に留まっています。
- 各チームには、小学生から社会人まで在籍しており、スピードスケートと併せてショートトラックに取り組んでいる競技者も多くいます。



【練習等の実施状況】

- 真駒内セキスイハイムスタジアムが利用可能な冬季は、競技環境が確保されています。
- 夏季は、市内に利用できるスピードスケートトラックはありませんが、自転車や屋内スケートリンクでのショートトラック競技など、予備的なトレーニングを行うことが一般的です。
- 札幌スケート連盟に所属している競技者のうち、(公財)日本スケート連盟の強化選手などについては、屋内施設である帯広の森屋内スピードスケート場/明治北海道十勝オーバル(以下「明治北海道十勝オーバル」という。)や、長野市オリンピック記念アリーナ(以下「エムウェーブ」という。)などを拠点に活動しています。

(3) 観る・魅せる場

【競技大会等の開催状況】

- 競技大会等は、真駒内セキスイハイムスタジアムで開催しており、施設面で大きな問題はありません。
- 屋内で行う必要がある国際大会は、明治北海道十勝オーバルやエムウェーブなどで開催しています。

<近年開催された大会等>

	名 称	開催期間	会 場	1日当り 最多観客数(人)	概 要
全国大会	2013/2014 ジャパンカップ スピードスケート競技会 第2戦	H25(2013)年 11月23・24日	真駒内セキスイハイム スタジアム	集計なし	・男子5種目、女子4種目(181人)
道内大会	第45回北海道 中学校スケート・アイスホッケー大会 スピードスケート競技	H27(2015)年 1月10~12日			・男子5種目、女子4種目、男女別 2,000mリレー(95人)

※2017 冬季アジア札幌大会は、帯広で実施

＜例年開催されている大会等＞

	名 称	開催期間	会 場	1日当り 最多観客数(人)	概 要
全国大会	全日本ノービススピードスケート競技会	2月			・小学4～6年生男女別2種目 ・R元年度は178人出場 ※R2年度以降は、真駒内セキスイハイムスタジアムの設備故障により、他都市で代替開催
市内大会	札幌市中体連	12月	真駒内セキスイハイムスタジアム	集計なし	・男女別2種目 ・H29年度は30人出場（リンク故障、コロナ等により、H30年度～は開催中止）
	小・中学生スピードスケート真駒内大会	1～2月			・男女別2種目 ・R元年度は47人出場（リンク故障、コロナ等により、R2年度～は開催中止）

2-4 スピードスケートトラックの現状整理

【施設の状況】

- ※〔北海道所管〕真駒内セキスイハイムスタジアム（1970 年築）：冬季限定屋外リンク。
- ※令和 2 年度（2020 年度）以降、施設故障により利用出来ない状況にあるが、令和 5 年度（2023 年度）改修予定。

【施設利用状況】

- 北海道所管の真駒内セキスイハイムスタジアムは、市内唯一のスピードスケートの場として利用され、ほかに代替機能はない。

【スピードスケートトラックを利用する競技の状況】

スピードスケート

体験する場 【体験会等の開催状況】

- 市主催の体験会は定員を上回る応募（令和 4 年度実績）があるが、体験の機会を設けるにあたり施設機能として不足している状況にはない。

育てる場 【市所管施設における練習等の状況】

＜札幌スケート連盟登録＞ 競技者約 20 名、8 チーム

- 真駒内セキスイハイムスタジアムの利用が可能な冬季は、競技環境は充足。夏季は、自転車などの予備的なトレーニングを行うことが一般的である。
- ※強化選手等は、屋内施設である明治北海道十勝オーバルなどを拠点に活動している。

観る・魅せる場 【競技大会等の開催状況】

- 真駒内セキスイハイムスタジアムを会場とし、特に問題はない。屋内で行う必要がある国際大会等は、明治北海道十勝オーバルやエムウェーブで開催している。

スピードスケートトラックの現状まとめ

体験する場

育てる場

観る・魅せる場

- 北海道が所管する真駒内セキスイハイムスタジアムにより、市内のスピードスケートに係る競技環境は確保
- ※ 強化選手の練習や一定レベル以上の大会等は、明治北海道十勝オーバルなどで実施

3 カーリングリンク

現在、市内にカーリングリンクは、市で所管するカーリング場／どうぎんカーリングスタジアム（以下「どうぎんカーリングスタジアム」という。）があるほか、美香保体育館のスケートリンクでカーリングが可能な時間帯を設けています。

カーリング専用施設であるどうぎんカーリングスタジアムは、カーリングを「体験する」「育てる」「観る・魅せる」場として重要な役割を担い、どうぎんカーリングスタジアムの供用開始まで、市内で唯一カーリングが可能であった美香保体育館は、現在も「体験する場」として利用されています。

平成 24 年（2012 年）のどうぎんカーリングスタジアム供用開始後から、カーリングの競技人口は倍増しており、施設利用は飽和状態にあります。

3－1 基本情報

（1）カーリングリンク施設一覧

施設名 (整備年度)	所 在	構造・階数	延床面積	リンク 利用期間	利用時間	備 考
カーリング場 ／どうぎん カーリング スタジアム (2012)	豊平区 月寒東 1条9丁目	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上2階	3,375 m ²	通年	専用利用 ・月～木 10:00～22:00 ・金、土 10:00～23:00 ・日 10:00～21:00	・カーリング専用施設 ・通年リンク5シート ・客席224席 ・全日本選手権、冬季アジア札幌大会 など開催
美香保体育館 (1971)	東区 北22条 東5丁目	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上2階	6,655 m ²	11/1 ～ 4/30	カーリングは一般 開放 ・月2回程度 18:30～21:00	・冬季に月2回程度（土曜日夜間）、 スケートリンクをカーリングリンク （4シート）として利用 ・客席1,271席 ・夏季は体育館として利用



2017 年冬季アジア札幌大会

(2) 市所管施設の状況

【どうぎんカーリングスタジアム】

- 公共施設としては全国初となる、通年型カーリング専用施設です。
- 比較的新しい施設であり、鉄筋コンクリート造建築物において、更新時期の目安となる、築 60 年（2070 年頃）を迎えるのは約 50 年後であることから、今後も長期間にわたり利用可能です。
- バリアフリーに配慮した施設であり、パラスポーツである車いすカーリングを、問題なく行うことが可能です。



外観



専用カーリングリンク（通年）

【美香保体育館】

- どうぎんカーリングスタジアムの供用開始まで、カーリングを体験できる市内唯一の施設として利用され、現在も冬季に月 2 回程度（土曜日夜間）、カーリングが可能な時間帯を設けていますが、専用カーリングリンクとは異なり、競技に適したアイスコンディションとすることが難しいため、初心者等の「体験する場」としての利用が中心となっています。
- 1972 年の札幌オリンピックに併せ整備され、現在、建設から 50 年程度が経過し、老朽化が進んでおり、2030 年頃に鉄筋コンクリート造建築物の更新時期の目安となる築 60 年を迎えます。
- 建物の断熱性能等から、夏季はアイスリンクの維持に必要な温度を保つことが難しいため、冬季のみリンクとして供用しています。

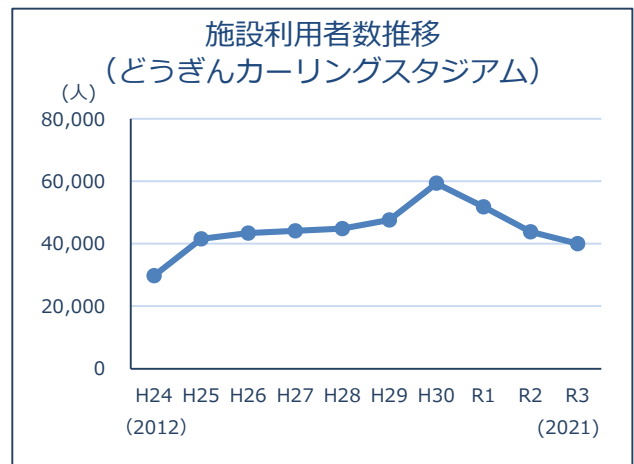


カーリング利用状況（冬季）

3-2 施設利用状況

(1) 施設利用者数

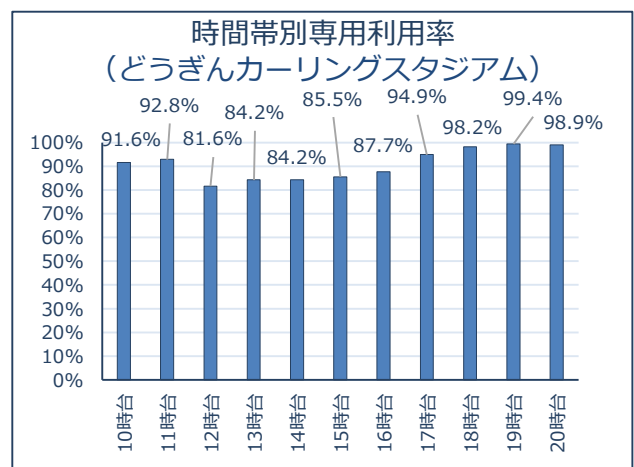
- カーリングは、1998年長野五輪で正式競技となった後、2006年のトリノ五輪を機に、急速に人気が高まりました。
- どうぎんカーリングスタジアムの利用者数は、供用を開始した平成24年度(2012年度)の約3万人から、平成30年度(2018年度)には約6万人と倍増しています。



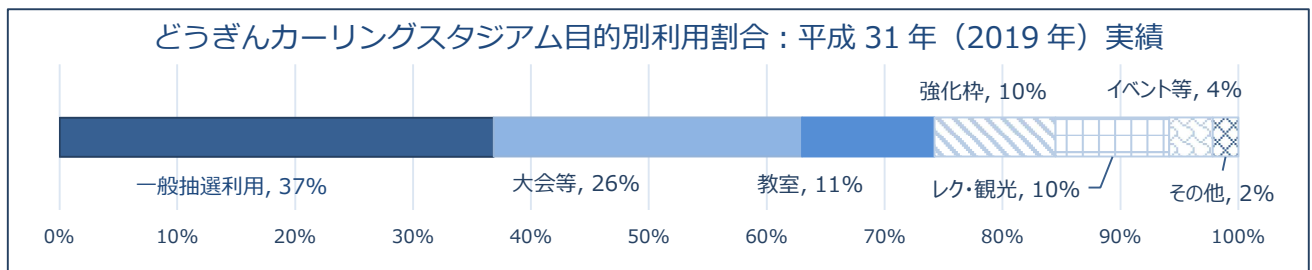
※令和元年度(2019年度)以降の利用者数減は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響

(2) 市有施設の利用状況

- どうぎんカーリングスタジアムは、全て予約が必要な専用利用により運用しています。市民・競技者の日常的な練習や公式試合のほか、初心者向けの教室、国内外から訪れる観光客・修学旅行・企業等のレクリエーションなど、多目的に利用されています。利用率は全時間帯で80%を超え、混雑緩和のため開放時間を延長していますが飽和状態にあります。強化指定以外のチームや一般市民等が利用(以下「一般抽選利用」という。)する際の抽選倍率は平均20倍程度、時間帯によっては200倍を超えており、また、観光客利用等については、申し込みに対して1/3程度の受け入れに留めざるを得ないなど、競争率が非常に高く、気軽に利用することが難しい施設になっています。
- 美香保体育館では、冬季に月2回程度、夜間のみ予約が不要な一般開放により、カーリングの時間を設けています。専用施設ではないため、競技利用には向きませんが、初心者などが「体験する場」として一定の利用があり、予約が必要などうぎんカーリングスタジアムが飽和状態にあることから、一度に多くの利用者が訪れる場合もあります。



※どうぎんカーリングスタジアムの平成29年度利用実績



※利用時間の配分について

- ・大会、強化指定チームの練習時間を優先的に確保
- ・教室、レク・観光の時間を最低限確保（レク等の受け入れは申し込みの1/3程度）
- ・一般抽選利用は、強化指定以外の87チームや一般市民等の利用を抽選（平均約20倍）

3-3 カーリング競技の状況

(1) 体験する場

【体験会等の開催状況】

- カーリングを「体験する場」として、どうぎんカーリングスタジアムを会場に、市や施設管理者、(一社)札幌カーリング協会が体験会を開催しています。
- 市主催の小学生を対象とした「ウインタースポーツ塾」は、定員を大幅に上回る応募があり、施設管理者が主催する年齢やレベルに応じた教室の参加者は定員の約 89%となっています(令和 4 年度実績)。
- (一社)札幌カーリング協会では、小学生を対象とした「放課後カーリング」を平日夕方に開催しており、令和 4 年度は全 193 回、延べ 1,314 名が利用しました。
- どうぎんカーリングスタジアムは、一般抽選利用の抽選倍率が平均 20 倍程度となっており、学校、企業、観光客等のレク利用は申し込みに対して 1/3 程度の受け入れに留めざるを得ないなど飽和状態にあることから、気軽に競技を体験することは難しい状況にあります。

<令和 4 年度の体験会等の実績>

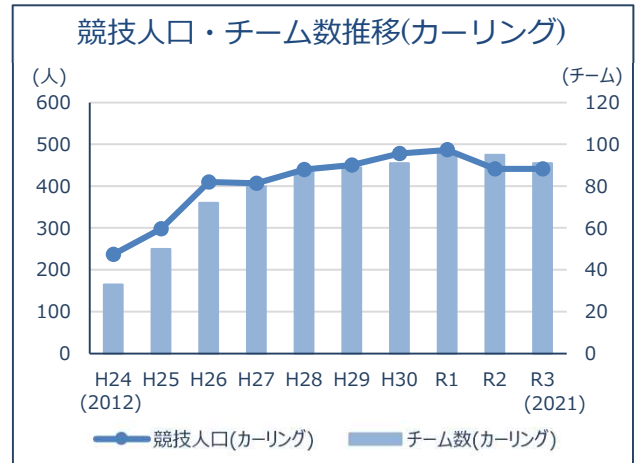
※札幌市、施設管理者、カーリング協会が主催する体験会等の実績(その他、各チームが体験希望の受け入れを実施)

名 称	開催期間ほか	会 場	対 象	定員(名)	参加者数(名)	応募者数(名)
ウインター スポーツ塾 in Summer	7月29日 午前・午後 (各1回)	どうぎん カーリング スタジアム	小学生	100 (各50)	100	480
ウインター スポーツ塾	1月12・13日 午前・午後 (各1回)			200 (各50)	200	467
大人初心者・ 初級クラス	通年 (各4回程度)		中学生以上	150 (各10)	119	—
大人ステップ アップクラス	通年 (各8回程度)		中学生以上	100 (各10)	93	—
夏のカーリン グ教室	8月 (各1回)		小学1～3年生、 小学4～6年生	20 (各10)	15	—
冬休みカーリ ング教室	2月 (1回)		小学1～3年生	10	10	—
小学生放課後 カーリング	平日 17時～18時 (全193回)		小学生	なし	1,314	—

(2) 育てる場

【競技人口・チーム数の推移】

- 市内の競技人口は、近年 450 人程度で推移しています。
- 札幌カーリング協会登録人数及び、同協会主催試合に参加したチーム数は、どうぎんカーリングスタジアムを供用開始した平成 24 年度(2012 年度)から令和元年度(2019 年度)までに倍増しています。
- 市内には、小学生、中学生、高校、大学、社会人のほか、パラスポーツ競技である車いすカーリング 2 チーム、デフカーリング 3 チームがあります。



【練習等の実施状況】

- 札幌カーリング協会登録選手が所属する国内トップレベルのチームについて、競技力の維持・向上に向け、現在、9 チーム（社会人 4 チーム、ジュニア 5 チーム）を強化指定し、優先的に練習時間を確保していますが、どうぎんカーリングスタジアムが飽和状態にあることから、他都市の施設を利用するチームもあります。また、新たに有望なチームが現れても強化指定チーム数を増やすことが難しい状況にあります。
- 強化指定を受けていない 87 チームについては、どうぎんカーリングスタジアム利用にあたり、一般抽選利用枠の抽選によることとなりますが、一般市民利用も併せ抽選倍率が平均 20 倍程度、時間帯によっては 200 倍を超えており、競争率が非常に高く、チームが希望する練習時間はほとんど確保出来ない状況にあります。
- カーリングに対する潜在的な需要も高い中、施設利用の競争率が非常に高くなっているため、ジュニア世代の育成や裾野拡大などを行ううえで支障となっています。
- 札幌市近郊にカーリングが可能な施設はないことから、日常的に他都市の施設を利用することは難しい状況です。

(3) 観る・魅せる場

【競技大会等の開催状況】

- 競技大会等の開催にあたっては、4 シート程度が必要であり、主に 5 シートを有するどうぎんカーリングスタジアムを利用しているほか、2,000 席の観客席が求められる国際大会などについては、月寒体育館にカーリングシートを仮設するなどにより対応しています。
- 市内や道内の大会、市内リーグ戦などは、どうぎんカーリングスタジアムで行われていますが、施設利用が飽和状態にあることから、試合を通常の 10 エンドから 6 エンドに短縮するなどにより対応しています。
- どうぎんカーリングスタジアムについては、屋内外のスペースに余裕がないため、規模の大きな大会等を開催する際、選手の準備運動を行う場所や、中継車両等の設置場所が不足する場合があることから、月寒体育館の駐車場を一時的に利用することで対応しています。

<近年開催された大会等>

	名 称	開催期間	会 場	1日当り 最多観客数(人)	概 要
国際大会	2015 年世界女子カーリング選手権大会	H27(2015)年 3月14～22日	月寒体育館	約 1,600	・ 12 チーム総当り 71 試合 ・ アジアでの開催は男女通じて 4 回目 ・ スケートリンクに 4 シート仮設し対応
	冬季アジア札幌大会	H29(2017)年 2月18～24日	どうぎん カーリング スタジアム	約 250	・ 男子 6 チーム、女子 5 チーム総当り 33 試合 ・ 参加チーム数が少ないため、試合は 3 シートで行い、試合で使用しないシートに仮設席を設置し対応
全国大会	第 36 回全農日本カーリング選手権	R1(2019)年 2月11～17日	どうぎん カーリング スタジアム	約 500	・ 男女各 9 チーム総当り 76 試合 ・ 札幌では 5～6 年に 1 回開催 ・ 中継車両等は、隣接する月寒体育館敷地に設置し対応
	第 13 回全農日本ミックスダブルスカーリング選手権	R2(2020)年 2月25日 ～3月1日	どうぎん カーリング スタジアム	(無観客)	・ 3 ブロック (各 7 チーム) 総当り 72 試合 ・ 札幌では 5～6 年に 1 回開催
	第 13 回日本車いすカーリング選手権大会	H29(2017)年 5月26～28日	どうぎん カーリング スタジアム	約 20	<パラスポーツ> ・ 6 チーム総当り 17 試合
道内	第 37 回北海道カーリング選手権大会	H30(2018)年 1月10～14日	どうぎん カーリング スタジアム	約 100	・ 男女各 8 チーム総当り 64 試合

<例年開催されている大会等>

	名 称	開催期間	会 場	1日当り 最多観客数(人)	概 要
国際大会	どうぎんカーリングクラシック	8 月	どうぎん カーリング スタジアム	約 400	・ ワールドカーリングツアー（賞金がある国際大会シリーズ）のひとつ ・ R4 年度は男女各 8 チーム総当り <パラスポーツ> ・ 車いすカーリング部門：R4 年度は 3 チーム総当り
市内	札幌市民スポーツ大会	1 月～2 月	どうぎん カーリング スタジアム	約 50	・ 初心者への参加も可能 ・ R4 年度は 32 チームによるトーナメント戦

※ 1 日当り最多観客数は、過去 10 年間の実績

3-4 カーリングリンクの現状整理

【施設の状況】

- どうぎんカーリングスタジアム（2012 年築）：通年リンク。カーリング専用施設。パラスポーツに対応。更新時期（築 60 年）を迎えるまで、今後 50 年程度は利用可能。
- 美香保体育館（1972 年築）：冬季に月 2 回程度（土曜日夜間）、カーリング利用時間を確保。築 50 年が経過し、2030 年頃に更新時期（築 60 年）を迎える。施設機能面（断熱性能・諸室が不足）で課題あり。

【施設利用状況】

- カーリングは、平成 24 年度以降に競技人口・チーム数ともに倍増し、どうぎんカーリングスタジアムの利用率は全ての時間帯で 80%を超え飽和状態。
- どうぎんカーリングスタジアムはカーリングを「体験する」「育てる」「観る・魅せる」場として重要な役割を担っており、競技利用のほか一般市民利用や観光や修学旅行など多様なニーズがあるが、飽和状態にあるため気軽に利用することが困難な状況。
- 美香保体育館のリンクはスケート用であり、氷の質がカーリング用とは異なることから競技利用に向かないが、初心者などが「体験する場」として一定の利用がある。

【カーリングリンクを利用する競技の状況】

カーリング・車いすカーリング・デフカーリング

体験する場 【体験会等の開催状況】

- 施設管理者が主催する教室への参加者は定員の約 89%であるが、一般抽選利用の抽選倍率が平均 20 倍程度となっており、レク利用等は申し込みに対して 1/3 程度の受け入れに留めざるを得ないなど、裾野拡大などを行ううえで支障となっている。

育てる場 【市所管施設における練習等の状況】

<札幌カーリング協会登録> 競技者約 450 名、リーグ戦 91 チーム

<パラスポーツ> 車いすカーリング 2 チーム、デフカーリング 3 チーム

- どうぎんカーリングスタジアムの一般抽選利用倍率は、平均 20 倍程度、利用希望者が特に多い時間帯は 200 倍を超えているなど飽和状態にあり、強化指定を受けていないチームの練習等は不十分となっている。

観る・魅せる場 【競技大会等の開催状況】

- どうぎんカーリングスタジアムが常に飽和状態にあるため、市内や道内の大会等は、試合を通常の 10 エンドから一部を除き 6 エンドに短縮するほか、出場チーム数を制限し対応している状況となっている。
- どうぎんカーリングスタジアムは、屋内外のスペースに余裕がないため、大会の規模によっては、隣接する月寒体育館の駐車場を利用する場合がある。2,000 席の観客席が求められる国際大会等は、月寒体育館を利用している。

カーリングリンクの現状まとめ

体験する場

- どうぎんカーリングスタジアムは常に飽和状態であり、体験する場が不足

育てる場

- どうぎんカーリングスタジアムは常に飽和状態にあり、競技環境が不足
- 美香保体育館は専用リンクではないため、競技に不適

観る・魅せる場

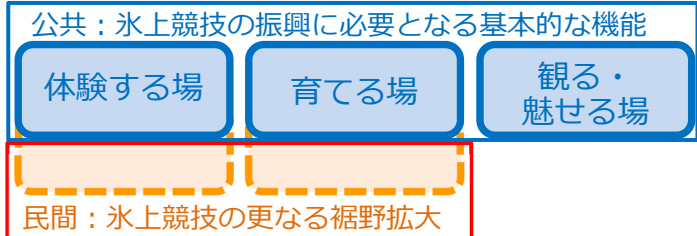
- どうぎんカーリングスタジアムは常に飽和状態のため、試合時間の短縮や出場数を制限している状況
- 大会等は、主にどうぎんカーリングスタジアムを利用しているが、大会規模によってはスペースが不足

第3章 アイスリンクの将来像

市内におけるアイスリンク（スケートリンク、スピードスケートトラック、カーリングリンク）に係る将来に向けた必要な対応について、第2章で整理した現在の施設利用や競技環境などの状況を踏まえ具体化を図ります。

1 対応の方向性

氷上競技を「体験する場」「育てる場」「観る・魅せる場」として必要となる基本的な機能を公共が確保し、加えて民間による競技環境の拡充を推進することにより、更なる裾野拡大を目指します。



また、第1章及び第2章を踏まえ、「対応の方向性」を以下のとおり設定します。

方針1 氷上競技の振興・裾野拡大

リンクの現状	体験する場	育てる場	観る・魅せる場
スケートリンク 〔アイスホッケー フィギュアスケート ショートトラック〕	既存4施設は、数多くの一般利用者がスケートに親しむ場として、また、各競技を体験する場として、欠かすことが出来ない機能	- アイスホッケーの競技環境は年間を通して安定しているが、最も競技人口が多く専用利用時間数に余裕はない - フィギュアスケートやショートトラックは夏季に利用可能なリンクが半減するため、競技環境が不足	- 大会等は、市内4施設を使い分けて開催しており、今後も大会規模に応じた観客席の確保が必要 - フィギュアスケートの大会について、夏季は月寒体育館で開催しているが、アイスホッケー用ガードフェンスが支障し審査などがやり難い状況
スピードスケートトラック	- 北海道が所管する真駒内セキスイハイムスタジアムにより、市内のスピードスケートに係る競技環境は確保 ※強化選手の練習や、一定レベル以上の大会等は、帯広などで実施		
カーリングリンク	どうぎんカーリングスタジアムは常に飽和状態にあり、体験する場が不足	- どうぎんカーリングスタジアムは常に飽和状態にあり、競技環境が不足 - 美香保体育館は専用リンクではないため競技に不適	- どうぎんカーリングスタジアムは常に飽和状態のため、試合時間の短縮や出場チーム数を制限 - どうぎんカーリングスタジアムは、大会規模によってはスペースが不足

方向性1 スケートリンクの維持・強化

方向性2 カーリング機能の拡充

方向性3 民間活力を活かした施設整備

方向性4 競技大会に対応可能な観客席の確保

方針2 持続可能な施設環境の整備

方向性3 民間活力を活かした施設整備(再掲)

方向性5 更新施設の拠点等への配置及び他施設との集約・複合化

方針3 都市の魅力向上 ・まちづくりへの寄与

2 具体的な対応

市所管のアイスリンクに係る具体的な対応について、前述の「1 対応の方向性」に基づき以下のとおり整理します。

方向性 1：スケートリンクの維持・強化

- 更新時期を迎える既存施設の後継施設整備
- 夏季における競技環境不足への対応

具体的な対応

- 月寒体育館・美香保体育館の機能更新
- 美香保体育館後継スケートリンク通年化など

今後に必要なスケートリンク機能を確保していくため、更新時期が近づいている月寒体育館及び美香保体育館について、躯体の劣化や施設機能面で課題がある状況を踏まえ、後継施設を整備することとします。後継施設整備にあたっては、全市的な市民のアクセス性を考慮し、これまでと同様、市内に分散配置します。また、星置スケート場についても、引き続き維持していきます。

(1) 月寒体育館の機能更新・後継施設整備

月寒体育館の機能を維持するため、後継施設を整備します。

後継施設は、アイスホッケーのアジアリーグやパラアイスホッケーなどの公式試合開催が可能となる通年スケートリンク・観客席を備えるとともに、課題となっている諸室不足などについて、対応を検討します。

(2) 美香保体育館の機能更新・後継施設整備

美香保体育館の機能を維持するため、後継施設を整備します。

後継施設は、現施設と同様、フィギュアスケート及びショートトラックの公式試合開催が可能となるスケートリンク・観客席を備えるとともに、課題となっている諸室不足などについて、対応を検討します。

なお、現施設で冬季限定となっているスケートリンクは、市内における夏季の競技環境不足の改善に向け通年化を図ることで、フィギュアスケート及びショートトラックの選手・指導者の育成、競技力の維持・向上に資する安定的な競技環境を確保します。

(3) 星置スケート場の維持

市内に必要なスケートリンクのひとつとして、星置スケート場を引き続き維持していきます。当施設は 1985 年に整備され、更新時期を迎えるまで 20 年以上あり、今後も適切に維持管理を行うことで、可能な限り延命化を図っていきます。

(4) その他

現月寒体育館及び現美香保体育館は、後継施設の供用開始後に解体します。なお、跡地利用については、今後、周辺を含めた土地利用の状況や将来的な可能性などを踏まえ検討します。

また、美香保体育館後継施設のスケートリンク通年化に伴い失われる、夏季の体育館利用については、各区の体育館などを含め市内にある施設全体で対応していきます。

方向性 2 : カーリング機能の拡充

- 飽和状態にある競技環境への対応

具体的な対応

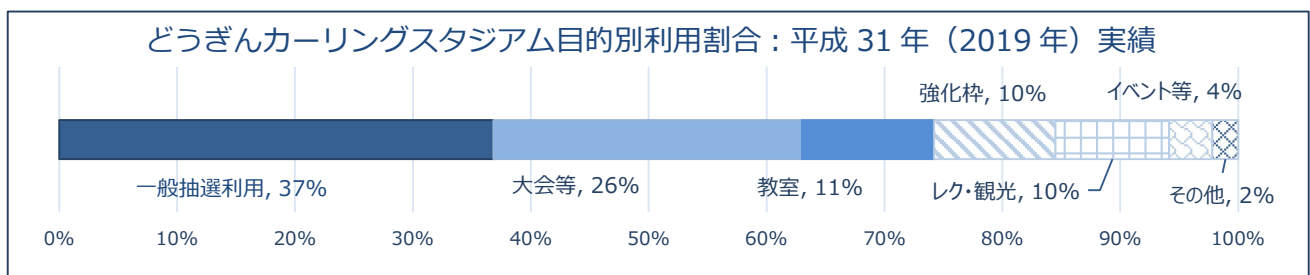
- 新たな専用カーリングシート（5シート）を美香保体育館後継施設により確保

現在、飽和状態にあるカーリングの競技環境改善を図るため、美香保体育館の更新に併せカーリング機能を拡充します。

（１）拡充するカーリング機能

カーリング機能拡充に向け、新たに専用カーリングシートを整備します。新たに整備するシート数は、以下に示す、現在の施設利用状況や競技関係者への調査結果などにより把握した課題等を踏まえ、どうぎんカーリングスタジアムと同等の5シートを基本に検討します。

【どうぎんカーリングスタジアム利用状況】



＜拡充が必要な規模：必要シート数の設定＞

利用内容	どうぎんカーリングスタジアムの現状	
	利用占有率	課 題
一般抽選利用	37%	利用抽選倍率が平均 20 倍程度、時間帯によっては 200 倍を超え、強化指定以外のチームや一般利用者等は、容易に利用できない状況
大会等	26%	参加チーム数を限定したうえで、通常 10 エンドで行われる試合について、一部を除き 6 エンドに短縮し実施
教室	11%	裾野拡大に向け、利用時間の拡大が必要
強化枠	10%	強化指定を現 9 チームから増やすことが困難であり、練習時間も十分に確保できていない
レク・観光・イベント等	14%	利用申し込みに対し、受け入れは 1/3 程度の状況
その他	2%	—
合計	100%	

市内必要シート数	
利用占有率	拡充の考え方
111%	利用抽選倍率を現在の平均 20 倍から 1/3 程度になるよう改善
35%	最低 8 エンドまで可能となる時間を確保
11%	他の利用との調整により利用時間の拡大を検討
15%	強化チーム数を 1.5 倍まで増やすことが可能となる時間を確保
28%	受け入れ数を倍増
—	—
200%	どうぎんカーリングスタジアムの 200%（2 施設分）の機能が必要 ＝ 5 シートを拡充

(2) 有効活用に向けた施設整備

【競技大会等】

競技大会では、出場チーム数にもよりますが、通常、4シートを用いて試合が行われます。

加えて、国際大会や全国大会などでは、報道関係のスペースも必要となるため、こうした観点からも5シートを基本に検討します。

【レクリエーション等（観光・学校・企業など）】

観光や学校等のレク利用者数は、貸し切りバス1台単位、学校利用は1教室単位となることから40名程度が基本となります。通常1シートあたり8名程度(1チーム4人×2チーム)の利用となることから、5シートを基本に検討します。

【その他、スペース等の確保】

国際大会や全国大会などでは、選手の控室や関係車両の駐車スペースなど、実際に競技を行うリンク以外のスペースも必要となります。

レク・観光等の利用も、観光バスの待機スペースや、利用者が待機・説明を受ける場所が必要となるため、こうした観点も念頭に検討を進めます。

(3) カーリング機能拡充を担う施設

カーリング機能の拡充に向けた、新たな専用カーリングシートは、後述の「方向性5：更新施設の拠点等への配置及び他施設との集約・複合化」に基づき、以下の観点から、美香保体育館の後継施設に設置します。

- 効率的・効果的な施設配置に向け、更新するスケートリンクの後継施設と集約・複合化
- 市民のアクセス性を確保する均衡ある施設配置
 - ※市内南部にあるどうぎんカーリングスタジアムに対し市内北部に配置
 - ※スケートリンク後継施設は、現施設近傍での整備を検討（新月寒体育館：市内南東部・新美香保体育館：市内北東部）

方向性3：民間活力を活かした施設整備

- 民間活力導入等による効率的・効果的な整備・運営

具体的な対応

- 民間との協働による公共施設整備
- 体験する・育てる場の拡充に向けた民間施設整備の推進

氷上競技全体の競技環境拡充を図るため、民間活力を活かした施設整備を進めます。

(1) 民間との協働による公共施設整備

市有施設の新設・更新等に当たっては、それぞれの事業環境や考慮が必要な条件等を踏まえながら、PPP/PFI など民間活力の活用が可能となる、最適な事業手法を検討します。

(2) 氷上競技環境の拡充に向けた民間施設整備の推進

民間企業等が行う、市民が氷上競技に触れられる機会の創出を目的とした施設整備に対し、経費の一部を補助します。

補助金の活用事例（令和4年度）

名 称	スポーツ施設整備費補助金
交付先	株式会社 MONSTAR design
施設名	No.24 HACO（現在名称：JUNCTION STUDIO）
事業概要	アイスホッケーの練習が可能な施設を新たに整備
実施部局	札幌市スポーツ局
補助額等	補助対象経費の2分の1以内で、1件1,500万円を限度とする



スケート利用が可能な樹脂マット



JUNCTION STUDIO 内観

方向性 4：競技大会等に対応可能な 観客席の確保

- 競技種別や大会規模に応じた機能確保

具体的な対応

- 月寒体育館後継施設
 - ・スケートリンク：2,000～2,500 席
- 美香保体育館後継施設
 - ・スケートリンク：300～500 席
 - ・カーリングリンク：約 200 席

月寒体育館・美香保体育館の後継施設は、これまでに開催されてきた競技大会などの実績を踏まえ、「体験する」「育てる」「観る・魅せる」スポーツ機能として必要な観客席数の確保を目指します。

(1) スケートリンクの観客席数

＜大会等の開催状況＞

施設	競技	主な大会等の観客数
月寒体育館 ・固定席：2,321 席	アイスホッケー	・2016 年：オリンピック予選（2,500 人） ・2017 年：アジア大会（1,500 人） ・数年毎：全日本選手権大会（2,400 人） ※過去 90 回のうち札幌開催は 11 回 ・毎年：アジアリーグ（最多 2,550、平均 1,400 人） ※札幌では年間 6 試合程度開催
	フィギュアスケート	・2016 年：全日本ジュニア選手権大会（1,000 人） ・2018 年：浅田真央ツアー（2,500 人） ・毎年：札幌選手権大会（300 人）
	カーリング	・2015 年：世界女子カーリング選手権札幌大会（1,600 人）
美香保体育館 ・固定席：1,271 席 （車いす席 7 席含む）	アイスホッケー	・2017 年：アジア大会（900 人）
	フィギュアスケート	・数年毎：北海道選手権大会（100 人） ・毎年：札幌市民スポーツ大会（150 人）
	ショートトラック	・数年毎：東日本選手権大会（30 人） ・毎年：北海道選手権大会（60 人）
星置スケート場 ・観客席：なし	アイスホッケー	・2017 年：アジア大会（800 人） ・毎年：札幌市民スポーツ大会（300 人）
【参考】 真駒内セキスイハイム アイスアリーナ ・固定席：6,024 席 ・移動席：約 4,000 席	フィギュアスケート	・2017 年：アジア大会（4,800 人） ・数年毎：NHK 杯国際競技大会（5,200 人） ※過去 44 回のうち札幌開催は 5 回
	ショートトラック	・2017 年：アジア大会（1,900 人） ・2017 年：全日本選手権大会

<現在の各施設における対応範囲>

アイスホッケー

集客規模	無観客、立見	～500 人規模	～2,500 人規模	～10,000 規模
主な大会等 実績	市内大会等	道内・市内大会等	国際・全国大会等	特に集客力の 高い国際大会等
	星置スケート場	月寒体育館		

フィギュアスケート

集客規模	無観客、立見	～500 人規模	～2,500 人規模	～10,000 規模
主な大会等 実績	市内大会等	道内・市内大会等	国際・全国大会等	特に集客力の 高い国際大会等
	星置スケート場※	美香保体育館	月寒体育館※	真駒内セキスイ ハイムアイスアリーナ
※フィギュアスケートの大会について、美香保体育館が利用出来ない夏季は月寒体育館等で開催しているが、アイスホッケー用のガードフェンスにより、審査やコーチングがやり難いなどの支障がある				

ショートトラック

集客規模	無観客、立見	～500 人規模	～2,500 人規模	～10,000 規模
主な大会等 実績	市内大会等	道内・市内大会等	国際・全国大会等	特に集客力の 高い国際大会等
	美香保体育館	真駒内セキスイ ハイムアイスアリーナ		

<月寒体育館・美香保体育館の後継施設における対応>

大会開催にあたり、会場に求められる施設機能が競技によって異なるため、それぞれアイスホッケー、フィギュアスケート・ショートトラックに対応した大会機能を確保します。

施設	対応の考え方	後継施設の対応
月寒体育館	・現施設は、アイスホッケーを中心に、概ね1,000人以上の観客が見込まれる各競技大会等の会場として利用され、数年毎に開催される集客2,500 人規模の大会も複数開催されていることから、後継施設にも同程度の観客席が引き続き必要	固定席 2,000～2,500 席程度を確保
美香保体育館	・現施設は、フィギュアスケートやショートトラックにおける観客数が数百人程度の大会等の会場として利用されており、後継施設にも、これに対応する観客席は引き続き必要（※現施設には約 1,200 席の固定席があるが、利用実績を踏まえ、観客席規模を縮小）	固定席 300～500 席程度を確保

(2) カーリングリンクの観客席数

＜大会等の開催状況＞

施設	主な大会等の観客数
どうぎんカーリングスタジアム ・固定席：224 席 (車いす席 16 席含む)	・2017 年：アジア大会（250 人） ・2019 年：日本選手権（500 人）
月寒体育館 ・固定席：2,321 席	・2015 年：世界女子カーリング選手権札幌大会（1,600 人）

＜現在の各施設における対応範囲＞

集客規模	無観客	～500 人規模	～2,000 人規模
主な大会等実績	市内大会等	国際・全国・道内・市内大会	大規模な国際大会
	どうぎんカーリングスタジアム※ ※大会規模によってはスペース不足となるため、月寒体育館の駐車場を利用することで対応		月寒体育館

＜美香保体育館の後継施設（カーリングリンク）における対応＞

現在、大会等が行われているどうぎんカーリングスタジアムは、屋内外のスペースに余裕がなく、大会規模によって隣接する現月寒体育館の駐車場を利用しなければならないなどの状況を踏まえ、美香保体育館の後継施設においても、大会に対応可能な観客席を確保します。

施設	対応の考え方	後継施設の対応
美香保体育館	・どうぎんカーリングスタジアムは、大会規模によってスペース不足となる課題があるため、美香保体育館の後継施設においても、大会に対応できる観客席が必要 ・観客席は、大会時等の観覧・選手待機場所、修学旅行・観光利用時の説明・待機場所など、様々な用途で利用されており、どうぎんカーリングスタジアムと同程度の最低限の規模は必要	固定席 200 席程度を確保

方向性5：更新施設の拠点等への配置 及び他施設との集約・複合化

- 効率的・効果的な施設配置
- 札幌市の魅力と活力の向上・まちづくりへの寄与

具体的な対応

- 月寒体育館後継施設：市内南東部に配置
- 美香保体育館後継施設：市内北東部に配置

月寒体育館・美香保体育館の後継施設について、まちづくりと連携した拠点等への立地や、他施設との集約・複合化などにより、市民や観光客など誰もが利用しやすく、人口減少・超高齢社会が進む中にあっても持続可能な施設配置を目指します。

(1) 施設配置の考え方

アイスリンク施設の配置の考え方について、関連計画等を踏まえ、以下のとおり整理します。

① 均衡ある施設配置

- 市民のアクセス性を確保するため、市域全体において均衡ある施設配置とする。
- ◆アイスリンクは、現在、市内の北西・北東・南西・南東それぞれにあり、市域全体として比較的、均衡ある配置となっていることから、新月寒体育館・新美香保体育館についてもこれを踏襲し、現施設近傍での整備を検討

② 施設の集約・複合化

- 更新する施設は、他施設との集約化・複合化により、効率的・効果的な施設配置を進め、持続可能な施設環境を形成
 - ◆新月寒体育館・新美香保体育館は、周辺にある市有施設や新たに設置検討中の市有施設のうち、集約化・複合化により、効率的・効果的な施設配置・運用が期待できる施設との一体的な整備を検討
- [現月寒体育館周辺市有施設]
- ・ どうぎんカーリングスタジアム ・ 豊平区体育館 ・ 札幌ドーム
- [現美香保体育館周辺市有施設]
- ・ 東区体育館 ・ スポーツ交流施設（つどーむ）（以下「つどーむ」という）
- [その他、整備検討中の市有施設]
- ・ アリーナ、屋内・屋外スポーツ施設：札幌ドーム周辺地域におけるスポーツ交流拠点基本構想

③ まちづくりとの連携

- まちづくりと連携した施設配置により、人口減少社会の中にあっても、都市の魅力と活力を維持・向上させていく、効率的に都市サービスを楽しむコンパクトな都市づくりに寄与
- ◆新月寒体育館・新美香保体育館は、多様な都市機能が集積する地域交流拠点や、高次機能交流拠点等における取組と連携した施設配置を検討

(2) 新月寒体育館の立地場所

新月寒体育館の立地場所について、前述の「(1) 施設配置の考え方」に基づき、現施設周辺において、更新時期を迎える 2030 年頃までの整備が可能となる候補地及び、集約・複合化の可能性のある施設を抽出し比較検討しました。

その結果、スポーツ・文化芸術や集客交流産業を振興する高次機能交流拠点の形成や札幌ドームとの連携により、様々な効果が期待できる「札幌ドーム周辺」を候補地とします。

今後、個別の整備基本計画等において、札幌ドームとの集約・一体的な施設運営・活用や、まちづくりへの寄与等、その実現可能性及び整備効果などを検討のうえ、立地場所を決定します。

新月寒体育館 (市内南東部)		現月寒体育館敷地 (豊平区月寒東 1 条 8 丁目)	豊平区体育館敷地 (豊平区月寒東 2 条 20 丁目)	札幌ドーム周辺 (豊平区羊ケ丘 1 番地ほか)
敷地概要	敷地面積	48,166 m ² (ラグビー場等含む)	13,697 m ²	305,230 m ²
	土地利用制限	■ 第二種住居地域 (容積率 200/建ぺい率 60) ■ 準住居地域 (容積率 300/建ぺい率 60) ■ 45m 高度地区 ■ 都市機能誘導区域 (地域交流拠点)	■ 準住居地域 (容積率 200/建ぺい率 60) ■ 18m 高度地区 ■ 宅地造成工事規制区域 ■ 指定緊急避難場所 (洪水・土砂・地震) 兼 指定避難所 (基幹)	■ 市街化調整区域 (容積率 200/建ぺい率 60) ■ 第 1・4 種風致地区 (高さ 10m・15m / 建ぺい率 30・40) ■ 緑保全創出地域：里山地域 (樹林地率・保全樹林地率 50%以上) ■ 大規模火災時指定緊急避難場所 (札幌ドーム)
	用途地域による建築制限	△ ・観客席を有する建物 (観覧場) は不可 (※現月寒体育館は既存不適格)	△ ・観客席を有する建物 (観覧場) は不可	○ ・公益上必要な建築物は、市街化調整区域においても建築可
「施設配置の考え方」等への適合性	アクセス性	○ ・地下鉄月寒中央駅近傍	△ ・地下鉄福住駅からバス乗車	△ ・地下鉄福住駅から徒歩 10～20 分
	まちづくり効果	○ ・地域交流拠点：月寒の都市機能集積に寄与	× ・周辺は住宅地であり、にぎわい創出等を目指す拠点の位置付けなし	○ ・高次機能交流拠点：札幌ドーム周辺の形成に寄与 (スポーツや集客交流産業の拠点性向上等)
	施設集約・複合化	○ ・どうぎんカーリングスタジアム、ラグビー場等のスポーツ施設が集積した場の維持が可能	△ ・豊平区体育館 (1984 年築) は更新時期まで 20 年程度あるが、集約・複合化は可能	○ ・札幌ドーム周辺地域におけるスポーツ交流拠点基本構想に示す、札幌ドーム周辺への集約・複合化

(3) 新美香保体育館の立地場所

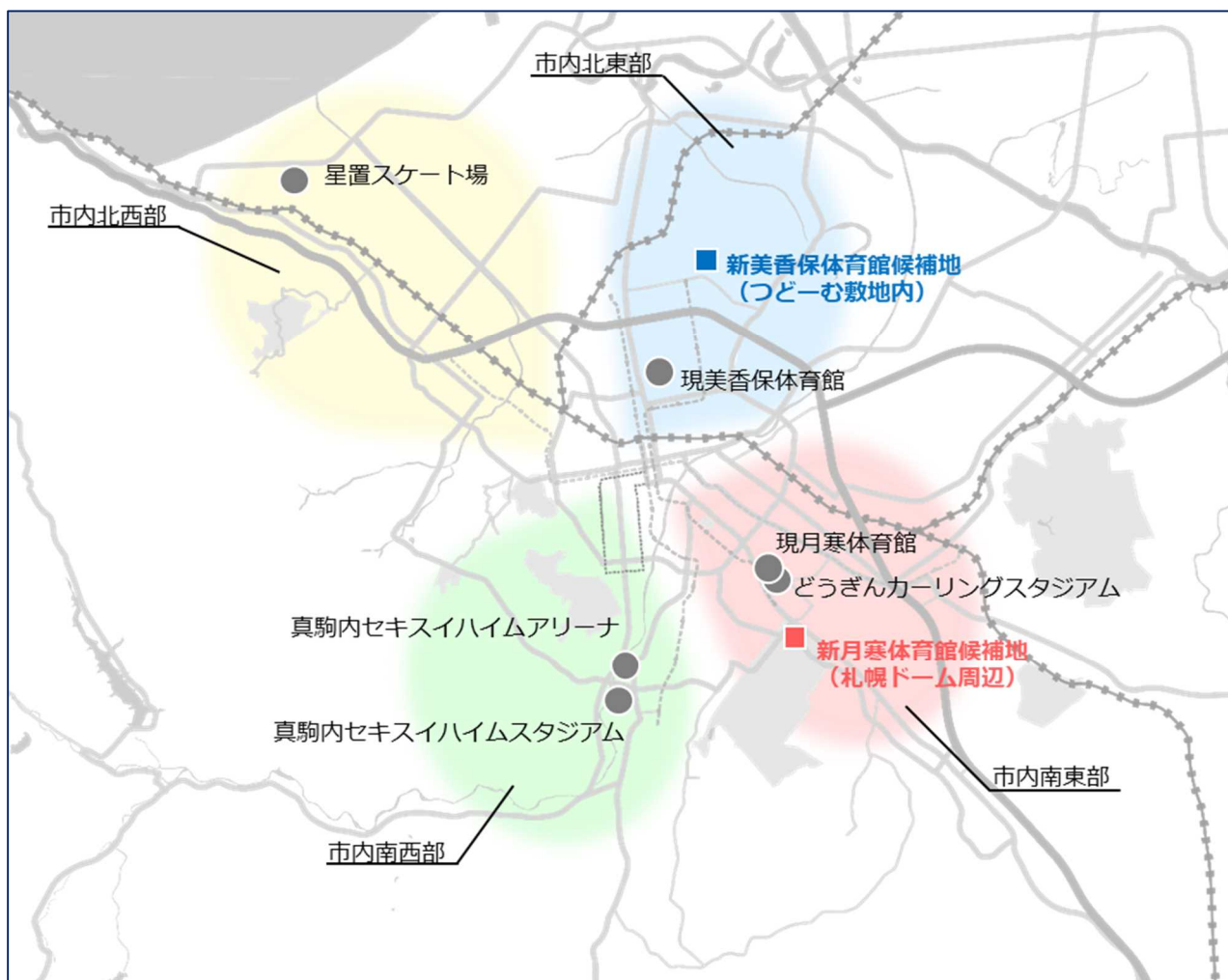
新美香保体育館の立地場所について、前述の「(1) 施設配置の考え方」に基づき、現施設周辺において、更新時期を迎える 2030 年頃までの整備が可能となる候補地及び、集約・複合化の可能性のある施設を抽出し、比較検討しました。

その結果、つどーむや、地域交流拠点である「栄町」及び高次機能交流拠点である「丘珠空港周辺」との機能連携が期待できる「つどーむ敷地内」を候補地とします。

今後、個別の整備基本計画等において、つどーむとの集約・一体的な施設運営・活用や周辺のまちづくりへの寄与等、その実現可能性及び整備効果などを検討のうえ、立地場所を決定します。

新美香保体育館 (市内北東部)		現美香保体育館敷地 (東区北 22 条東 5 丁目)	東区体育館敷地 (東区北 27 条東 14 丁目)	つどーむ敷地内 (東区栄町 885 番地 1)
敷地概要	敷地面積	82,944 m ² (公園全体)	7,757 m ²	133,329 m ²
	土地利用制限	■ 第二種中高層住居専用地域 (容積率 200/建ぺい率 60) ■ 27m高度地区 ■ 緑保全創出地域: 居住系市街地 (緑化 20%以上) ■ 浸水想定 (浸水深 0.5m 未満) ■ 都市公園 (地区公園)	■ 第二種住居地域 (容積率 200/建ぺい率 60) ■ 33m高度地区 ■ 緑保全創出地域: 居住系市街地 (緑化率 20%以上) ■ 浸水想定 (浸水深 0.5~3.0m 未満) ■ 指定緊急避難場所兼指定避難所: 基幹 (洪水、地震)	■ 市街化調整区域 (容積率 200/建ぺい率 60) ■ 緑保全創出地域: 里地地域 (緑化率 30%以上) ■ 浸水想定 (浸水深 0.5~3.0m 未満) ■ 航空進行区域 ■ 大規模火災時指定緊急避難場所
	用途地域による建築制限	× ・体育館、スケート場、観客席を有する建物 (観覧場) は不可 (現美香保体育館は既存不適格)	△ ・観客席を有する建物 (観覧場) は不可	○ ・公益上必要な建築物は、市街化調整区域においても建築可
「施設配置の考え方」等への適合性	アクセス性	△ ・地下鉄北 24 条駅から徒歩 15 分	○ ・地下鉄元町駅から徒歩 5 分	△ ・地下鉄栄町駅から徒歩 15 分
	まちづくり効果	× ・周辺は住宅地であり、にぎわい創出などを目指す拠点等の位置付けはなし	× ・周辺は住宅地であり、にぎわい創出などを目指す拠点等の位置付けはなし	○ ・地域交流拠点: 栄町の都市機能集積、高次機能交流拠点: 丘珠空港周辺との機能連携等に資する可能性がある
	施設集約・複合化	△ ・敷地に余裕がないため、他施設との集約・複合化により規模が拡大する場合、隣接する既存野球場の一部廃止等が必要	× ・東区体育館 (1981 年築) は更新時期まで 20 年程度あるほか、敷地が小規模であるため集約・複合化は困難	○ ・既存のつどーむと集約・複合化

【アイスリンク施設配置イメージ】



第4章 今後の進め方

1 各施設における具体的な対応

月寒体育館及び美香保体育館の更新に向け、以下のとおり取組を進めます。

	新月寒体育館	新美香保体育館
立地場所（候補地）	・札幌ドーム周辺 （豊平区羊ケ丘1番地ほか）	・つどーむ敷地内 （東区栄町885番地1）
備える機能	■スケートリンク ・アイスホッケーの国内トップリーグ、オリンピック予選等に対応 ・通年リンク（30m×60m） ・客席（固定2,000～2,500席程度） ■その他 ・事務室 ・選手控室 など	■スケートリンク ・フィギュアスケート及びショートトラックの公式試合に対応 ・通年リンク（30m×60m） ・客席（固定300～500席程度） ■カーリングリンク ・公式試合に対応 ・通年リンク（5シート） ・客席（固定200席程度） ■その他 ・事務室 ・選手控室 など
事業手法	・事業環境や考慮が必要な条件等を踏まえながら、PPP/PFIなど民間活力の活用が可能となる、最適な事業手法を検討	
現施設の対応	・現施設は、後継施設供用開始後に解体（解体後の跡地利用については、今後検討）	

2 氷上競技の裾野拡大に向けた民間施設整備の推進

公共が確保する氷上競技を振興するうえで必要な基本的機能に加え、更なる裾野拡大を図るため、民間による競技環境の拡充を推進します。

- 民間企業等が行う、市民がウィンタースポーツに触れられる機会の創出を目的とした施設整備に対して経費の一部を補助
- 市有地など公共用地への民間施設立地に向けた協議・調整

3 その他、留意事項

新たな施設整備等にあたっては、以下の事項を踏まえ検討を行います。

（1）ユニバーサルデザインの導入

ユニバーサルデザインの導入により、共生社会の実現、誰もが利用しやすく、分かりやすい施設を目指します。

アイスリンクは、パラスポーツを行う場でもあることから、こうした観点からも利用可能な施設整備を進めていきます。

(2) 環境に配慮した施設づくりの検討

アイスリンク施設は熱需要が高い施設であるため、環境に配慮した施設整備が重要となります。

近年、温室効果ガスの削減目標の達成に向けて、エネルギーを極力必要とせず、一方で、エネルギーを創ることでエネルギー収支「ゼロ」を目指す建築物（ZEB）が注目されています。

新たな施設整備にあたっては、費用対効果も考慮しつつ、快適な室内環境を保ちながら、環境負荷の抑制を図るための設備システムの高効率化による省エネルギー化や再生可能エネルギーの活用などの導入を検討のうえ、ZEBの実現可能性も検証します。

(3) ライフサイクル・マネジメント

建物を建設し、解体されるまでの間には、初期建設費の数倍の費用が必要となり、建物の生涯にわたる費用を抑えるためには、事前に運営や修繕更新手法を考慮し、計画を立て進めることが重要となります。

このため、施設更新計画の段階から、施設の長寿命化、点検・保守・修繕更新に優れた材質や設備、資源エネルギーの有効活用等を考慮し、建設費だけでなく、運営や修繕更新の費用を含めた、施設の生涯（ライフサイクル）を通じた経済性を念頭に検討します。

4 構想の見直し

本構想は、氷上競技を取り巻く社会情勢の変化などの状況を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

I 市民意見把握の取組

(1) 施設の利用に関するアンケート調査

■調査期間

令和4年（2022年）7月29日（金）～8月8日（月）

■調査概要

本アンケートは、今後の施設整備方針の基礎資料とするため、アイスリンクを利用する各競技の競技団体に登録しているチーム・選手を対象に、施設の利用状況や競技環境などを把握することを目的として実施した。

■調査対象（175チーム）

- | | |
|-----------------------|-------|
| ・札幌アイスホッケー連盟登録チーム | 68チーム |
| ・札幌スケート連盟登録チーム | 20チーム |
| ・札幌カーリング協会主催リーグ戦出場チーム | 87チーム |

■回答状況

(1) 回答数 71チーム

- | | | |
|------|----------------------|-------|
| 内訳 1 | 札幌アイスホッケー連盟登録チーム | 22チーム |
| 2 | 札幌スケート連盟登録チーム | 13チーム |
| 3 | 札幌カーリング協会主催リーグ戦出場チーム | 36チーム |

(2) 回答率 40.6%

- | | | |
|------|----------------------|-------|
| 内訳 1 | 札幌アイスホッケー連盟登録チーム | 32.4% |
| 2 | 札幌スケート連盟登録チーム | 65.0% |
| 3 | 札幌カーリング協会主催リーグ戦出場チーム | 41.4% |

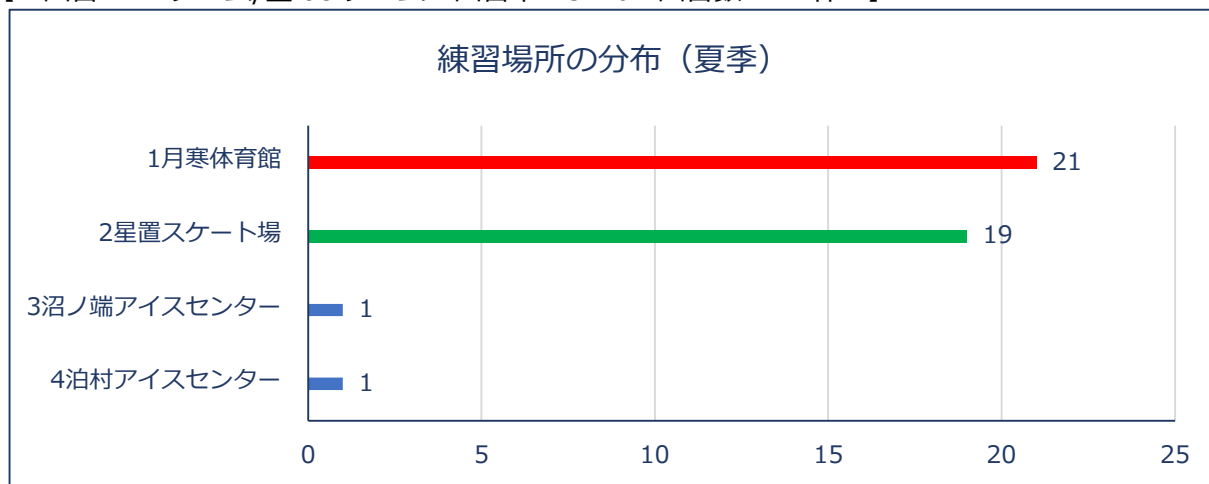
■ アンケート回答集計（施設及び練習環境関連設問のみ抜粋）

設問 5. チームの夏季の主な練習場所と、毎月の練習回数を教えてください。（複数回答）

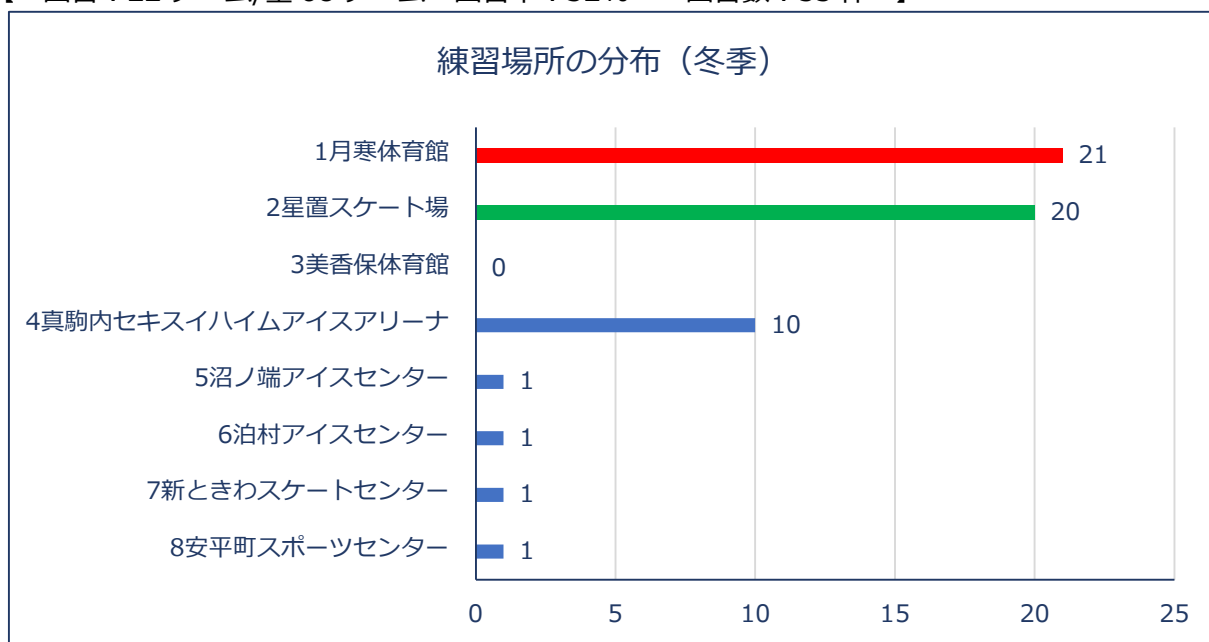
設問 6. チームの冬季の主な練習場所と、毎月の練習回数を教えてください。（複数回答）

①アイスホッケー

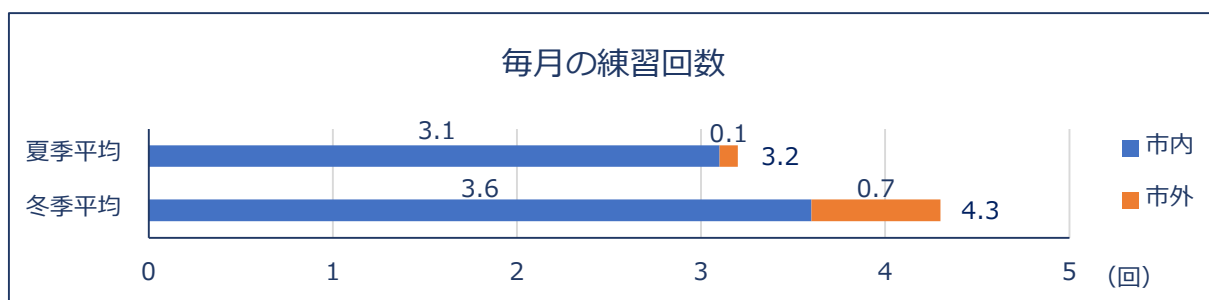
【 回答：22 チーム/全 68 チーム 回答率：32% 回答数：42 件 】



【 回答：22 チーム/全 68 チーム 回答率：32% 回答数：55 件 】

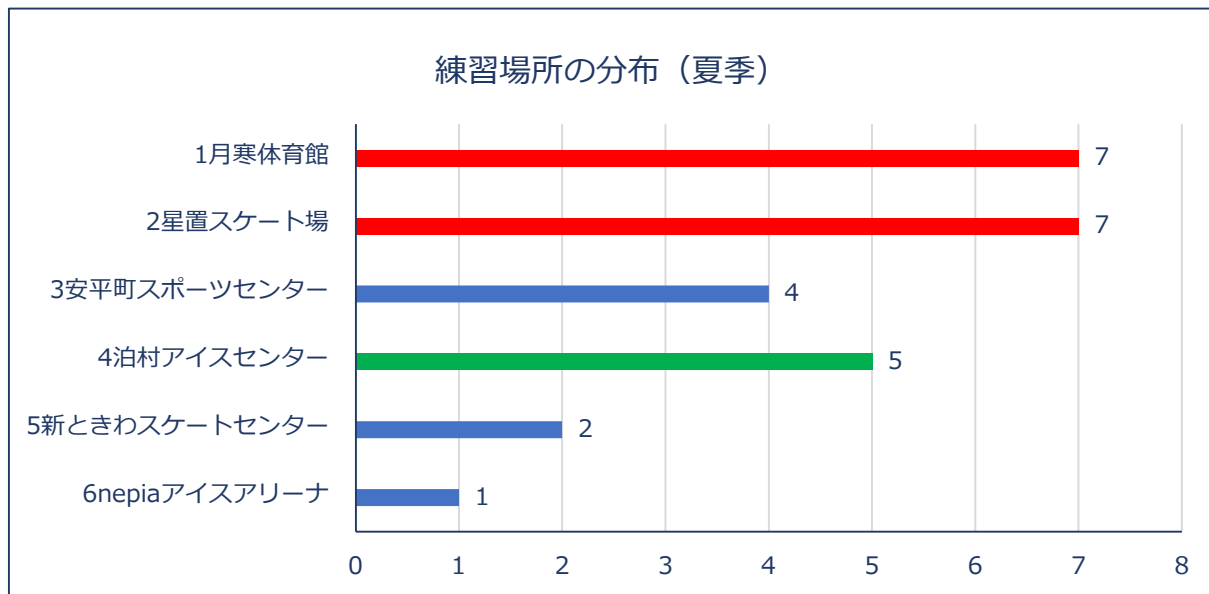


【 回答：22 チーム/全 68 チーム 回答率：32% 回答数：夏季 42 件、冬季 55 件 】

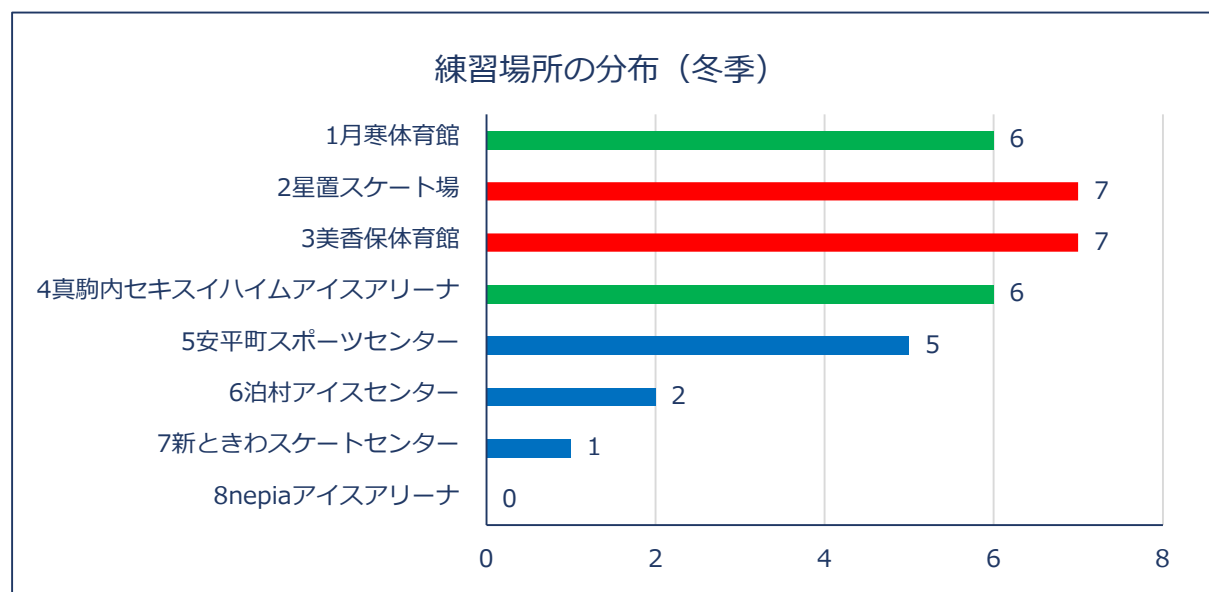


②フィギュアスケート

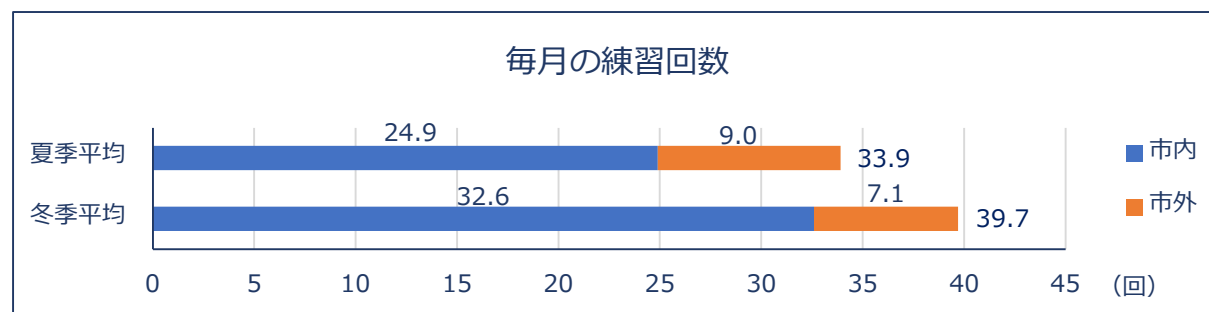
【 回答：7チーム/全14チーム 回答率：50% 回答数：26件 】



【 回答：7チーム/全14チーム 回答率：50% 回答数：34件 】



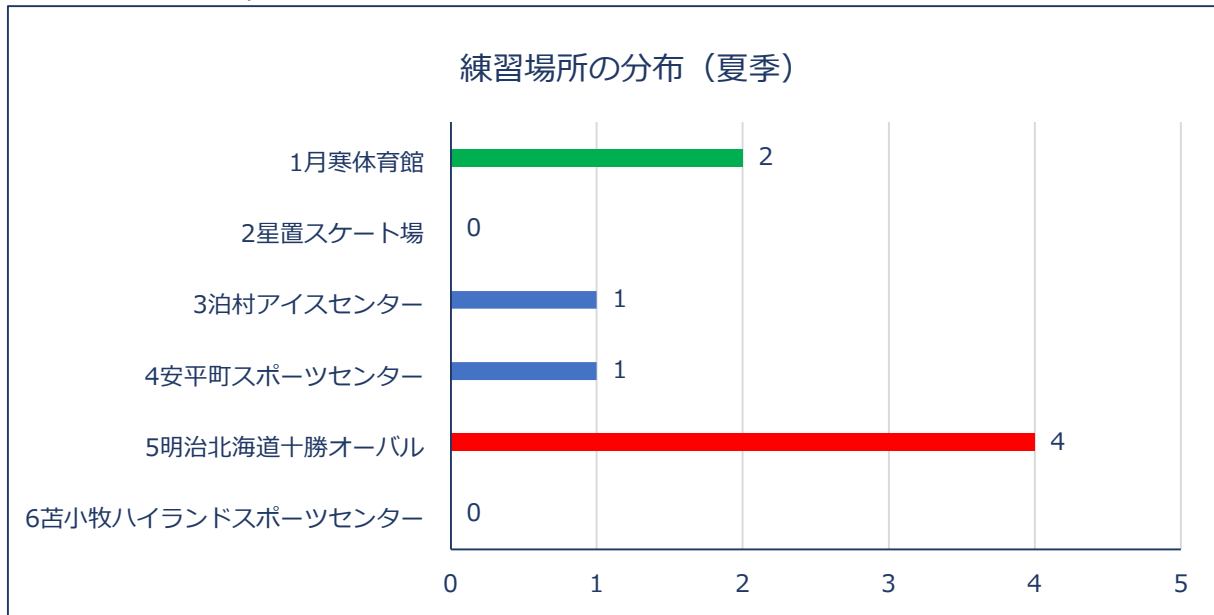
【 回答：7チーム/全14チーム 回答率：50% 回答数：夏季26件、冬季34件 】



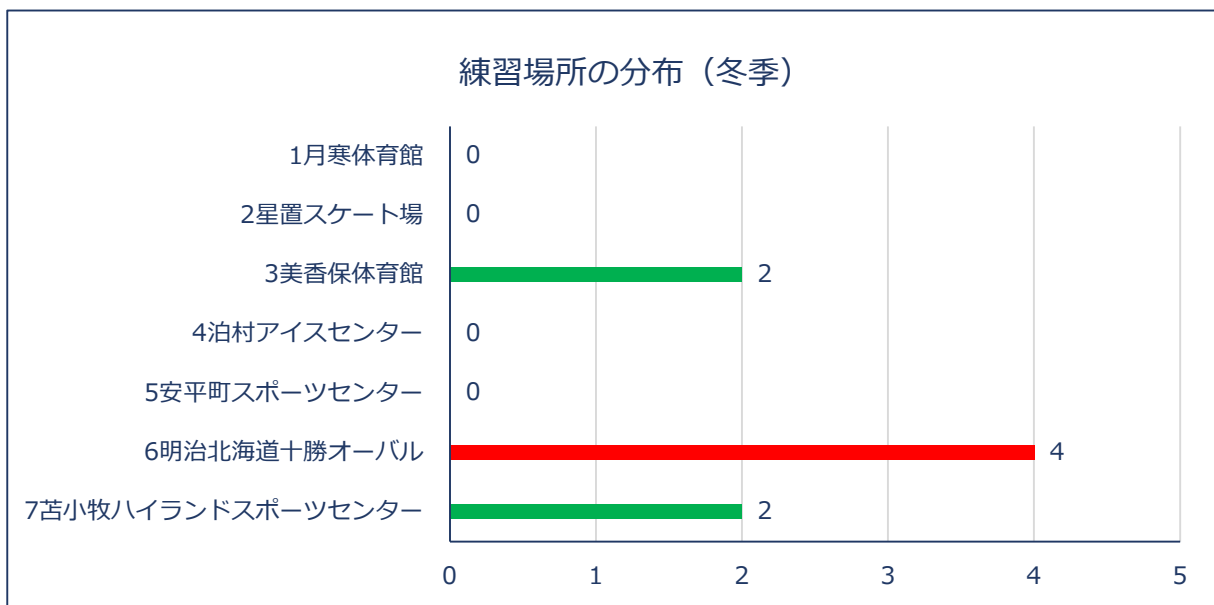
※1日に複数回の練習を行うチームがあるため、30回を超えた集計になっている

③スピードスケート・ショートトラック

【 回答 : 6 チーム/全 6 チーム 回答率 : 100% 回答数 : 8 件 】



【 回答 : 6 チーム/全 6 チーム 回答率 : 100% 回答数 : 8 件 】

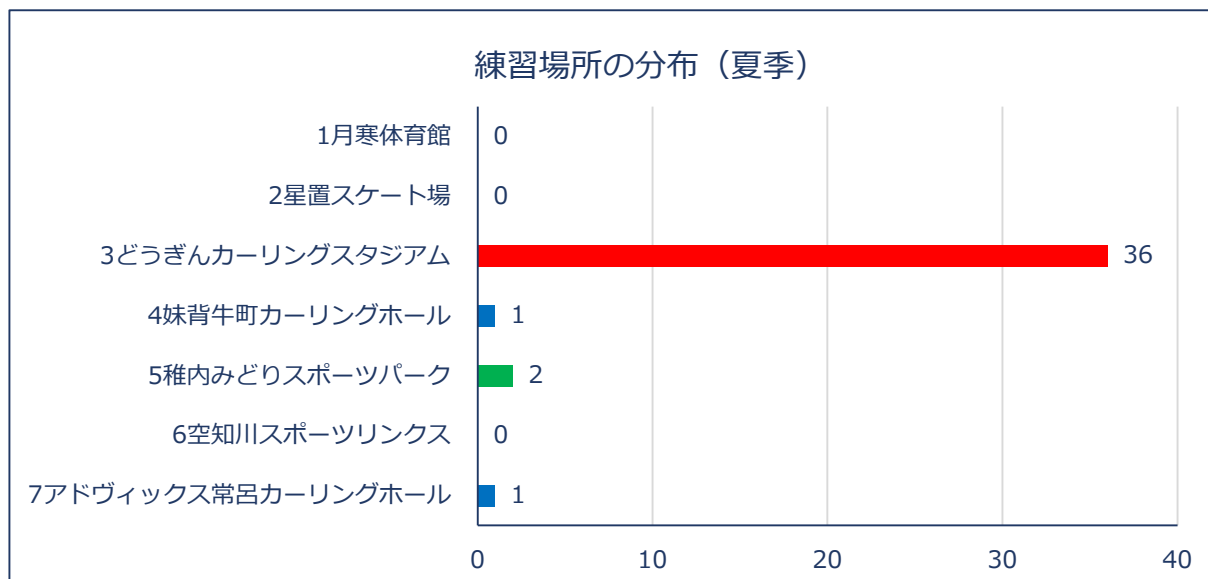


【 回答 : 6 チーム/全 6 チーム 回答率 : 100% 回答数 : 夏季 8 件、冬季 8 件 】

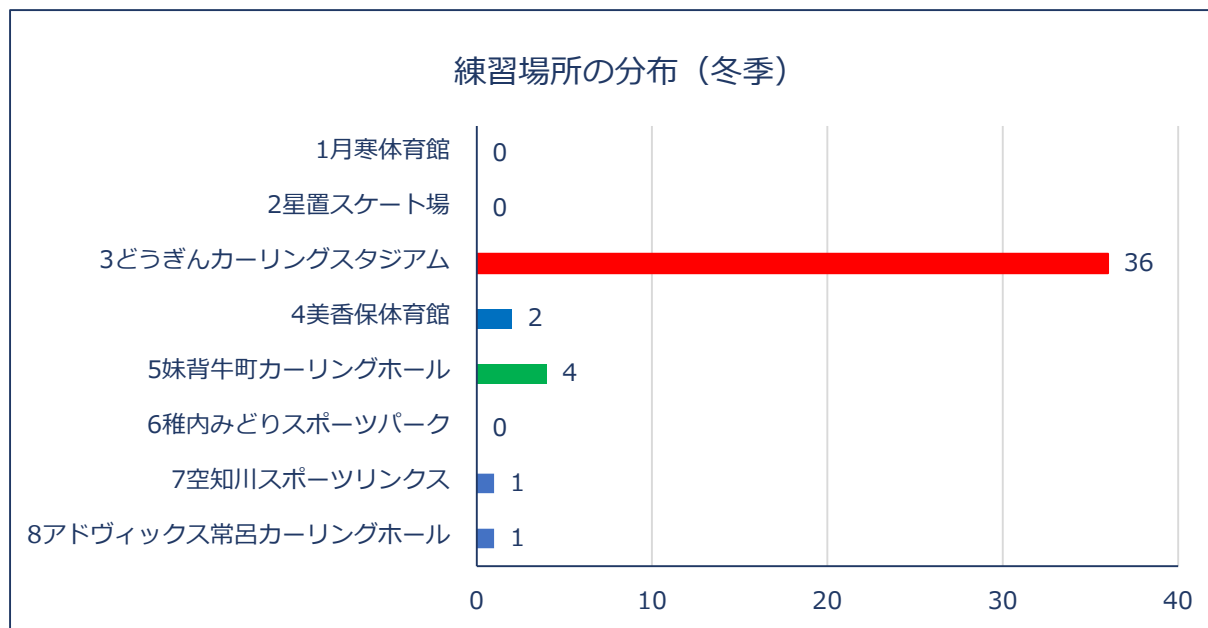


④カーリング

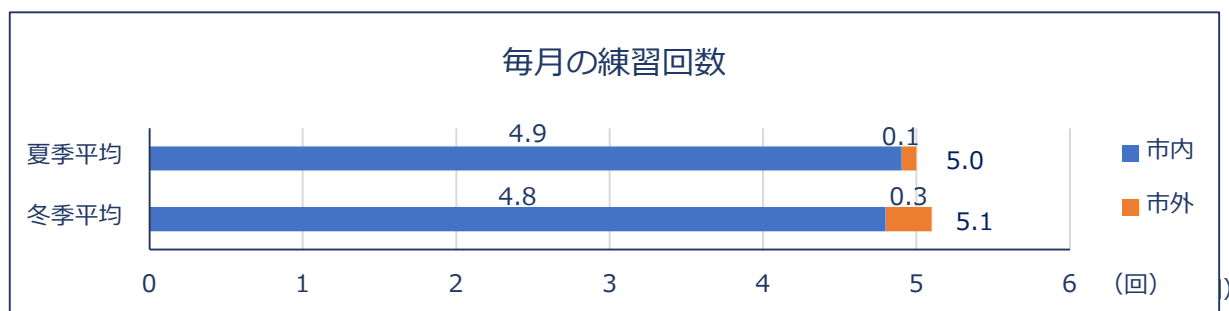
【 回答 : 36 チーム/全 87 チーム 回答率 : 41% 回答数 : 40 件 】



【 回答 : 36 チーム/全 87 チーム 回答率 : 41% 回答数 : 44 件 】



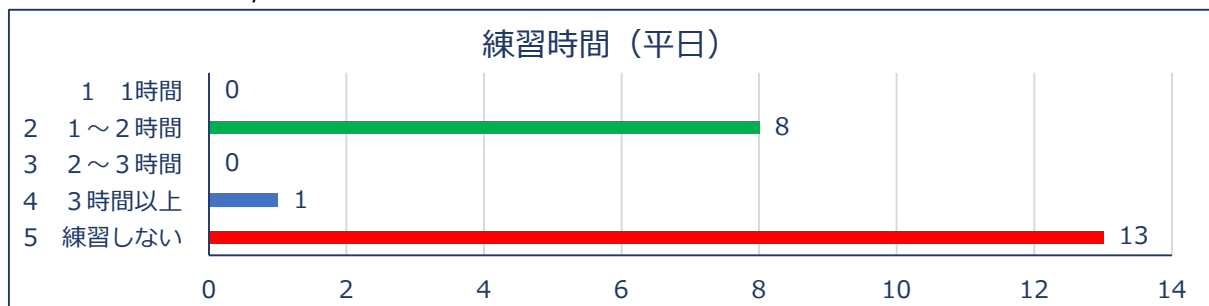
【 回答 : 36 チーム/全 87 チーム 回答率 : 41% 回答数 : 夏季 40 件、冬季 44 件 】



設問 7. チームの平日（月～金）における練習時間（予約時間）を教えてください
（合宿・長期休暇を除く）

①アイスホッケー

【 回答：22 チーム/全 68 チーム 回答率：32% 回答数：22 件 】



②フィギュアスケート

【 回答：7 チーム/全 14 チーム 回答率：50% 回答数：7 件 】



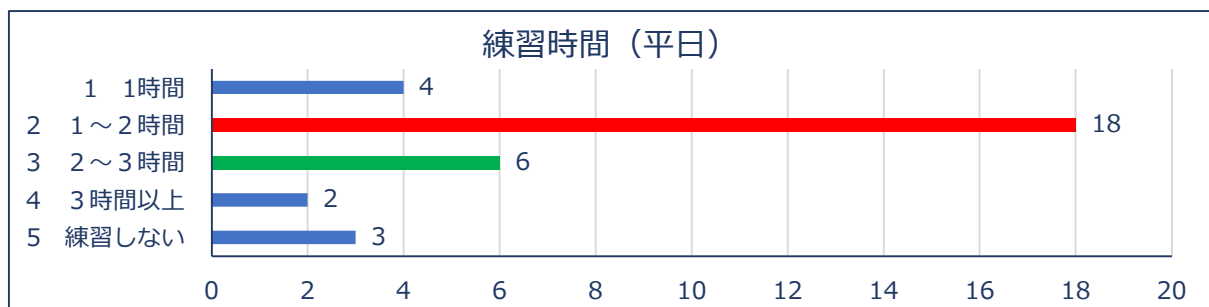
③スピードスケート・ショートトラック

【 回答：6 チーム/全 6 チーム 回答率：100% 回答数：6 件 】



④カーリング

【 回答：33 チーム/全 87 チーム 回答率：38% 回答数：33 件 】



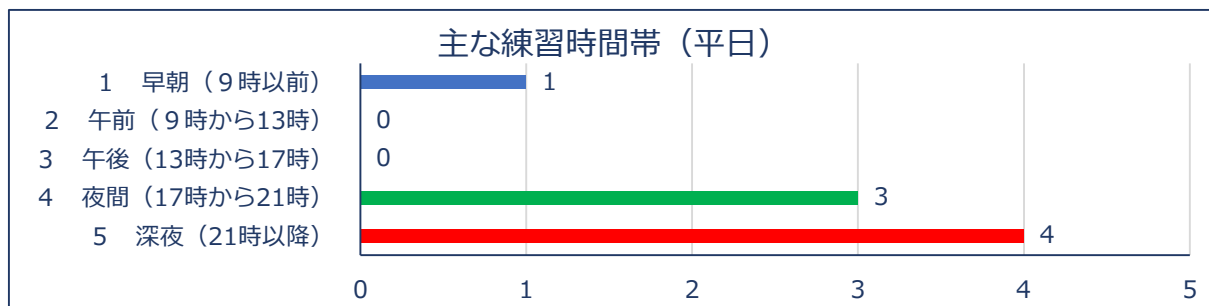
設問 8. 問 7 で 1～4 にチェックした方にお聞きます。

チームの平日（月～金）の主な練習時間帯を教えてください。

（合宿・長期休暇を除く）

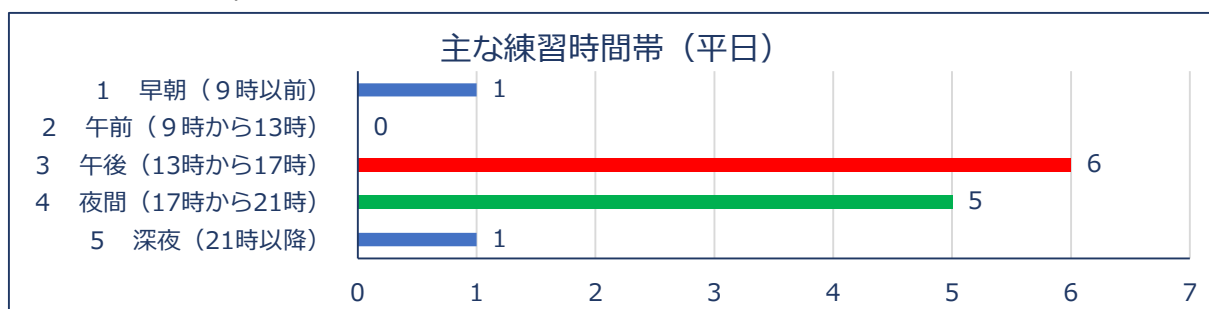
①アイスホッケー

【 回答：8 チーム/全 68 チーム 回答率：12% 回答数：8 件 】



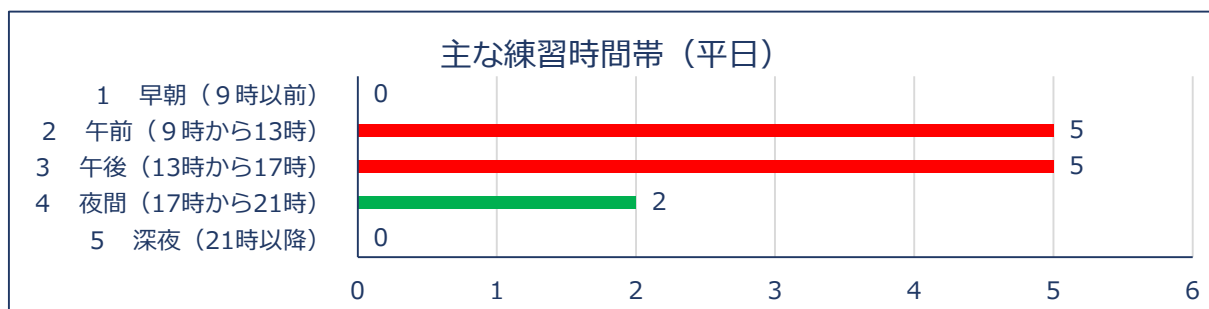
②フィギュアスケート

【 回答：7 チーム/全 14 チーム 回答率：50% 回答数：13 件 】



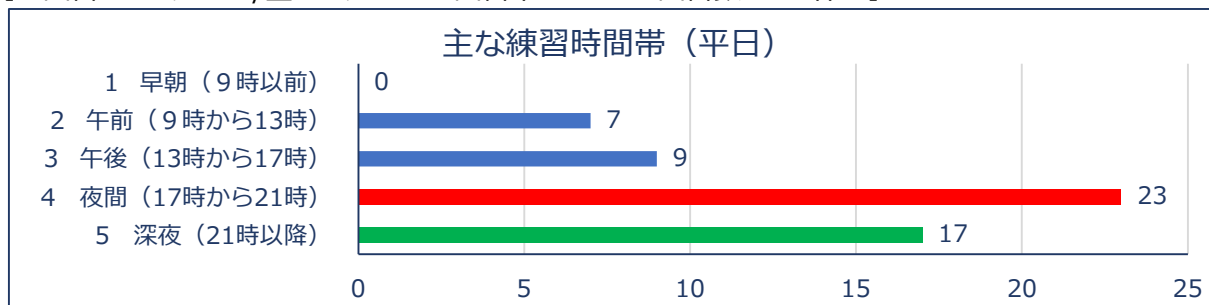
③スピードスケート・ショートトラック

【 回答：6 チーム/全 6 チーム 回答率：100% 回答数：12 件 】



④カーリング

【 回答：32 チーム/全 87 チーム 回答率：37% 回答数：56 件 】



設問 9. チームの休日（土、日）における練習時間（予約時間）を教えてください
（合宿・長期休暇を除く）

①アイスホッケー

【 回答：21 チーム/全 68 チーム 回答率：31% 回答数：21 件 】



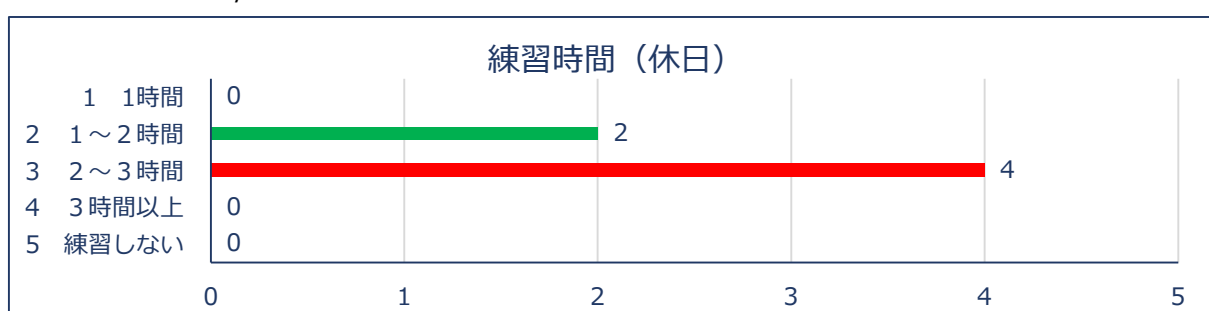
②フィギュアスケート

【 回答：7 チーム/全 14 チーム 回答率：50% 回答数：7 件 】



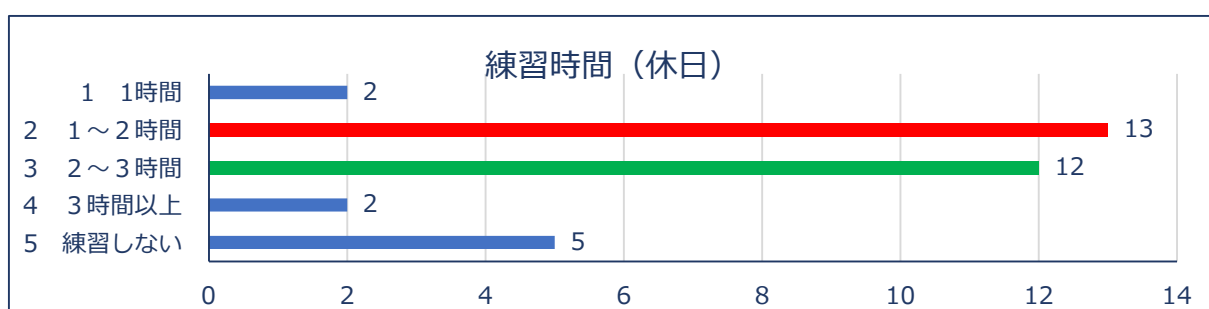
③スピードスケート・ショートトラック

【 回答：6 チーム/全 6 チーム 回答率：100% 回答数：6 件 】



④カーリング

【 回答：33 チーム/全 87 チーム 回答率：38% 回答数：34 件 】



設問 10. 問 9 で 1～4 にチェックした方にお聞きします。

チームの休日（土～日）の主な練習時間帯を教えてください。

（合宿・長期休暇を除く）

①アイスホッケー

【 回答：18 チーム/全 68 チーム 回答率：26% 回答数：29 件 】



②フィギュアスケート

【 回答：7 チーム/全 14 チーム 回答率：50% 回答数：19 件 】



③スピードスケート・ショートトラック

【 回答：6 チーム/全 6 チーム 回答率：100% 回答数：10 件 】



④カーリング

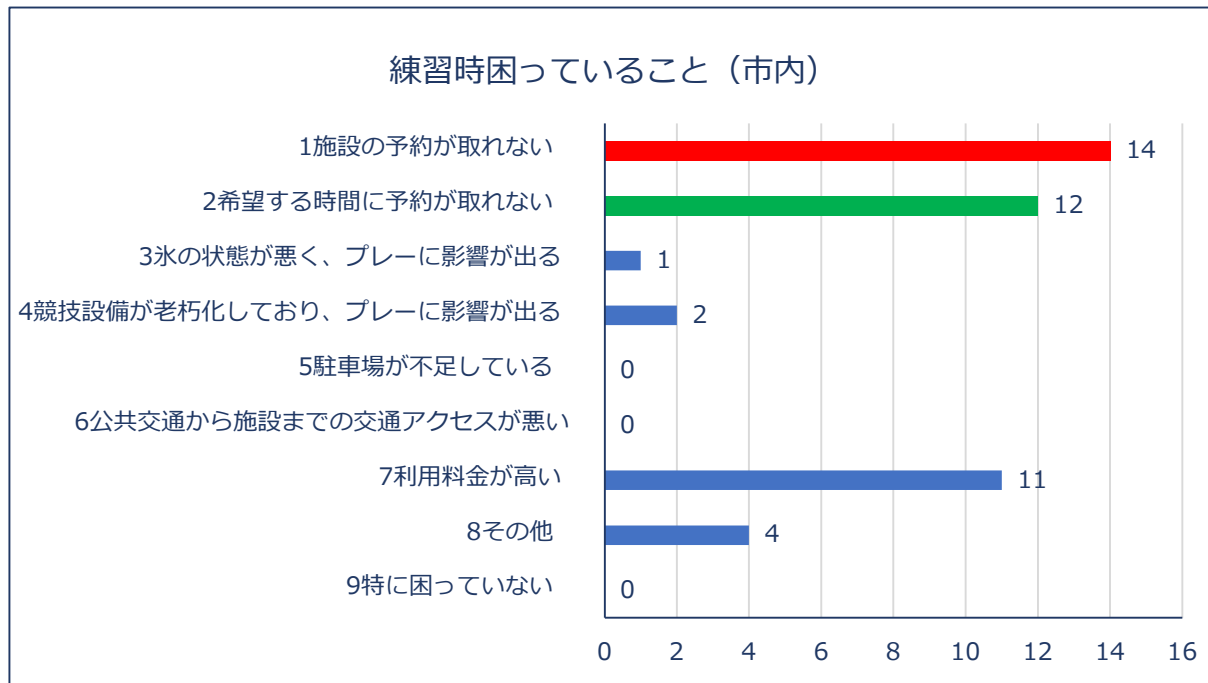
【 回答：29 チーム/全 87 チーム 回答率：33% 回答数：73 件 】



設問 11. 札幌市内で練習する場合に困っていることを教えてください（上位 3 つまで）

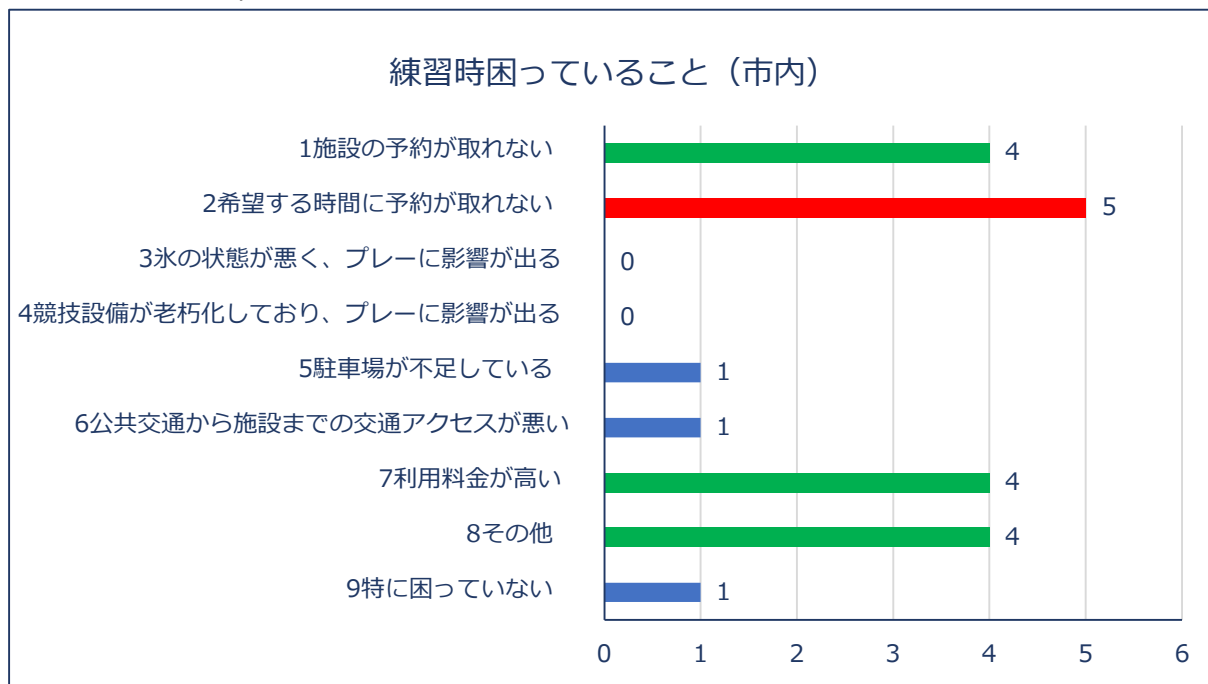
①アイスホッケー

【 回答：22 チーム/全 68 チーム 回答率：32% 回答数：44 件 】



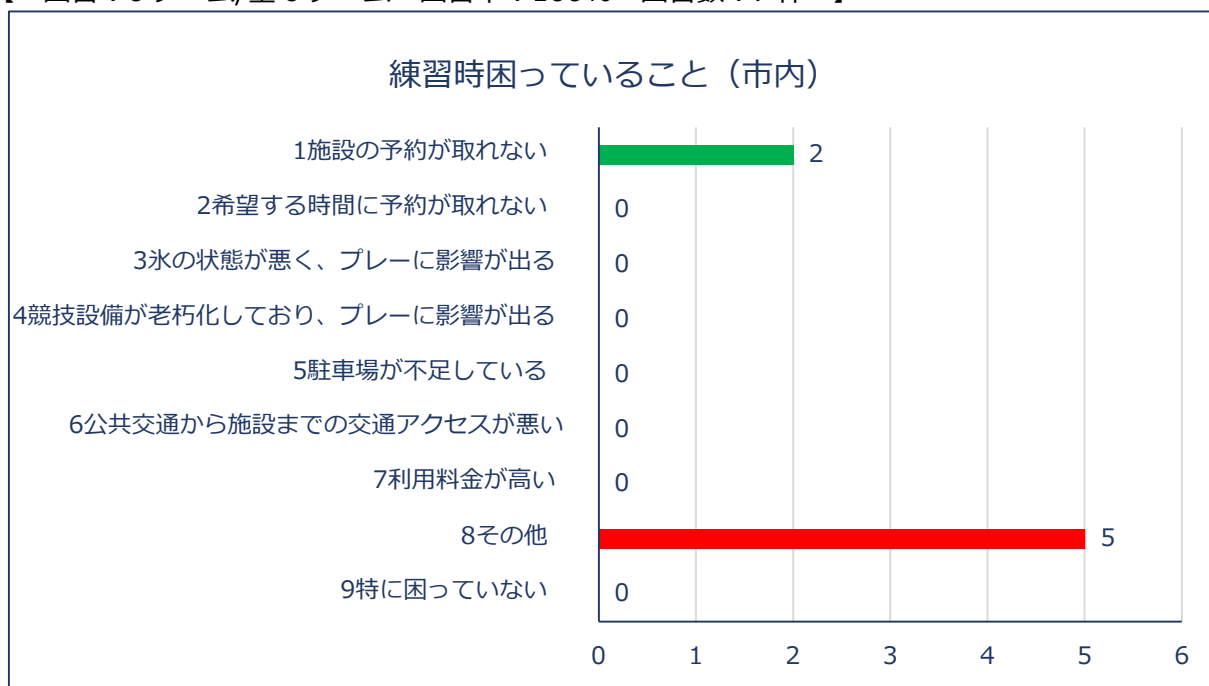
②フィギュアスケート

【 回答：7 チーム/全 14 チーム 回答率：50% 回答数：20 件 】



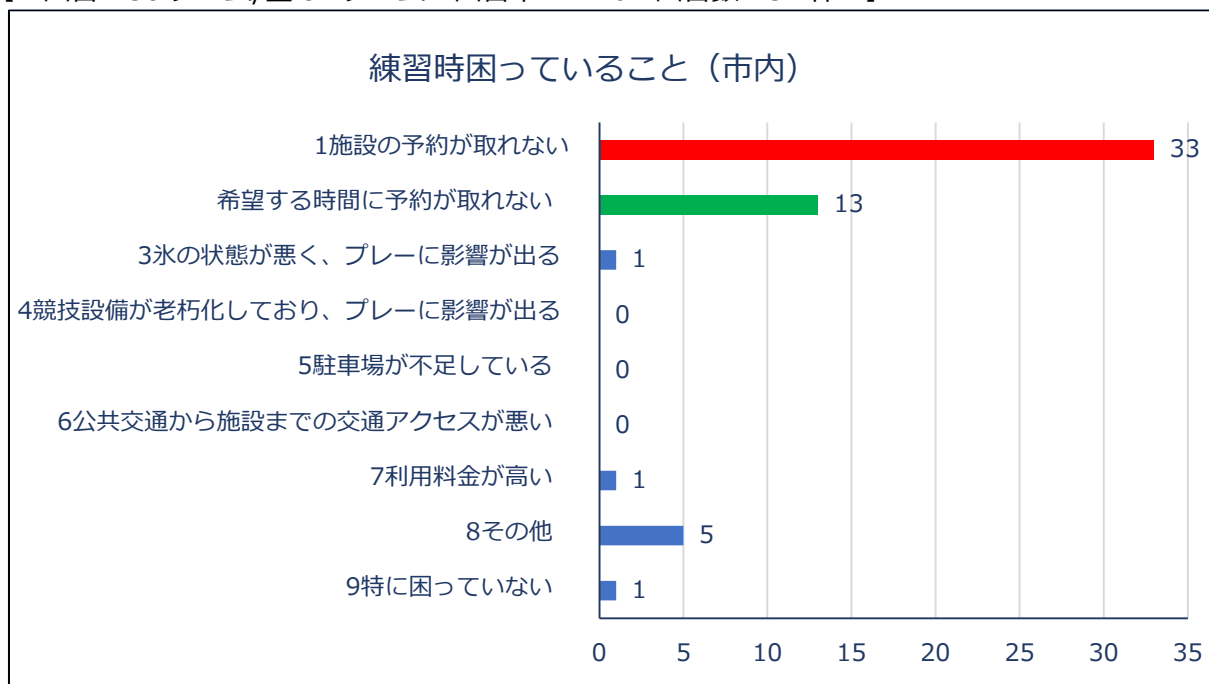
③スピードスケート・ショートトラック

【 回答：6 チーム/全 6 チーム 回答率：100% 回答数：7 件 】



④カーリング

【 回答：36 チーム/全 87 チーム 回答率：41% 回答数：54 件 】



※その他の内容

アイスホッケー

- ・「利用できる施設が 2 つしかなく、苫小牧と比べて少ない」
- ・「大学生は社会人と同じ料金ですが、学生割引料金としてほしい」
- ・「大学生以下の活動が優先で社会人の枠が少ない」
- ・「(施設の) 工事期間と大会前が重なりリンク使用ができない場合があるので配慮いただきたい」

フィギュアスケート

- ・「通年営業は月寒と星置しかないので、美香保も通年リンクを営業して欲しい」
- ・「札幌スケート連盟より貸し切り練習が割り当てられるが、夏の平日の時間帯が午後 4 時からのことが多く、中学生高校生が練習に参加できない」
- ・「美香保の駐車場が足りない。大会の時は特に困っている」
- ・「施設の予約の取り方に優先順位が有り不公平が続いている」

スピードスケート・ショートトラック

- ・「施設がない」
- ・「夏季の屋内リンクが少ない、冬季のスピードスケートリンクがない」

カーリング

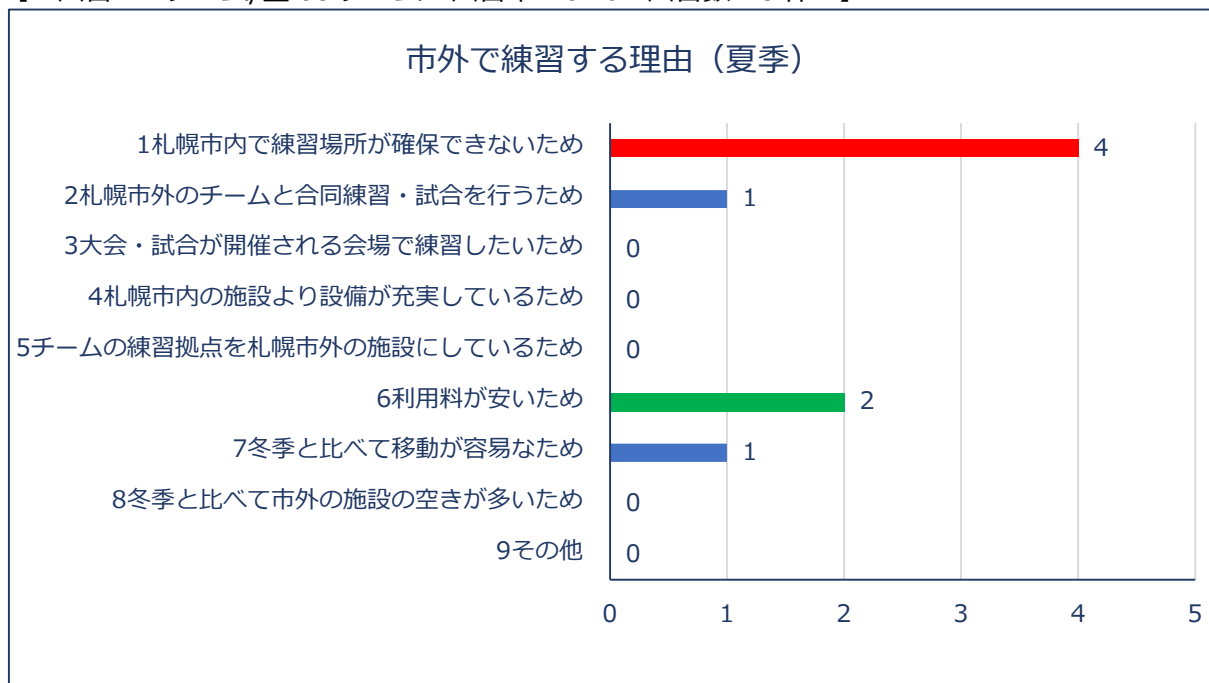
- ・「一度に練習する人数が多い」
- ・「追加で練習したい場合に、施設の空きがなく予約が取れない」
- ・「どうぎんカーリングスタジアムを利用しているが、1 時間あたりの利用料金¥1,500 が 8 人(カーリングの試合における標準的な参加人数)で割り切れない。カーリング施設の料金を検討する際は、1 時間あたり¥1,600 ないし¥2,400 など 8 で割りやすい値にしてほしい」
- ・「休日に予約できない、地下鉄の交通費が高い」
- ・「問 9 で休日に練習しないを選択しましたが、正しくは「練習したくても予約が取れないので練習できない」です」

設問 12. 「問 5 で市外の施設」にチェックを入れた方にお聞きします。

夏季に札幌市外で練習する理由を教えてください（上位 3 つまで）

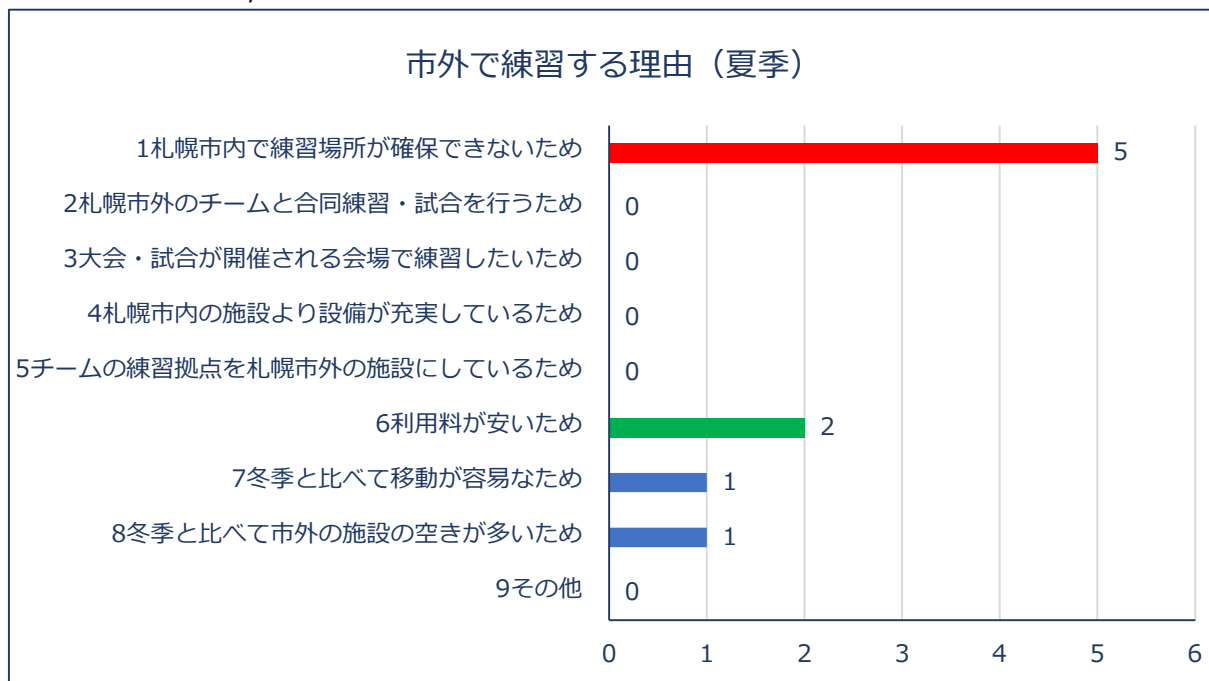
①アイスホッケー

【 回答：4 チーム/全 68 チーム 回答率：6 % 回答数：8 件 】



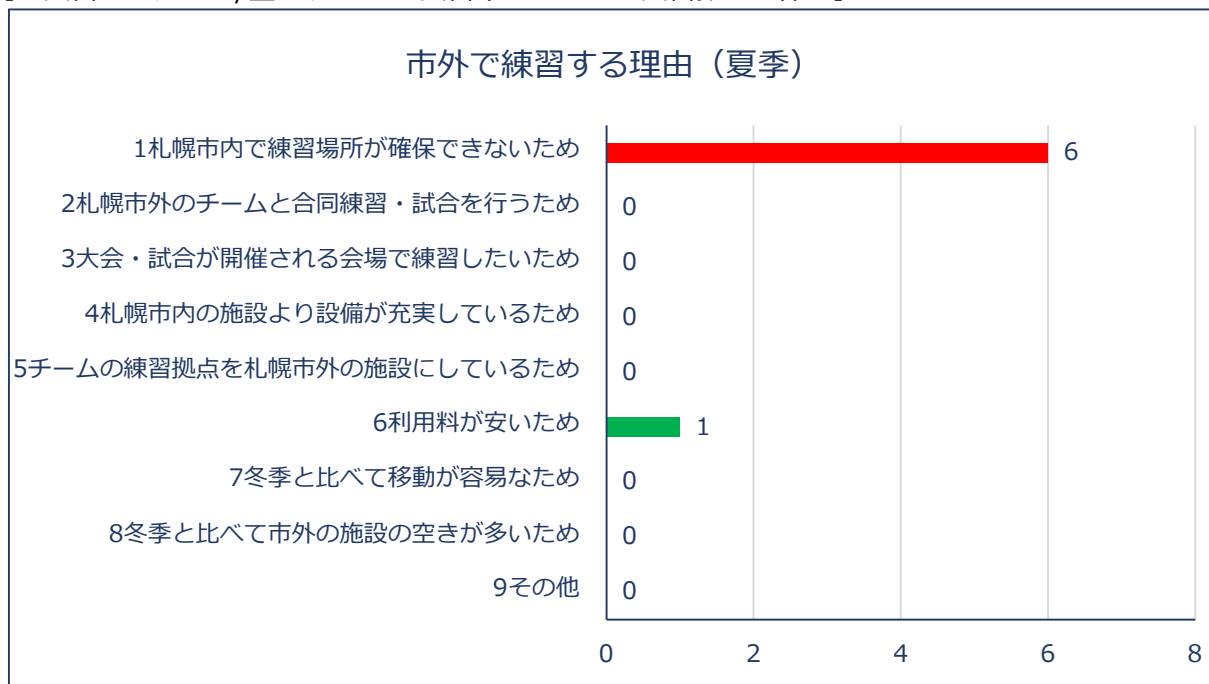
②フィギュアスケート

【 回答：6 チーム/全 14 チーム 回答率：43 % 回答数：9 件 】



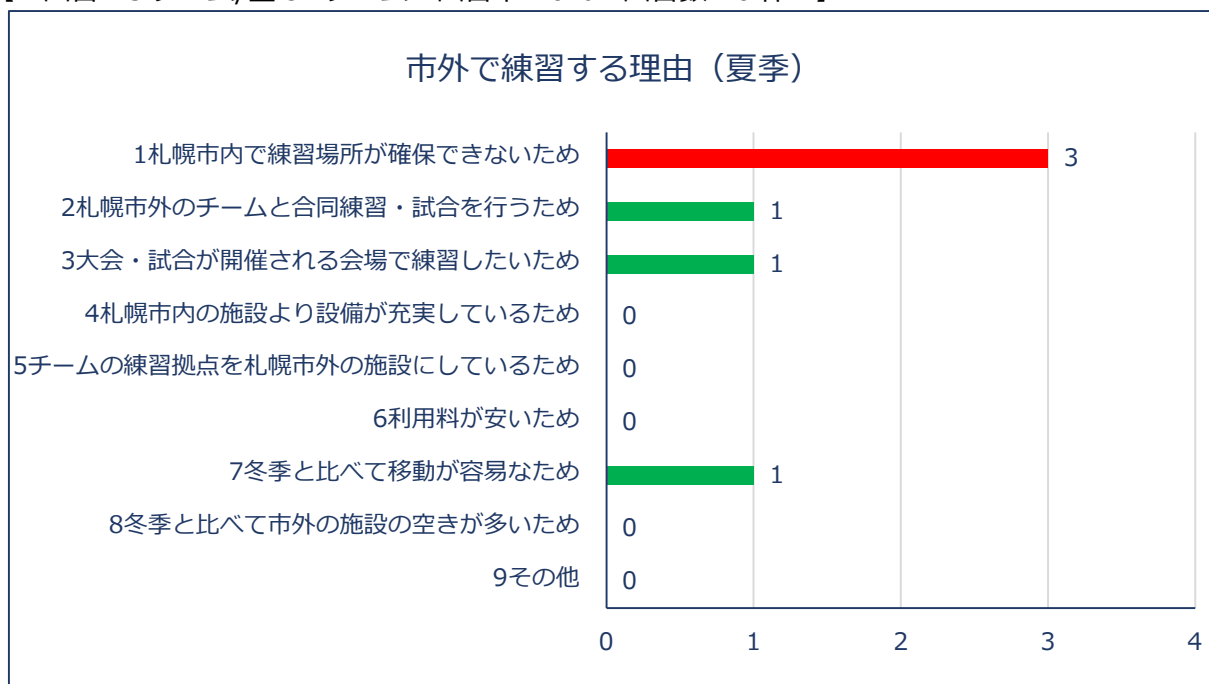
③スピードスケート・ショートトラック

【 回答：6チーム/全6チーム 回答率：100% 回答数：7件 】



④カーリング

【 回答：5チーム/全87チーム 回答率：6% 回答数：6件 】

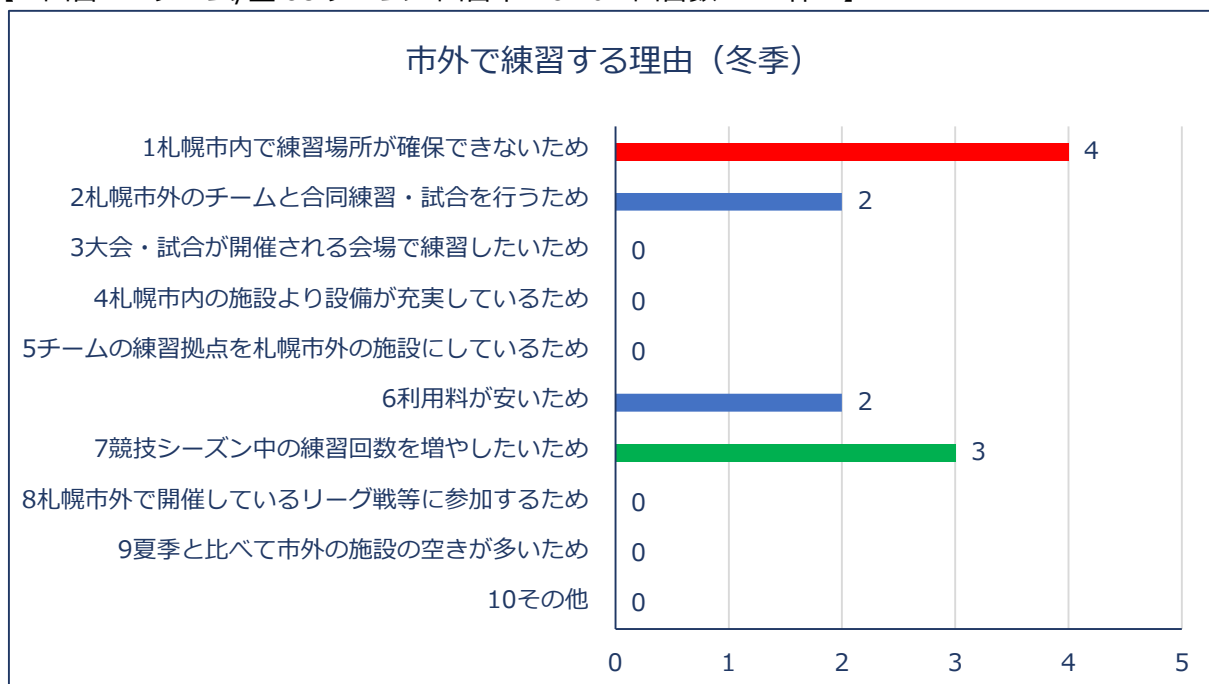


設問 13.問 6 で（市外の施設）にチェックを入れた方にお聞きします

冬季に札幌市外で練習する理由を教えてください（上位 3 つまで）

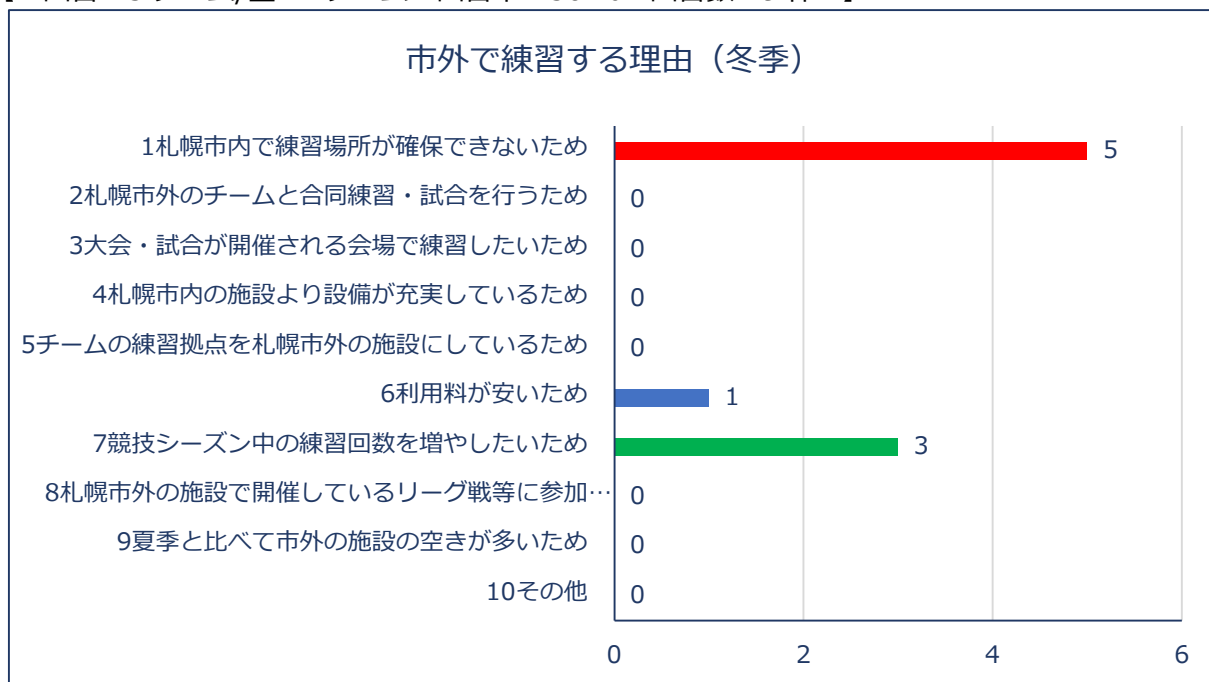
①アイスホッケー

【 回答：4 チーム/全 68 チーム 回答率：6 % 回答数：11 件 】



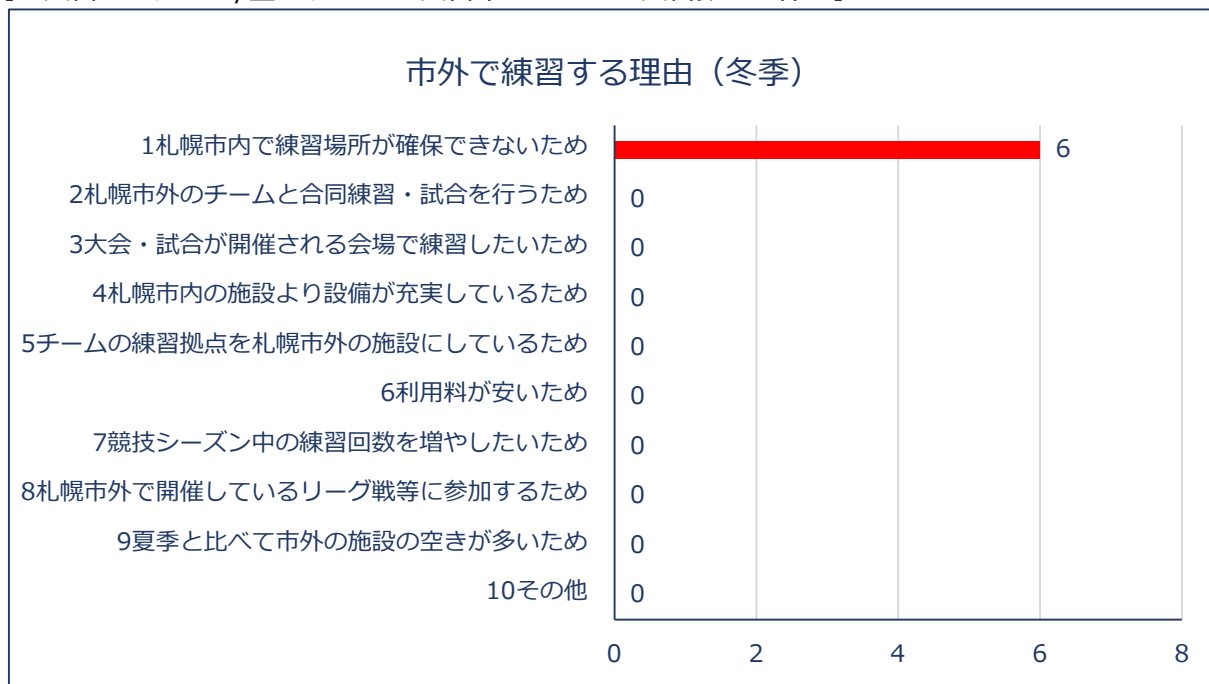
②フィギュアスケート

【 回答：5 チーム/全 14 チーム 回答率：36 % 回答数：9 件 】



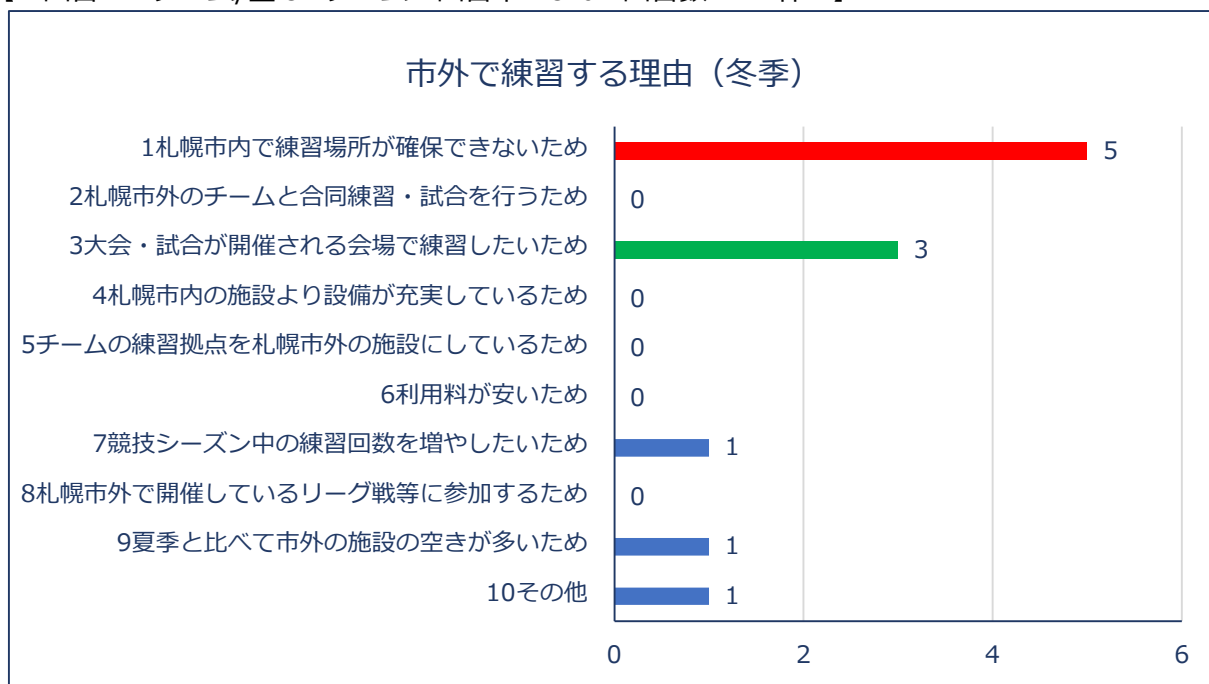
③スピードスケート・ショートトラック

【 回答：6チーム/全6チーム 回答率：100% 回答数：6件 】



④カーリング

【 回答：7チーム/全87チーム 回答率：8% 回答数：11件 】



※その他の内容

カーリング

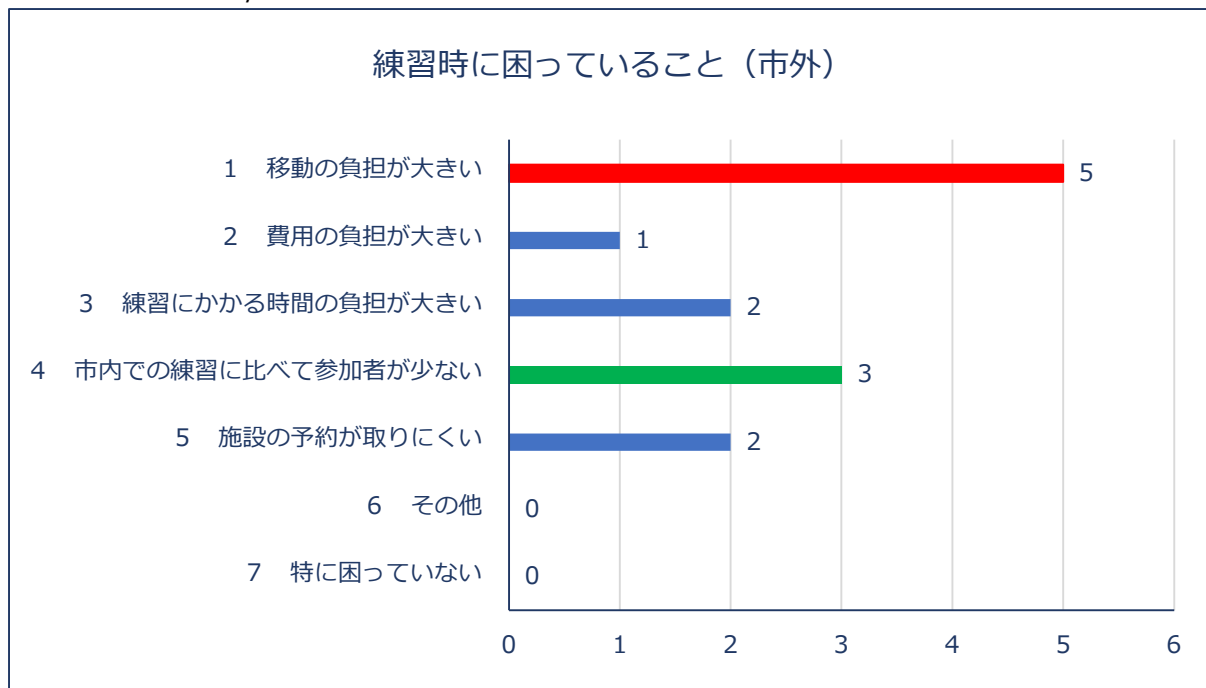
- ・「いろんな施設のアイスの癖に対応できるようにするため」

設問 14. 問 5、6 で「市外の施設」にチェックを入れた方にお聞きします。

札幌市外で練習する場合に困っていることを教えてください（上位 3 つまで）

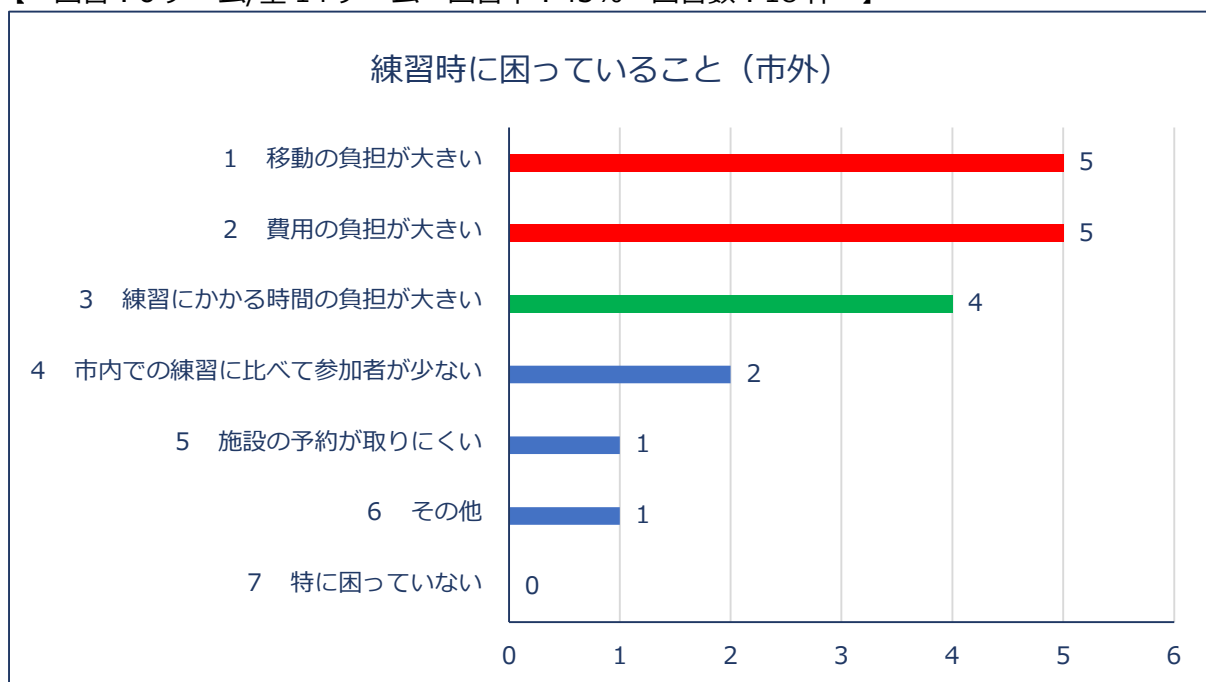
①アイスホッケー

【 回答：5 チーム/全 68 チーム 回答率：7% 回答数：13 件 】



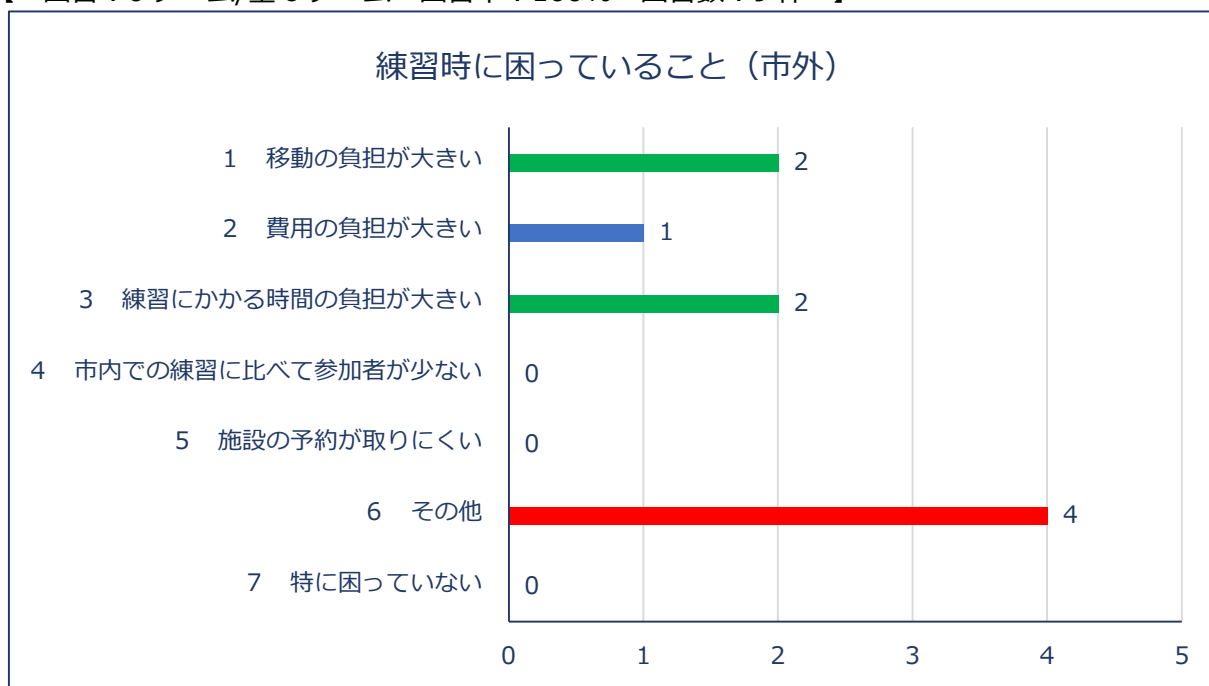
②フィギュアスケート

【 回答：6 チーム/全 14 チーム 回答率：43% 回答数：18 件 】



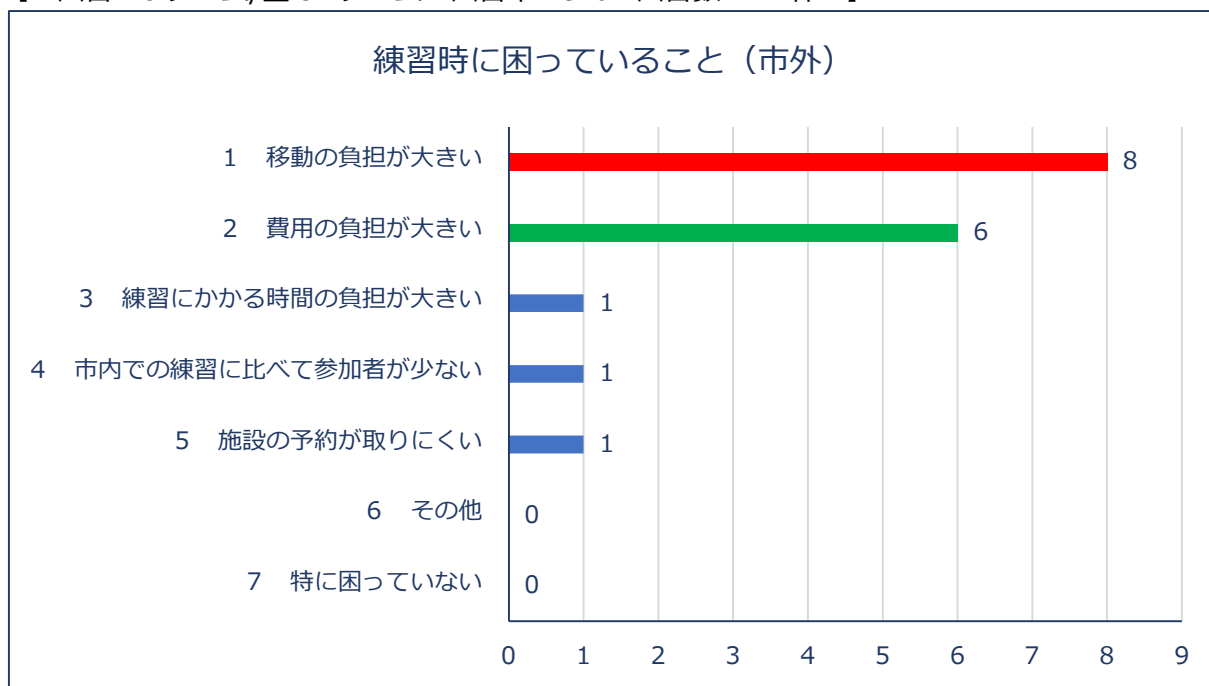
③スピードスケート・ショートトラック

【 回答：6チーム/全6チーム 回答率：100% 回答数：9件 】



④カーリング

【 回答：8チーム/全87チーム 回答率：9% 回答数：17件 】



※その他の内容

フィギュアスケート

- ・「練習場所が毎日違うので予定が立てられない。毎月月末ぎりぎりにならないと翌月の貸切がわからない」
- ・「移動時間のロス、深夜帰宅など練習以外の体力消耗が多く移動手段の無い子は練習参加が出来ないことがある」

スピードスケート・ショートトラック

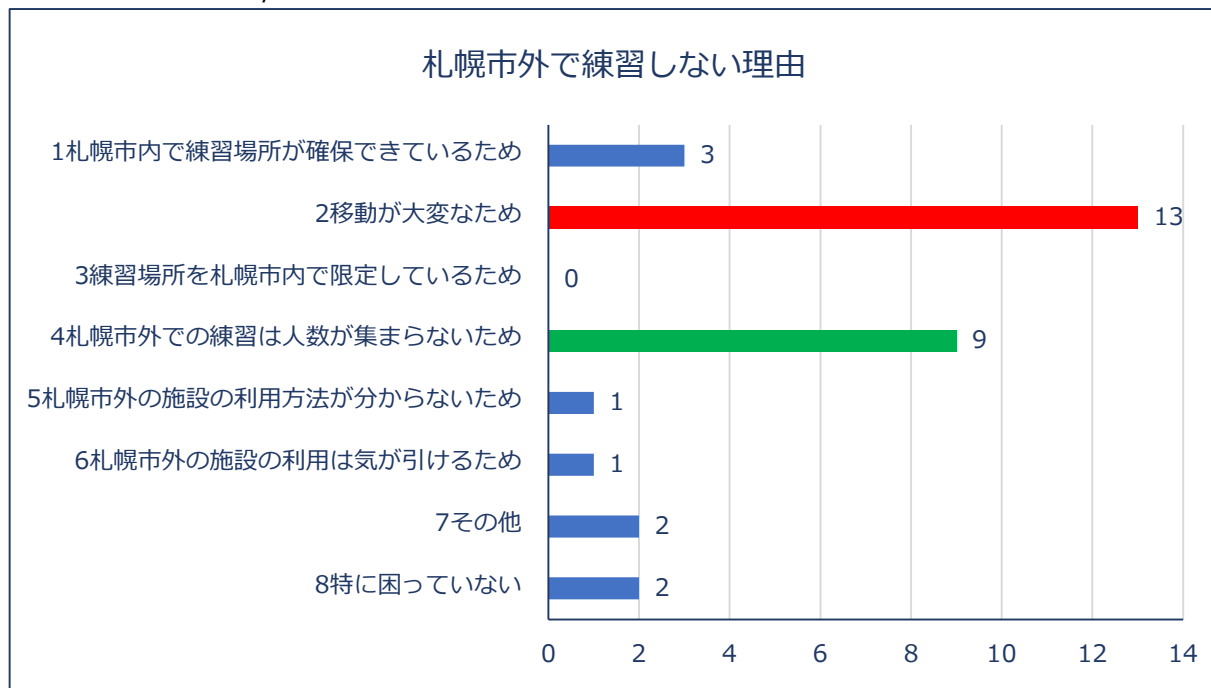
- ・「利用したい練習施設がない」

設問 15. 問 5、6 で「市外の施設」にチェックを入れなかった方にお聞きします。

札幌市外で練習しない理由を教えてください（上位 3 つまで）

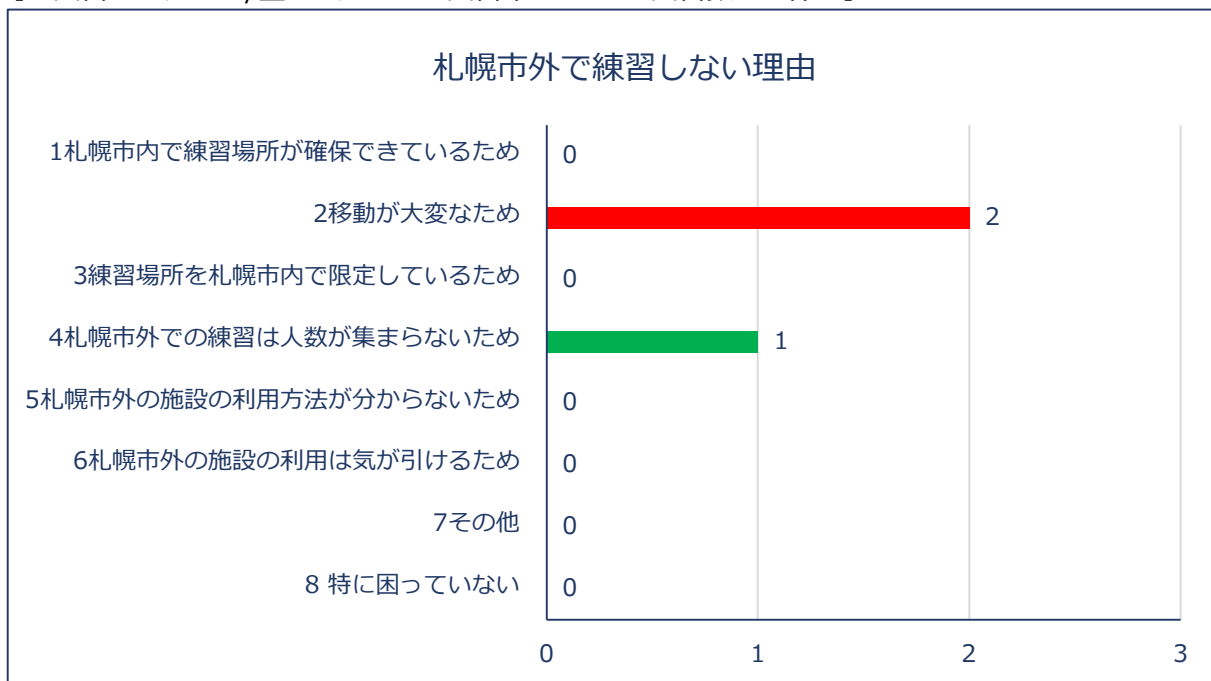
①アイスホッケー

【 回答：16 チーム/全 68 チーム 回答率：24% 回答数：31 件 】



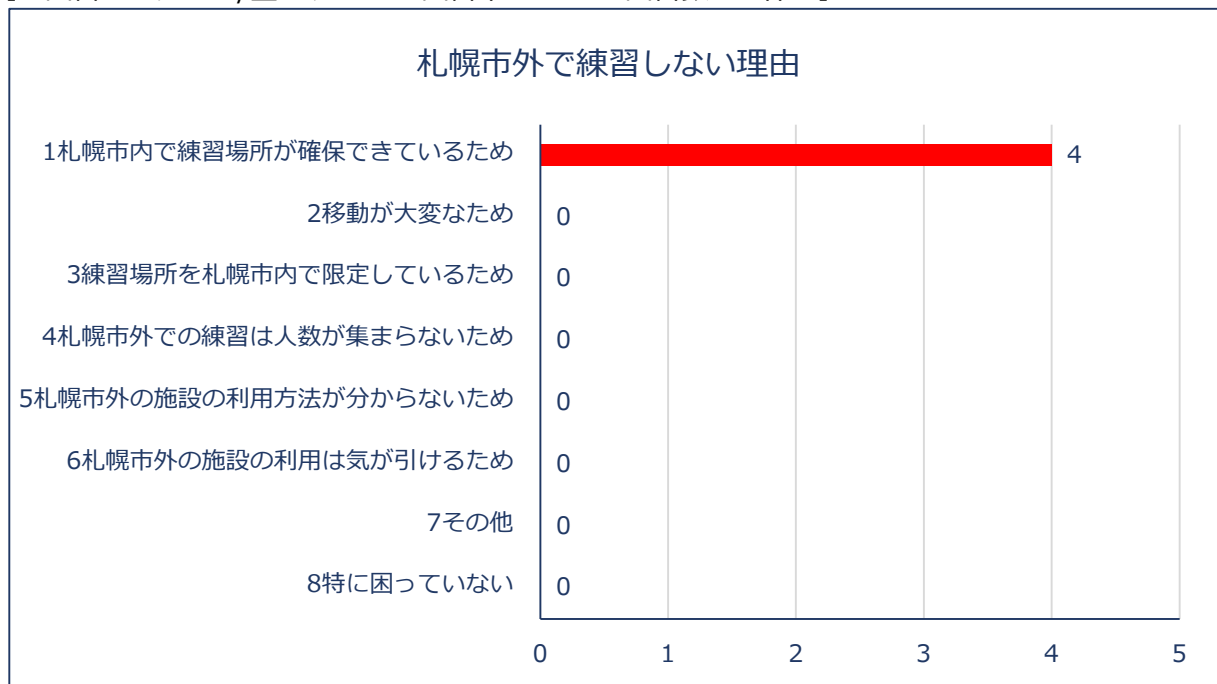
②フィギュアスケート

【 回答：2 チーム/全 14 チーム 回答率：14% 回答数：3 件 】



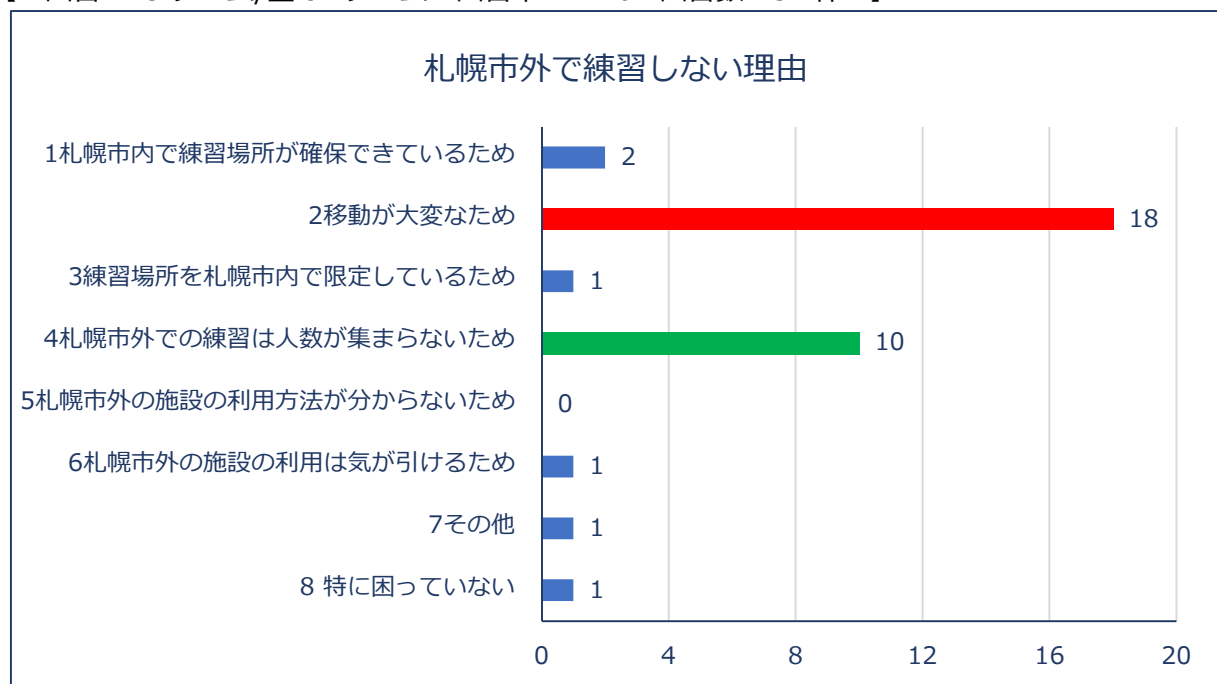
③スピードスケート・ショートトラック

【 回答：4 チーム/全 6 チーム 回答率：67% 回答数：4 件 】



④カーリング

【 回答：19 チーム/全 87 チーム 回答率：22% 回答数：34 件 】



※その他の内容

アイスホッケー

- ・「1 時間 30 分の練習をするために、往復 4 時間もかかる」
- ・「練習試合の相手が見つからないため」

カーリング

- ・「札幌で取れない時や合宿の時だけ行っているため、行く頻度が少ない」

設問 17. 施設の利用回数に制限がない場合、どのくらいで練習したいですか

①アイスホッケー

【 月平均回答 : 20 チーム/全 68 チーム 回答率 : 29% 回答数 : 20 件 】

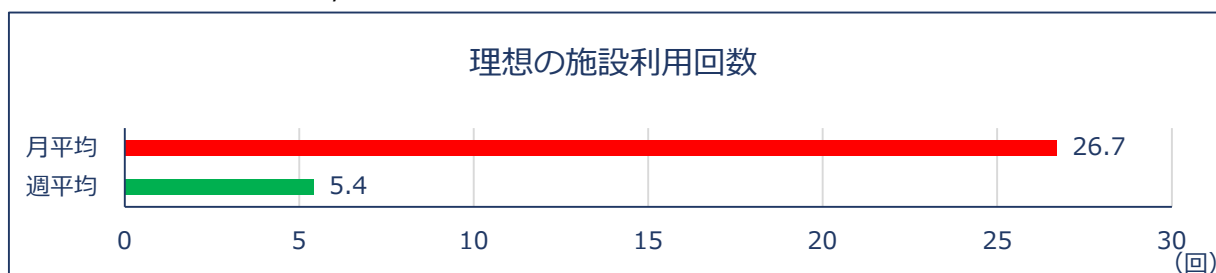
【 週平均回答 : 13 チーム/全 68 チーム 回答率 : 19% 回答数 : 13 件 】



②フィギュアスケート

【 月平均回答 : 6 チーム/全 14 チーム 回答率 : 43% 回答数 : 6 件 】

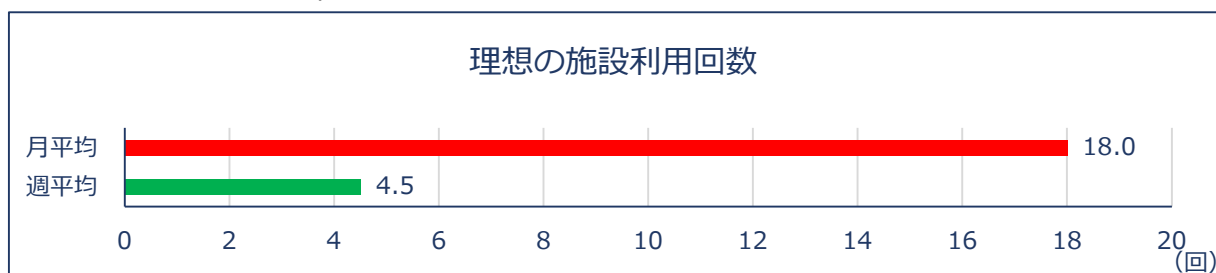
【 週平均回答 : 7 チーム/全 14 チーム 回答率 : 50% 回答数 : 7 件 】



③スピードスケート・ショートトラック

【 月平均回答 : 6 チーム/全 6 チーム 回答率 : 100% 回答数 : 6 件 】

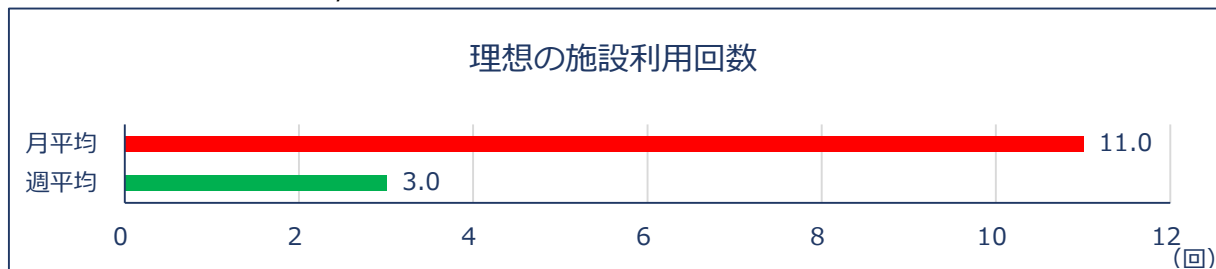
【 週平均回答 : 6 チーム/全 6 チーム 回答率 : 100% 回答数 : 6 件 】



④カーリング

【 月平均回答 : 28 チーム/全 87 チーム 回答率 : 32% 回答数 : 28 件 】

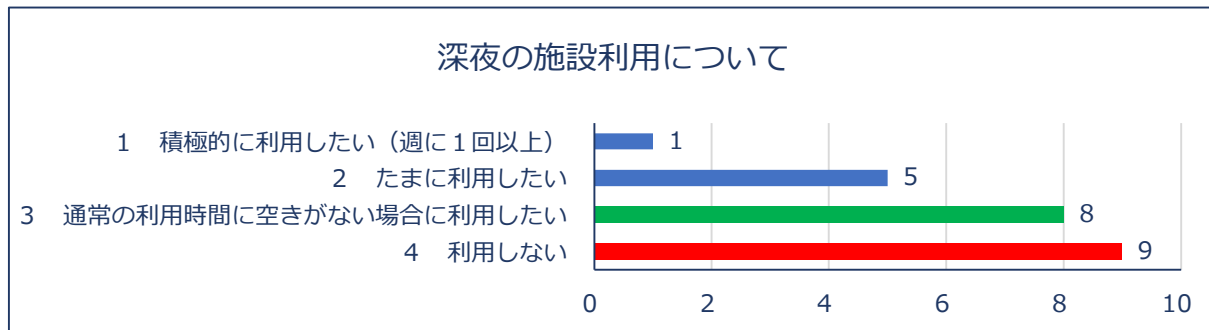
【 週平均回答 : 31 チーム/全 87 チーム 回答率 : 36% 回答数 : 31 件 】



設問 18. 施設が 24 時間利用可能になった場合深夜(23 時～6 時)に利用しますか

①アイスホッケー

【 回答：22 チーム/全 68 チーム 回答率：33% 回答数：23 件 】



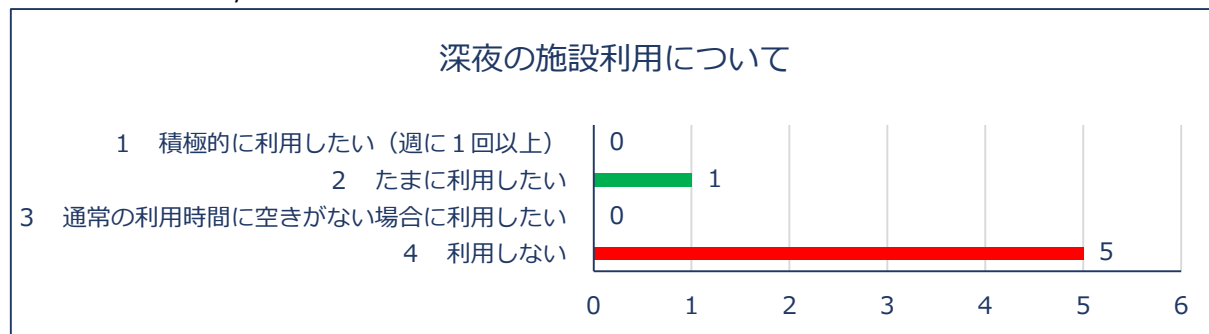
②フィギュアスケート

【 回答：7 チーム/全 14 チーム 回答率：50% 回答数：8 件 】



③スピードスケート・ショートトラック

【 回答：6 チーム/全 6 チーム 回答率：100% 回答数：6 件 】



④カーリング

【 回答：36 チーム/全 87 チーム 回答率：41% 回答数：36 件 】



(2) パブリックコメント

■意見募集期間

令和5年（2023年）10月11日（水）～11月10日（金）

■意見提出方法

郵送、持参、FAX、電子メール

■資料の配布・閲覧場所

- ・札幌市スポーツ局スポーツ部施設課（施設整備担当課）
（札幌市中央区北2条西1丁目1番地7 ORE札幌ビル9階）
- ・札幌市役所本庁舎2階市政刊行物コーナー
- ・札幌市内の市有スポーツ施設
（美香保体育館、月寒体育館、星置スケート場、どうぎんカーリングスタジアム、
スポーツ交流施設（つどーむ））
- ・各区役所
- ・各まちづくりセンター
- ・札幌市公式ホームページ

■意見提出者数及び意見数

意見提出者数26人、意見数65件

・年代別内訳

年代	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明
人数	0	0	3	6	10	4	1	2
件数	0	0	9	14	25	10	1	6

・居住地別内訳

居住地	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	※市内	市外	不明
人数	5	4	3	0	0	3	2	1	2	1	1	2	2
件数	17	8	3	0	0	3	7	5	8	4	1	5	4

※居住区不明

・提出方法別内訳

方法	郵送	FAX	電子メール	持参
人数	5	1	20	0
件数	8	1	56	0

■意見の概要と札幌市の考え方

・序章

意見無し

・第1章 目標・方針

No.	意見の概要	札幌市の考え方
1	新たな施設を建築する場合、目的や有効利用の方向性をしっかりと整理してほしい。	本構想では市内におけるアイスリンクについて、将来に向け必要な機能や役割などを明らかにしたうえで、新たに更新が必要と考える施設については、その目的や方向性を整理することとしています。 なお、新たな施設整備に係る、より具体的な内容は、本構想で整理した必要な機能・役割に基づき、個別の基本計画等で明らかにしていきます。
2	市民が容易にスポーツに触れ合うことができる施設環境が必要と考える。健康を享受しやすい都市の実現のためにも、スポーツに触れ合える機会の確保と優れたアスリートの育成が行える施設の充実を期待している。	札幌市では、市民がスポーツに関わり、心身の健康増進、生きがいに満ちた生き方を目指すことができるよう、ライフステージや体力に応じたスポーツ活動を推進することとしています。 このため、ウインタースポーツの振興に取り組むこととしており、今後、氷上競技の振興・裾野拡大などに向け、本構想に基づき、現在不足している機能を確保していきたいと考えています。
3	月寒体育館移転計画方針である札幌ドーム敷地内においては、レバンガ北海道のホームアリーナとして多目的アリーナを整備するとの報道もあるが、このことと本アイスリンク基本構想との関係はあるのか。	本構想は、市内におけるアイスリンクについて、将来に向け必要な対応を明らかにすることを目的としており、アリーナに係る内容は含んでおりません。 なお、アリーナは、「札幌ドーム周辺地域におけるスポーツ交流拠点基本構想（R4.1 策定）」において、拠点形成に向けた「みる」スポーツ機能の強化のため、整備を検討することとしています。

・第2章 アイスリンクの現状

No.	意見の概要	札幌市の考え方
4	フィギュアスケート、ショートトラックの夏季のリンクが半減するとの事だが、大きな大会・アイスショーをつどむや札幌ドームにリンクを設営し開催できないか。	フィギュアスケート及びショートトラックの大会等については、市内4か所のスケートリンクを使い分けて開催しており、今後も同様の対応により大会等の受け入れは可能と考えています。なお、つどむや札幌ドームでの大会・アイスショーの開催については、仮設リンクを設置して実施することは可能と考えます。
5	スピードスケートの国際大会を札幌ドームにリンクを設営し開催できないか。その場合、オリンピックでは真駒内屋外競技場を開閉会式の会場にしてはどうか。	スピードスケートトラックは札幌ドームのアリーナ面に収まらないため、設置する場合はコースの一部がオープンアリーナ側（屋外）に出てしまうこととなります。その場合、多くの客席ではリンク全体を見渡せなくなるほか、様々な技術面での課題もあります。北海道・札幌 2030 オリンピック・パラリンピック冬季競技大会概要（案）更新版における会場配置計画においては、既存施設を最大限活用するとともに多くの方にオリンピックを直接体験してもらえよう、開閉会式は市内で最大の収容人数を誇る札幌ドームを活用することを想定しておりました。
6	札幌市内で事実上通年対応できないスピードスケートトラックに関して、全国的に不足していると考えられるので、新設しないのはなぜか。札幌市が冬季オリンピックを行いたいと思っていたのであれば、競技環境として、スピードスケートトラックの整備が本来では必要ではなかったのか。	新たな施設整備を行うにあたっては、利用二重や建設費・維持管理運営費の負担など、様々な観点から判断することが必要であり、人口減少等の社会情勢の変化などを踏まえると、現状では通年対応できる屋内スピードスケート場の新設は困難です。なお、冬季オリンピック招致にあたっては、IOCが既存施設の最大限の活用を奨励していることなども踏まえ、道内唯一の屋内スピードスケート場である帯広の森屋内スピードスケート場を利用する計画としておりました。

・第3章 アイスリンクの将来像

No.	意見の概要	札幌市の考え方
7	既存施設の延長線としての整備に留まらず、各種国際大会にも対応できるようなワンランク上の施設作りを目指して、妥協しないしてほしい。札幌だけでなく、北海道、日本、東アジア地域においての拠点になるようなアイスリンクを目指して、市民にもその利益を享受できるようにしてほしい。	人口減少社会や超高齢社会の進展が予測されている中、今後も市民がスポーツに親しめる環境を確保していくためには、効率的・効果的な施設配置など、持続可能な施設環境としていく必要があると考えています。 そうした中、大会等の開催にあたっては、市内にある施設全体で、国際大会にも対応できる施設環境としていくことにより、世界トップレベルのプレイを観る・魅せる場を確保していきたいと考えています。
8	アイスホッケー、フィギュアスケートの利用施設として札幌ドーム内に設置してはどうか。 札幌ドーム周辺に建物を建設すると駐車場不足になり集客も望めなくなると考える。 【関連意見1件】	アイスホッケー、フィギュアスケートについては、日常的に練習等を行う場が必要と考えています。一方、札幌ドームは、プロスポーツやコンサートなど様々な利用があり、日常的にスケートリンクを設置することは困難です。 なお、札幌ドーム周辺に建物を建設することは未定ですが、建設する場合には、その対応を含めた検討が必要であると認識しています。
9	札幌ドーム周辺の用地取得が確定していない現時点で、札幌ドーム敷地内という限定されたエリアでの整備費用について比較評価が示されておらず、高次機能交流拠点の形成について具体的な説明がなされていないことから、札幌ドーム周辺を候補地として決定する理由が成立していないと思う。現時点でアリーナの取扱いを明記できないのであれば、今後検討していくことを明記すべきであり、その取扱いが比較評価に関わると思われるため、当基本構想案で新月寒体育館の立地場所を決定するのは拙速である。	人口減少社会や超高齢社会が進展していく中、今後も市民がスポーツに親しめる環境を確保していくためには、効率的・効果的な施設配置など、将来にわたり持続可能な施設環境としていく必要があると考えています。 加えて、新たな施設整備にあたっては、まちづくりへの寄与など、全市民的な観点から、その整備効果を高めていくことが必要と考えています。 こうしたことから、新月寒体育館については、令和4年1月に策定した「札幌ドーム周辺地域におけるスポーツ交流拠点基本構想」によりスポーツ施設の集約化・機能の複合化等を掲げている、札幌ドーム周辺を立地場所の候補地としています。 最終的な立地場所については、個別の基本計画等において、いただいたご意見も参考にしながら、今後検討していきます。 なお、本構想は、市内におけるアイスリンクについて、将来に向け必要な機能や役割などを整理することを目的としており、アリーナについては、別途検討を進めていきます。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
10	つどーむ敷地内のパークゴルフ場等既存施設について、本アイスリンク基本構想の中で触れられていない。アイスリンクの整備により廃止されるのであれば、代替施設の整備をしてほしい。	新美香保体育館の立地場所については、つどーむ敷地内を候補地としており、最終的な立地場所については、個別の基本計画等において、いただいたご意見も参考にしながら、今後検討していきます。 その結果、既存施設に影響が生じることとなった場合は、いただいたご意見も参考にしながら、対応を検討していきます。
11	現在の月寒体育館は地下鉄駅からの距離が近く利用しやすいと思うので、新月寒体育館は今の場所に建て替えることを検討してほしい。 【関連意見 1 件】	人口減少社会や超高齢社会が進展していく中で、今後も市民がスポーツに親しめる環境を確保していくためには、効率的・効果的な施設配置など、将来にわたり持続可能な施設環境としていく必要があると考えています。 加えて、新たな施設整備にあたっては、都市の魅力向上やまちづくりへの寄与など、その整備効果を高めていくことも必要と考えています。
12	新美香保体育館の候補地については、現在の美香保体育館が住宅地のなかにあり、冬期間だけではあるが、小中学生が友人同士で気軽にスケートを楽しむことができるという利点をもう少し重要に思っしてほしい。	これらの観点から、新月寒体育館については札幌ドーム周辺、新美香保体育館についてはつどーむを立地場所の候補地としています。 最終的な立地場所については、個別の基本計画等において、いただいたご意見も参考にしながら、今後検討していきます。
13	氷上競技の振興・裾野拡大のため、現月寒体育館・現美香保体育館解体後の跡地にスケートリンクの機能を含めた施設を建設してほしい。 【関連意見 1 件】	既存施設の跡地利用については、持続可能な施設環境の実現にあたり、本構想で整理する施設数を超えるスケートリンクを建設することは困難と考えています。
14	通年リンクを 2 つは確保し続けて競技人口を減らさないでほしい。	本構想では、利用状況や需要などから、新美香保体育館を通年リンクとし、新月寒体育館および星置スケート場を含め、3つの通年リンクを確保することとしています。 将来的な対応については、需要に応じ、適時検討していきます。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
15	フィギュアスケートの練習環境が不足しているため、月寒体育館、星置スケート場の他にもう 1 か所夏場のスケートリンクを確保してほしい。円山地区や中央区にリンクを確保しないと、フィギュアスケートの底上げにならない。 【関連意見 1 件】	市内における夏季の競技環境不足の改善に向け、新美香保体育館においては、スケートリンクを通年リンクとすることを検討していきます。 なお、立地場所については、全市的な市民のアクセス性を考慮し、市内で均衡ある配置が必要と考えていることから、これまでと同様、市内に分散配置することとしています。
16	現状では専用利用の枠も足りないとのことなので新月寒体育館にはスケートリンクを 2 面(メインリンクとサブリンク)つくることも検討してほしい。 【関連意見 2 件】	新たな施設整備にあたっては、人口減少等の時代の変化や将来的な見通しを踏まえ、需要や建設費・維持管理運営費など、様々な観点から慎重に判断することが必要と考えています。 こうした考えに基づき検討したなかで、スケートリンクについては、市内における夏季の競技環境不足の改善が必要と判断し、新美香保体育館のスケートリンクを通年リンクとすることを検討しています。
17	競技専用リンクと市民の方が使うリンクを 2 つに分けた構造のスケートリンクを整備してほしい。	効率的・効果的な施設配置など、将来にわたり持続可能な施設環境としていく必要があるため、専用リンクは設けず、競技利用と一般利用の利用時間を分けるなど、運営を工夫し対応することを検討します。
18	新美香保体育館を通年リンクにして、フィギュアスケートとスピードスケートの専用にすると良いと考える。リンクを大小 2 面作り、小はカーリングでも使えるようにすると良い。	本構想では、新美香保体育館のスケートリンクを通年化し、競技利用についてはフィギュアスケート及びショートトラックの公式試合に対応する機能を確保することとしており、こうした施設機能に基づき整理してまいります。 なお、カーリングについては、スケートと求められる氷の質が異なることから、専用リンクが必要と考えています。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
19	新美香保体育館のカーリング専用通年5シート新設に賛同。もし今後積極的に世界大会を誘致するのであれば、スケートリンクとカーリングリンク共用の客席を設置できれば有効活用ができるのではないかと思います。	客席の設置場所や構造など、新しい施設の具体的な設えについては、競技種別や大会規模に適切に対応することを基本として、いただいたご意見も参考にしながら、今後検討していきます。
20	道内の他のカーリング施設のように、観客席が競技フロアとガラスで区切られていれば、寒い思いをせずゆっくり楽しめていいと思う。	
21	高次機能交流拠点化への機能確保のため、「観る・魅せる」観点からも観客席のあり方の検討が必要と考える。	
22	整備手法として、PPP/PFIの手法をとると記載があるが、マーケットサウンディング等で民間事業者側の参入が見込めない場合についてはスケートリンクの建て替えは行わないと考えていいのか。	事業手法については、PPP/PFIも想定される事業手法の一つとして、民間活力の活用が可能となる最適な方法を検討していきます。 その結果、民間事業者の参入が見込めない場合は、代替の事業手法を検討します。
23	今後人口減少が懸念されることから、スケートリンクに関して月寒体育館と美香保体育館を統合し、1施設とするのが望ましいのではないかと。	札幌市では、将来の人口減少等の社会情勢の変化に対応していくため、人口に見合った施設規模への適正化を図る一方、市民が気軽にスポーツに親しむことができる施設環境の確保に向け、効率的・効果的な施設配置を進めていくこととしています。 スケートリンクについては、利用状況やニーズなどから、今後も欠かすことが出来ない機能であるため、月寒体育館及び美香保体育館の後継機能が必要と判断しました。この実現にあたっては、他施設との集約・複合化などによる施設整備を検討していきたいと考えています。
24	カーリング専用シートの増設について、通年対応型カーリング施設が、すでに道内に多くあり、他競技の練習施設の状況と対比して考えると充足しているのではないかと。 観客席が不足しているため、どうぎんカーリングスタジアムのほかに別途施設を設けるのは建設当初の見込み設定についても疑念が残ると思われるので、再検証が必要ではないかと。	札幌周辺では、通年でカーリングが可能な施設はどうぎんカーリングスタジアムのみです。 また、カーリングは、学校や民間施設でも可能な競技とは異なり、代替できる施設がないため、機能拡充が必要と考えています。 観客席について、国際大会などは、約2,000席を有する月寒体育館にカーリングシートを仮設して開催しており、今後も同様の対応を想定しています。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
25	ショートトラック、カーリングに関して、星置スケート場で対応可能となれば、カーリング練習施設不足等に対応できるのではないかと。星置スケート場のショートトラック、カーリング対応改修を行わない理由に関して回答してほしい。	ショートトラックについては、セーフティマットが必要となりますが、現在の星置スケート場では駐車場等含めその保管場所を確保することができず、ショートトラック対応施設にするためにはセーフティマットの保管場所を備えた施設に建て替える必要があります。 カーリングについては、スケート用と氷の質が異なることから、同じリンクでスケートとカーリングの両方の競技で利用することは困難であり、カーリング対応施設に改修した場合、アイスホッケー及びスケートでご利用いただくことが出来なくなります。 市内のアイスホッケー及びフィギュアスケートで利用できる施設は限られており、星置スケート場は、1年を通じて一般利用のほか、アイスホッケー及びフィギュアスケートに利用されておりますので、星置スケート場をカーリング対応施設に改修することは困難です。
26	新施設は、メインリンクとサブリンクを併設した施設とし、通年利用できるリンクは、市内で星置スケート場と新施設の2か所でよいのではないかと。	メインとサブのスケートリンクを併設した場合、大規模な大会などへの対応が容易になるなどの効果があります。 一方で、既存施設と同様に、市内に分散配置した場合には、全市的な市民のアクセス性が向上し、氷上競技に触れられる機会の確保に効果的であると考えています。 以上を踏まえ、本構想では、日常的な利用しやすさを確保したうえで、非日常的な利用となる大会対応については、市内にある施設全体で対応していくこととしています。
27	月寒体育館のリンク移転により、スケートリンクの施設利用がしづらくなるのは困るので、対策を考えてほしい。スケートの荷物は多くなることが多いため、小さな子たちと利用する場合、公共交通機関のみで利用するのは難しい。	各後継施設については、いただいたご意見も参考にしながら、今後、個別の整備基本計画等において、市民のアクセス性確保のほか、まちづくり上の効果なども踏まえ、具体化に向けた検討を進めていきます。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
28	もし、新月寒体育館の整備内容が、通年アイスリンクだけではなく、アリーナも併せて整備する構想があるのであれば、施設の規模や整備内容に大きく関わってくるため、整備内容に関する基本的な情報を当構想案に示したうえで、意見を募集すべき。	本構想は、市内におけるアイスリンクについて、将来に向け必要な機能や役割などを整理することを目的としており、アリーナについては、別途検討を進めていきます。 各後継施設の具体的な施設規模や整備内容については、今後、個別の整備基本計画等において、整理していく予定です。

・第4章 今後の進め方

No.	意見の概要	札幌市の考え方
29	新月寒体育館が札幌ドームに隣接した場合、札幌ドームの利用と競合することが想定されるため、双方の関係性・役割などヒアリング等調査の上、規模を決めるべき。	本構想の対象である現月寒体育館のスケートリンク機能は、候補地である札幌ドーム周辺に移転した場合でも、札幌ドームと競合するものではないと考えています。 なお、別途検討を進めているアリーナを整備することとなった場合には、いただいたご意見も参考にしながら、取組を進めていきます。
30	交通機関の混雑や周辺道路の渋滞悪化を避けるために、新たな駐車場の設置や清田方面からの接続等アクセス及び交通計画の検討が必須と考える。	各後継施設の立地場所周辺における交通への影響及び必要な対応については、いただいたご意見も参考にしながら、個別の整備基本計画等において、検討していきます。
31	現在の月寒体育館は、和式トイレが活躍していて物販スペースも通路に即席で設ける形となっており、施設の寿命より先に興行として利用されなくなると思うので、施設をアップデートすることでフィギュアスケートの競技大会やアイスショー、アイスホッケーの大会開催の幅も広がると期待する。	各後継施設に備える具体的な機能については、個別の整備基本計画等において、いただいたご意見も参考にしながら、今後検討していきます。
32	現在の月寒体育館を建て替えるだけでなく全国大会や国際大会(障がい者スポーツ含む)開催も可能とするためのアップデートを要望する。	
33	リンクを見渡すことができる場所にヒーティングルームを作ってほしい。	
34	アイスリンクを新たに整備する際、アイスショーやコンサートなどの興行にも対応できる仕様にしておくと、活用方法に幅ができ、収益を上げることができると思う。	
35	アイスリンクを維持するうえで電力は必要不可欠であり、発電方法にもいろいろな検討が必要と考える。	
36	コーチ室や研修室を完備し、選手と一般客の動線を考慮してほしい。	

No.	意見の概要	札幌市の考え方
37	エネルギー費用が高騰傾向にあるため、これらのリスクについて、行政側と運営側で相応の負担をする仕組みを導入すべき。	各後継施設の整備・運営手法については、個別の整備基本計画等において、事業環境や考慮が必要な条件等を踏まえながら、公募を原則としつつ、PPP/PFI など民間活力の活用が可能となる最適な手法を検討していきます。
38	新施設の運営には民間企業を関わらせ、職員への研修・資格取得促進に努めるべき。特にクレーム対応研修を行ってほしい。	
39	札幌ドームとアイスアリーナを併設し、両施設で連携した賑わいを創出することを想定する場合、民間による一体的な運営を検討すべき。	
40	新月寒体育館と新美香保体育館の整備にPFI方式を採用するなら、施設利用者となる予定のあるレバンガ北海道とそのスポンサー企業、全日本スケート連盟を参加させることが望ましい。今後は少子化・人口減少が見込まれるので効率的な建設計画が良いと思う。	
41	整備費のすべてを税金で賄うのではなく、ネーミングライツも含めた検討を早々に行う必要があると考える。	

・特定の部分に該当しないもの

No.	意見の概要	札幌市の考え方
42	これまで公表されたオリパラ開催概要案や、報道されてきた内容に対して、当基本構想案では通年アイスリンクのことにしか言及されていないため、必要な情報を明記すべき。	本構想は、冬季オリンピック・パラリンピックの開催に関わらず、市内におけるアイスリンクについて、施設利用や競技環境などの状況を踏まえ、将来に向け必要な機能や役割などを整理するとともに、その将来像の実現に向けた必要な対応を明らかにすることを目的としています。
43	アリーナの札幌ドーム周辺への集約・複合化においては、まちの賑わい創出に向けて核となる利便向上施設の設置が不可欠と考える。	本構想は、市内におけるアイスリンクについて、将来に向け必要な機能や役割などを整理することを目的としており、アリーナに係る内容は含んでおりません。 なお、アリーナやにぎわい施設については、「札幌ドーム周辺地域におけるスポーツ交流拠点基本構想（R4.1 策定）」において、拠点形成に向け整備を検討することとしています。
44	ウィンタースポーツを振興する方策の一つとして、アイスリンクと室内スポーツ施設を併設し、室内スポーツをしにきた人がアイスリンクを見学できるようにすればよいと思う。 本アイスリンク基本構想に、フロアボール（室内版アイスホッケー）施設の整備を盛り込み、目新しいコンテンツを普及していくという面白さを加えることで、アイスリンク利用者増が見込めると考える。	今後のアイスリンクの整備に当たっては、他施設との集約・複合化や民間活力の導入などにより、効率的・効果的な施設配置を進めていくこととしています。 それにより、施設整備・運営の効率化が図られるだけでなく、他の目的で訪れた利用者が氷上競技に触れる機会ともなり、利用者の利便性向上やウィンタースポーツの振興につながると考えています。 なお、フロアボールなど、新たな競技施設の整備については、競技人口や実際の利用ニーズと、建設費・維持管理運営費の負担の妥当性から判断する必要がありますが、こうした観点から、現状では難しいと考えています。
45	アイスリンクの利用料が高い。	施設の利用料金につきましては、適正な受益者負担となるよう設定していますが、今後も適正な利用料金となるよう努めてまいります。
46	現施設の職員の対応が悪いため、「また、行こう」と思える対応をしてほしい。	多くの方に氷上競技に触れ親しんでいただけるよう、接遇改善に取り組んで参ります。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
47	助走のいらぬようなジャンプ練習や足を上げたりしないスピンでしたら危なくないと思うので許可してほしい。	施設の一般開放時は、みなさまが安全にご利用できるよう、他の利用者との接触や転倒につながる行為は禁止していますのでご理解ご協力をお願いします。
48	学校の授業でもどんどんスケートを取り入れて、スケート人口を増やしていくべき。 【関連意見 1 件】	現在も、近隣のアイスリンクを活用した授業や課外活動を行っている学校もありますが、更なる学びの充実に向けて、いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。
49	専用利用は競技をしている個人、チームが利用する機会が多いと思うがもう少し一般の利用者にも使えるように一般開放の時間を増やすことはできないものか。	施設の専用利用・一般開放の時間については、より多くの方にご利用いただけるよう利用者ニーズ等をもとに設定しています。今後も、いただいたご意見を参考に、より多くの方にご利用いただける開放方法を検討していきます。
50	施設の利用時間帯や利用可能日などについて、利用する市民の層を考えて設定すべき。 【関連意見 1 件】	施設の供用方法については、いただいたご意見も参考にしながら、今後検討していきます。
51	駐車場は無料で使用できるようにしてほしい。	駐車場の利用方法については、いただいたご意見も参考にしながら、今後検討していきます。

・その他 ※参考意見として、趣旨のみ掲載します。

No.	意見の概要
52	札幌市にアイスホッケーのプロチームが存在しないため、札幌にプロチームがあり、ドーム競技場が目に残ればアイスホッケーの世界大会招致も可能になっていくものとする。 【関連意見 1 件】
53	新美香保体育館の候補地としているつどーむ敷地は、地下鉄栄町駅から徒歩圏内で良いと思う。近隣の小中学校、高校などの授業で利用できたら、よりカーリングの裾野を広げ、将来のオリンピックを目指す子供達が増えるのではと楽しみ。隣接した丘珠空港を利用して市外から来る人にも期待したい。
54	美香保体育館の移転により、スケートリンクが通年利用できるようになると、夏場のリンクの分散が図られ、密集することが少なくなるので利用しやすくなり、いいと思う。
55	1972 年の冬季五輪に併せて建てられた施設が多く、設備が最新の基準に合っていない。観光資源として通年受け入れられる施設を複数持つことで、国内外の方がウィンタースポーツに触れる機会を得られると思う。 道具をレンタルでき手軽に体験し、その後は市内周辺を観光する、札幌という街は可能性を多く持っているため、多くの人に愛される施設を目指してほしい。
56	どうぎんカーリングスタジアムが飽和状態であることは実感しており、複数のカーリング場ができることで利用枠の奪い合いが解消されるだけでなく、企業や学校等の観光体験として積極的に開放してウィンタースポーツに触れてもらう機会になればと願う。

II 用語解説

「あ」行の用語

インフラ（P 1、3）

鉄道、道路、上下水道、公園、学校や区役所等の建築物など、都市を構成する基盤となる構造物。

ウインタースポーツの拠点都市（P 1、6）

ウインタースポーツの拠点としての環境・ライフスタイルが充実した都市。

ウインタースポーツ実施率（P 4、5）

20 歳以上で年 1 回以上ウインタースポーツを行った人の割合。

エンド（P 37、39、43）

カーリングにおける 1 回の攻守。1 エンドでは各チームが交代で 8 回、合計 16 回ストーンを投げる。

温室効果ガス（P 54）

二酸化炭素やメタンなど、大気中の熱を吸収する性質のあるガス。

日本は、2021 年 4 月に、2030 年度において、温室効果ガス 46%削減（2013 年度比）を目指すこと、さらに 50%の高みに向けて挑戦を続けることを表明。

「か」行の用語

カーリングシート（P 37、43、44）

カーリング競技を行うために整備された氷。長さ 45.72m、幅 5 m。アイスとも呼ばれる。

共生社会（P 6、53）

誰もが相互に人格と個性を尊重して支え合い、人々の多様なあり方を相互に認め合える全員参加型の社会。

健康寿命（P 7）

WHO が提唱した指標で、平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間。

高次機能交流拠点（P 6、7、9、49、50、51）

第 2 次札幌市まちづくり戦略ビジョン（ビジョン編）（令和 4 年 10 月 6 日策定）にて定義した、産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、北海道・札幌市の魅力と活力の向上に資する高次の都市機能が集積するエリア。

国際連合広報センター（UNIC）（P 8）

国連事務局のグローバル・コミュニケーション局（DGC）に所属する機関。日本において、国連とその活動について、人々の関心を高め、理解を深めるための活動を展開している。

コンクリートの中性化（P 12、26）

空気中の二酸化炭素とコンクリート中の水酸化カルシウムが反応して炭酸カルシウムになり、コンクリートのアルカリ性が低下する現象。中性化の進行により、内部の鋼材の腐食につながる恐れがある。

「さ」 行の用語

集客交流産業（P 7、50）

平成 14 年（2002 年）に策定した「札幌市集客交流促進プラン」において、「来札者への直接的なサービス提供（主なものとしては、飲食、買い物、レジャー、コンベンション、交通、宿泊）に関連する産業や来札者への情報提供（主なものとしては、観光企画、情報メディア）に関連する産業」と定義。

人口減少社会（P 1、9、49）

継続的に人口が減少していく社会。

スポーツ実施率（P 4、5）

20 歳以上で週 1 回以上の運動やスポーツを行う人の割合。

「た」 行の用語

地域交流拠点（P 6、9、49、50、51）

第 2 次札幌市まちづくり戦略ビジョン（ビジョン編）（令和 4 年（2022 年）10 月 6 日策定）にて定義した、主要な交通結節点周辺や区役所周辺などで、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能が集積し、人々の交流が生まれ生活圏域の拠点となるエリア。

超高齢社会（P 1、9、49）

総人口に占める 65 歳以上の人口割合が 21%を超える社会。なお、7%以上 14%未満を「高齢化社会」14%以上 21%未満を「高齢社会」と呼ぶ。

直接スポーツ観戦率（P 5）

18 歳以上で年 1 回以上直接スポーツ観戦をした人の割合。

ディーセント・ワーク（P 8）

働きがいのある人間らしい仕事。より具体的には、自由、公平、安全と人間としての尊厳を条件とした、全ての人のための生産的な仕事を指す。

デフカーリング（P 37、39）

聴覚障がい者により行われるカーリング競技。

都市機能誘導区域（P 50）

札幌市立地適正化計画（平成 28 年（2016 年）3 月策定）にて定義した、医療・福祉・商業等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に誘導し集約することにより、これらの各種サービスの効率的な提供を図る区域。

「は」 行の用語

ビジネスパーソン（P 4）

会社員や個人事業主、フリーランスなどを含めた、企業で働く人やビジネスを営む人などの総称。

PPP/PFI（P 45、53）

PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）は官民が連携して公共サービスの提供を行う手法。PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）は PPP の代表的な手法の一つで、民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共工事の手法。

プロフィットセンター（P 7）

企業等において、営業部門、営業企画部門、製造部門など稼ぎのある部門。

「や」 行の用語

ユニバーサルデザイン（P 53）

文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの違いにかかわらず、出来るだけ多くの人が利用できることを目指した建物・製品・情報などの設計（デザイン）。

「ら」 行の用語

レクリエーション（P 14、35、44）

仕事や勉強などの精神的・肉体的な疲れを、休養や娯楽によって癒すこと。また、そのために行う休養や娯楽。

レジリエント（P 8）

いち早く元の状態に回復できる力。

SAPPORO

札幌市アイスリンク基本構想

編集・発行 札幌市スポーツ局スポーツ部

〒060-0002 札幌市中央区北 2 条西 1 丁目 ORE 札幌ビル 9 階

TEL. 011-211-3045 FAX. 011-211-3046

<https://www.city.sapporo.jp/sports/icerink-kihonkousou.html>



さっぽろ市
01-E01-23-2629
R5-1-189